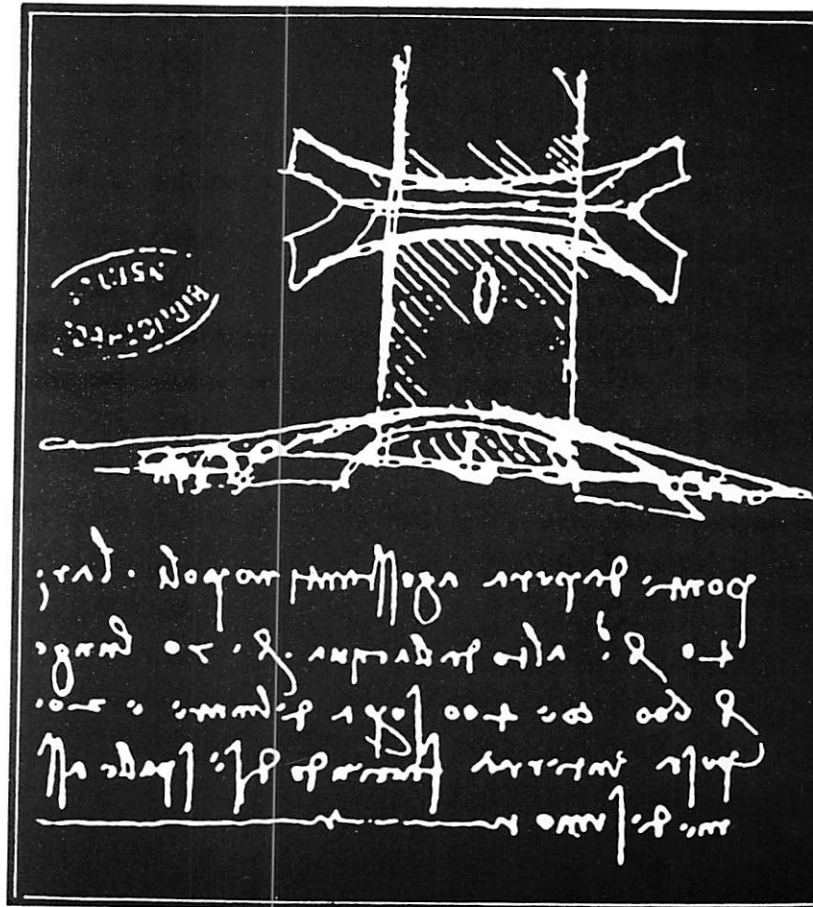


KABSE

23

九州橋梁・構造工学研究会会報
第23号 2006

KYUSHU ASSOCIATION FOR
BRIDGE AND STRUCTURAL ENGINEERING



表紙説明

レオナルド・ダ・ヴィンチの

ゴールデン・ホーン架橋計画

Leonardo da Vinci (1452-1519) は、一般に「モナ・リザ」、「最後の晩餐」、「聖アンナと聖母子」、「スフォルツァの騎士像」などを残した芸術家として知られている。しかし、一方では優れた科学者であり技術者でもあった。

彼は物理学、数学、天文学、生物学、医学、力学、機械工学、土木工学、建築学などにルネッサンスの最高水準を示し、近代科学技術の先駆者としての功績が大きい。その研究は5000ページを越える膨大なノートに残されている。

土木工学の分野では、橋梁、港湾、水門、運河、灌漑設備などをつくり、都市計画、大都市用の二階になった道路、下水工事計画なども行った。また、驚くべき近代地質学的意図ももっていた。

彼には夢があった。イスタンブールのゴールデン・ホーンに橋を架けることで、その着工をオスマン帝国のスルタンに進言した。表紙の図は、彼のノートに残されたこの橋の平面図と立体図である。1150フィートに達する橋の寸法は、彼独特の鏡文字で次のように書かれている。

「ベラよりコンスタンチノーブルに至る橋。幅員40ブラッチョ、水面からの高さ70ブラッチョ、長さ600ブラッチョ、うち400ブラッチョは海上、200ブラッチョは陸上にあり、自らは橋台の役を果す」

D. F. シュテュッシは詳しくしらべて、実現可能な計画としている。ミラノ国立科学技術博物館にはこの橋の模型がある（本誌創刊号参照）。

レオナルドは多くの分野にわたって重大な発明や発見をしたが、それらは彼のノートに埋もれたままだった。彼は、あまりにも時代に先行しすぎていたのである。

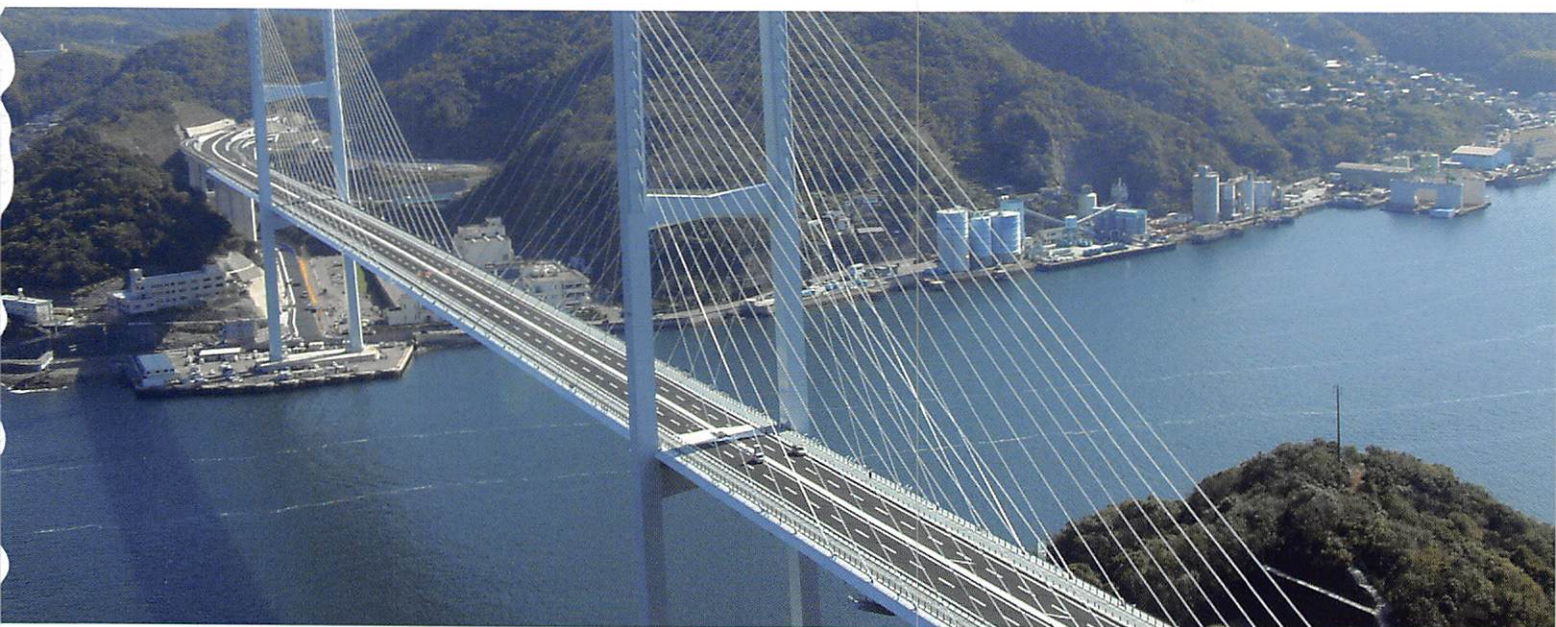
(東亜大学教授 山本 宏)

新九州の名橋 10



女神大橋

The Bridge in Kyushu



女神大橋

女神大橋は、重要港湾である長崎港の湾口に位置し、長崎市木鉢町と同市戸町を結ぶ延長1,289mの橋であり、主橋部が880mの斜張橋、中央径間が480mであり、斜張橋としては全国6番目の支間長を有しています。この橋は、主要地方道長崎南環状線の一部として県道の機能を有するほか臨港道路女神大橋線として港湾施設の機能を有することから、下部工は国土交通省の港湾直轄事業、上部工は長崎県の道路補助事業として整備されました。この橋の整備により、長崎市中心部に集中する交通の分散が図られ市内の交通混雑が緩和されるとともに、長崎港の東西に分散する港湾機能が有機的に結ばれ長崎港の物流の効率化が図られ、産業・経済活動に大きな効果を発揮すると期待されています。また、夜間にはライトアップされ、その姿は長崎港の夜景を一層魅力的なものにしてくれます。さらに、この橋は、両側に歩道が設けられており、橋上からの眺めを楽しめる長崎の新たな観光スポットとなることが期待されています。

女神大橋の概要

- ・ 橋 長：1,289m
- ・ 支 間 長：木鉢側：20,50+50m
本橋部：200+480+200m
戸町側：62+75+60m, 46+46m
- ・ 構造形式：木鉢側：単純非合成鈹桁，2径間連続鈹桁
本橋部：3径間連続鋼斜張橋
戸町側：3径間連続鋼箱桁橋
- ・ 設計荷重：B活荷重

The Bridge in Kyushu

新九州の名橋 10

新西海橋



新西海橋

新西海橋は、長崎市と佐世保市を概ね1時間で結ぶことを目的として整備中の地域高規格道路「西彼杵道路」の一部として整備された延長620mの橋です。この橋は、平成17年に供用開始50周年を迎えた西海橋に並列していることから、当時東洋一と謳われた同橋との調和に配慮しブレースドリブアーチ橋としています。また、この橋には、国内新設道路橋としては初めてとなるアーチリブにコンクリート充填鋼管を採用しました。架橋地点は、西海橋を中心とした県立公園に指定されており、春には日本三大急潮の一つである針尾瀬戸の豪快な渦潮と桜を楽しむ観光客が多く訪れることから、景観に十分配慮するとともに、桁下にバルコニー付きの添架歩道を設置しています。今後この橋は、交通の要衝としての役割を果たすとともに、西海橋公園の新しい名所として多くの方々に親しまれることを期待しています。

新西海橋の概要

- ・ 橋 長：620m
- ・ 支 間 長：主橋部：30+240+30m(アーチ支間230m)
入江部：67.5+110+88m+54.5m
- ・ 構造形式：主橋部：鋼中路ブレースドリブアーチ橋
入江部：4径間連続PCラーメン箱桁橋
- ・ 設計荷重：B活荷重

目 次

巻 頭 言	福岡北九州高速道路公社 … 田 中 康 順	1
展 望	橋梁の維持管理について … 九州地方整備局 … 荒 瀬 美 和	2
海外レポート	オランダ・ドイツ鋼床版橋梁訪問記 … 株式会社横河ブリッジ … 井 口 進	6
工事紹介・報告	有明海沿岸道路～（仮称）矢部川橋～	10
随 想	土木界と大学 … 九州大学名誉教授 … 彦 坂 熙	11
技術士合格体験記	川田工業株式会社 … 辛 島 景二郎	13
コンクリート診断士合格体験記	福岡スプリットン工業株式会社 … 梅 田 修 二	14
土木鋼構造物診断士合格体験記	国際航業株式会社 … 上 瀧 正 人	15
土木鋼構造物診断士合格体験記	新構造技術株式会社 … 山 本 尚 己	15
トピックス	新しい北九州空港 … 北九州市港湾空港局空港企画室	17
第24回総会・特別講演会	事 務 局	19
見学会報告	事業部見学会小委員会	20
講習会報告	事業部講演会小委員会	22
分科会報告	事業部研究連絡小委員会	25
	(1) 木橋の施工と耐久性調査に関する研究分科会	
	(2) 土木遺産の文化財として保存・活用する技術に関する研究分科会	
	(3) 九州地区における橋梁の維持管理に関する研究分科会	
	(4) 大学における構造系教育の現状と社会の要請に関する研究分科会	
	(5) 橋梁の実挙動を考慮した解析手法に関する研究分科会	
会 務 報 告		30
平成17年度 歳入歳出決算		31
会 則 ・ 分 科 会 規 則		33
会 員 名 簿		37
土木構造・材料論文集目次		61
論文投稿要領		63
入会申込書		65



◎土木構造・材料論文集の原稿募集◎

「土木構造・材料論文集」を土木学会西部支部と共同で毎年12月に発行しております。内容は理論的なものよりも、むしろ実用的価値の高いものが歓迎されます。詳しくは巻末の投稿要領をご参照の上、ふるって投稿下さい。

◎「新技術・新製品コーナー」原稿募集◎

第2種会員に対するサービスとして、会報第3号から新技術・新製品等を紹介するコーナーを設けております。

本コーナーに掲載するものは、下記の土木学会西部支部との共催で行われる「技術発表会」（本年度は11月30日（木）を予定）にてご講演いただくことになっています。次号の原稿募集を行っておりますので、巻末の投稿要領をご参照の上ご応募下さい。

◎「技術発表会」講演募集◎

第2種会員所属機関で研究開発された新しい技術（設計手法・計画手法・新材料・新製品・新工法など）を、広く会員の皆様に公表していただき、情報の交換を行うことを目的として、土木学会西部支部と共催する講演会です。

昨年度は、2月17日に開催し、約60名の参加をいただき、盛会裡に終えることができました。今年度は時期を早め、11月30日（木）に実施する予定です。

講演内容は、多少「新しい技術」のPRになっても結構ですので、第2種会員の皆様からの多数の講演申込をお願いいたします。

問合せ、申込先は下記の通りです。

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学院工学研究院建設デザイン部門

助教授 梶田 幸 秀

TEL 092-642-3267 FAX 092-642-3267

E-mail: ykajita@doc.kyushu-u.ac.jp

申込は平成18年9月末日迄にお願いします。

◎「研究分科会」委員募集◎

平成18年度の研究分科会の申請テーマを会報の30ページに示しております。委員として参加を希望される方、また分科会の登録申請に関する問合せをされる方は下記へFAXまたはE-mailにてご連絡下さい。

〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1 九州工業大学工学部建設社会工学科 教授 永瀬 英生

FAX 093-884-3100 E-mail: nagase@civil.kyutech.ac.jp

KABSEの情報発信源

KABSEの情報発信源

インターネットホームページのご案内

会員の皆様を結ぶ窓口として開設されたKABSEホームページに多数のアクセスを頂き、誠にありがとうございました。本年度も、講習会・研究分科会・出版物のご案内等の最新情報を、いち早く皆様のもとへお届けする予定です。また、会員の皆様からの情報・ご意見も、多数お待ちしております。

アドレス <http://www.kabse.com/>

E-mail : jim@kabse.com

KABSE九州橋梁・構造工学研究会

- 更新情報
- KABSEの組織
- KABSEの概要
- 各種行事のご案内
- 研究分科会
- 各種刊行物
- 入会のご案内
- 対外交流・リンク
- お問い合わせ

KABSEホームページへ
ようこそ

002 169
since 2000.7.18

九州橋梁・構造工学研究会

home 新着情報

- 平成13年度(第19回)総会・特別講演開催のご案内(2001.5.31)
- KABSE後援講習会「コンピュータ標準示方書[維持管理編]に関する講習会」のご案内(2000.4.19)
- 「土木構造・材料論文集第17号原稿募集」のご案内(2000.4.18)
- 平成12年度見学会のご案内(2001.1.17)
- 平成13年度研究分科会テーマ募集のご案内(2001.1.5)
- 対外交流・関連リンクのページに問い合わせ先、閲覧可能資料一覧を追加しました(2000.11.14)

- 更新情報
- KABSEの組織
- KABSEの概要
- 研究分科会
- 刊行物のご案内
- 入会のご案内
- 対外交流・関連リンク
- 各種行事のご案内
- 事務局へのお問い合わせ

運営委員限定

ご意見・ご感想はこちらにお聞かせください
© KABSE 九州橋梁・構造工学研究会 kabse@onyx.dti.ne.jp



巻頭言

福岡北九州高速道路公社 理事長 田中康順

昨年度は福岡北九州高速道路公社において関係各位の御協力により、主として以下の2つの開通を迎える事ができました。

福岡では福岡高速5号線のうち福岡市南区野多目～城南区堤間の開通です。これは同時期に城南区堤～西区拾六町までの供用を開始した国土交通省の外環状道路と連結して、既供用の福岡高速1号線（福重～千鳥JCT）及び福岡高速2号線（千鳥JCT～月隈JCT）を介して、九州初の環状型道路ネットワーク（ぐるりんぐ福岡）を形成するものです。

また、北九州においては、東九州自動車道および新北九州空港道路の新規供用にあわせて、九州縦貫自動車道・小倉東ICにて、北九州高速1号線と九州縦貫道の直結化し、これにより、北九州都市高速道路網と東九州自動車道の広域道路ネットワークが形成されました。

一方、当公社では同時に既供用路線の老朽化という現実には直面しています。現在、供用後40年以上経過した北九州高速4号線（延長31.8km）について、平成20年度までを目標として、大規模補修工事を行っています。工事の内容としては、橋梁及びトンネルの剥落防止をはじめとした補修・補強工事に加え、橋梁の耐震対策工事や単純桁の連続化工事の橋梁本体に関するものや、排水性舗装への取替えや中央分離帯部分のガードレールの剛性防護柵化、老朽化した遮音壁の取替えなど付属施設に至るまでの「リニューアル化」です。

高度経済成長期に建設され、日本の経済成長を支えてきた社会資本ストックの老朽化対策については、現実的に「更新時代の到来」と「これからの計画的な維持管理計画の重要性」を実感しているところです。これは、道路を管理する全ての行政・団体において差し迫った共通の課題だと思

います。

「つくる時代」から「マネジメントする時代」へ移行するためには、それぞれの職員が維持管理に関する事業を経営的側面から理解し、各種構造物の力学特性を把握し、効率的な点検や診断法を身につけることが必要です。そのためには日々の勉強、努力と専門研修が大切になってきます。

当公社では現在、全橋梁の施工時の工事履歴から点検、補修履歴の基礎データを蓄積する管理システムを整備し、運用しています。

さらに今後は、点検期間や点検標準を見直し、構造物の健全度の判定を基に劣化予測を行い、最適補修周期を算出するため基礎データ収集・蓄積を進める予定です。将来は保全管理システムと渋滞情報、工事規制情報などを一元管理し、効率的・効果的な維持管理と利用者への迅速な情報提供を行うシステムを整備することが必要であると考えています。

KABSEでは「九州地区における橋梁の維持管理に関する研究分科会」が昨年度より発足し、九州大学の日野教授をはじめとした産学官の会員技術者の方々を中心に情報交換と調査検討が行われています。

九州橋梁・構造工学研究会（KABSE）が20年余りの間、産・学・官の懸け橋となり、九州をはじめ日本の土木工学の進歩に多大なる貢献をしてきた偉大な業績と会員の皆様の熱意に敬意を表します。

九州の風土環境にあった、維持管理手法や新しい工法などを研究・開発されていくことを、そしてKABSEの研究成果が土木技術の更なる向上や発展に寄与することを期待しています。

橋梁の維持管理について

国土交通省九州地方整備局 道路管理課長 荒瀬 美和

1. はじめに

我が国は地形上の制約から道路に占める橋の割合が極めて大きく、鋼橋やコンクリート橋などの近代的な橋が建設されるようになったのは、欧米からの新しい材料や技術が導入された明治時代以降である。

昭和になって鋼材やセメントが自給可能となり、自動車も普及し始めたため、大量に建設されるようになったのは、近代的な道路整備が本格化した1954年（昭和29年）の第1次道路整備五箇年計画以降である。

古い橋梁はその後漸次更新されたものの、その多くは50年近い齢を重ねて現存し、未だ道路交通の重要な役割を担っていること等を考えると、今後の維持管理上無視することはできなくなっている。

2. 管内の橋梁現況

2.1 橋梁数

九州地方整備局が管理している3号をはじめとする直轄指定区間20路線、総延長約2,000kmに存在する橋梁（本線橋で橋長2m以上を対象）はおおむね道路延長1kmにつき1橋と約2,100橋が架設されている。

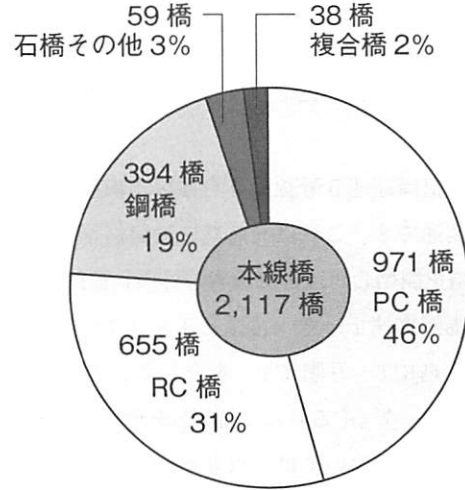
表-1 管内の橋梁数

種別		橋梁数	備考
本線	橋長15m未満	915	平成17年度末での橋梁数
	橋長15m以上	1,202	
	小計	2,117	
側道橋・歩道橋		813	
合計		2,930	

2.2 橋梁の種類

管内の本線橋のうち、PC橋が約半分（46%）、RC橋が約3割（31%）、鋼橋が約2割（19%）の順でほとんどを占めている。

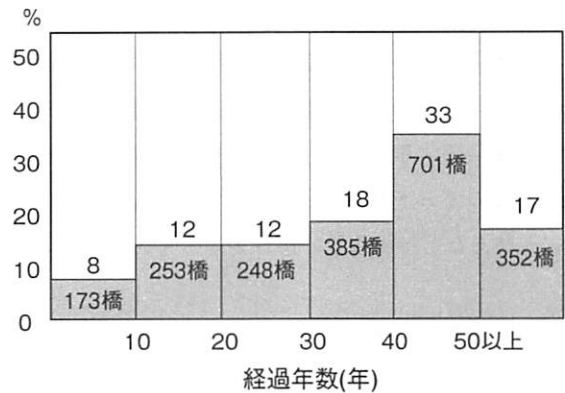
図-1 橋梁の種類



2.3 架設後の経過年数

本線橋のうち、架設後40年以上経過した橋梁が5割、50年以上経過した橋梁が約2割（17%）存在し、本格的な補修・補強の時代を迎えている。

図-2 橋梁の架設後経過年数



3. 橋梁の定期点検

3.1 定期点検

橋梁点検を要領に従って定期的に本格実施するようになったのは、昭和63年7月に土木研究所から「橋梁点検(案)」が示されてからのことである。

その後、橋の老朽化は一段と進みつつあるものの、定期点検の頻度はおおむね10年サイクルで、対象橋梁は橋長15m以上の橋梁とするものであった。

近年の大型車両の増加など橋梁を取りまく損傷要因の急

激な変化の可能性や判定結果が信頼できる期間にも限りがあることなどを考慮して原則として5年以内に定期点検を行うことが「橋梁定期点検要領（案）【平成16年3月国道・防災課】」により通知された。

九州地方整備局では、新しい要領による定期点検を平成15年度から着手しており、18年度までに約60%の進捗をみる予定である。

表-2 定期点検の実施状況

	対象 橋梁数	H15	H16	H17	H18	計
15m未満	915	(25%) 225	(15%) 134	(11%) 104	(19%) 176	(70%) 639
15m以上	1,202	(14%) 171	(10%) 123	(12%) 140	(16%) 194	(52%) 628
合計	2,117	(19%) 396	(12%) 257	(12%) 244	(17%) 370	(60%) 1,267

3.2 定期点検の結果

橋梁定期点検による損傷評価などにに基づき対策区分の判定を行い、補修時期、対策工法などを検討、順次補修工事に移行している。

定期点検の結果、5年以内の補修を目途に進めている対策区分「C」については、点検橋梁の20～30%と大きなウェイトを占めており、緊急性、重要性などの観点からプライオリティを付け順次補修工事を進めている。

表-3 新要領による定期点検結果

対策 区分	H15	H16	H17	備 考
E1・E2	2	0	0	緊急対応の必要がある
C	66	76	74	速やかに補修を行う必要がある
S	39	25	32	詳細調査の必要がある
M	91	85	70	維持工事に対応する必要がある
B	170	59	62	状況に応じて補修を行う
A	28	12	6	補修を行う必要がない
合計	396	257	244	

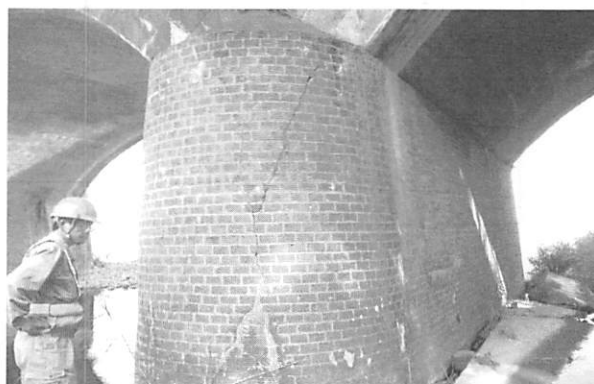
橋梁点検状況



主桁ひびわれ



橋脚ひびわれ



沓の破損



3.3 橋梁マネジメント

橋梁の劣化は時とともに加速度的に進行し、維持管理費が加速度的に増大することが考えられる。

したがって、橋梁マネジメントは次の点が重要であり、

- ① 新設橋は、長寿命で劣化が少なく維持管理の費用があまりかからない橋梁を建設する。
- ② 既設橋では長寿命化補強を行うが、補修作業がわずかで済む劣化の早い段階で適切に補修する。

上記②の「予防保全」については、ライフサイクルコストを最小化するのに有効な手段であり、国土交通省においても「ブリッジマネジメントシステム」として取り組み始めたところである。

予防保全の概念図を図-3に示す。

3.4 橋梁の更新

橋梁マネジメントに基づき計画的に橋梁の補修を進めるものの、架設後の年月が長い期間経つと補修にも限界がある。

今後老朽化に伴う橋梁の更新が向こう30年間でどれだけ出てくるのかという視点から一定のルールを定め試算してみた。

【主な前提条件】

- ① 現時点で架設後40年以内の橋梁については、今後の予防保全型管理により100年で更新。
- ② 現時点で架設後40年以上の橋梁については、鋼橋については60年以上、コンクリート橋については75年以上経過した時点で更新。
- ③ 損傷状況の程度によって、上記②については0～10年の延命を考慮。

上記前提条件のもと試算した結果、向こう30年間で383橋が更新対象となり、更新費用も概算で約1000億円を要することとなった。(図-4)

図-3 予防保全と事後保全の概念図

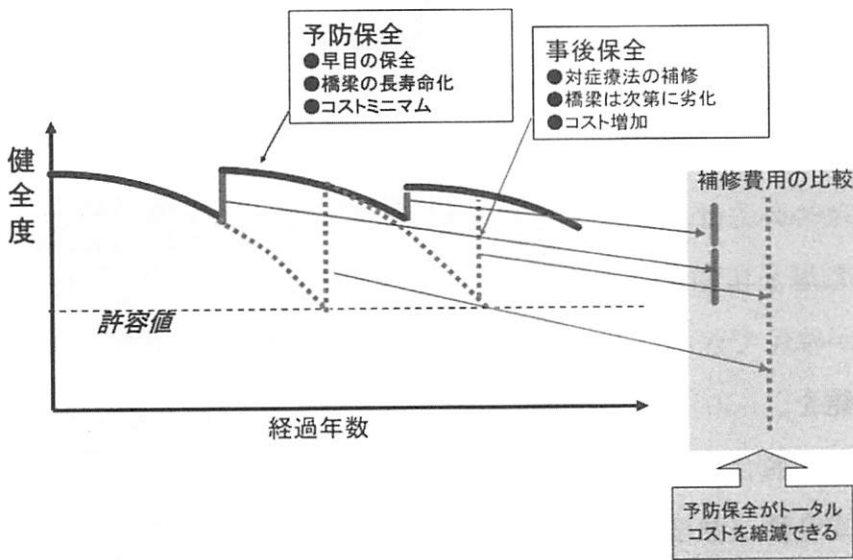
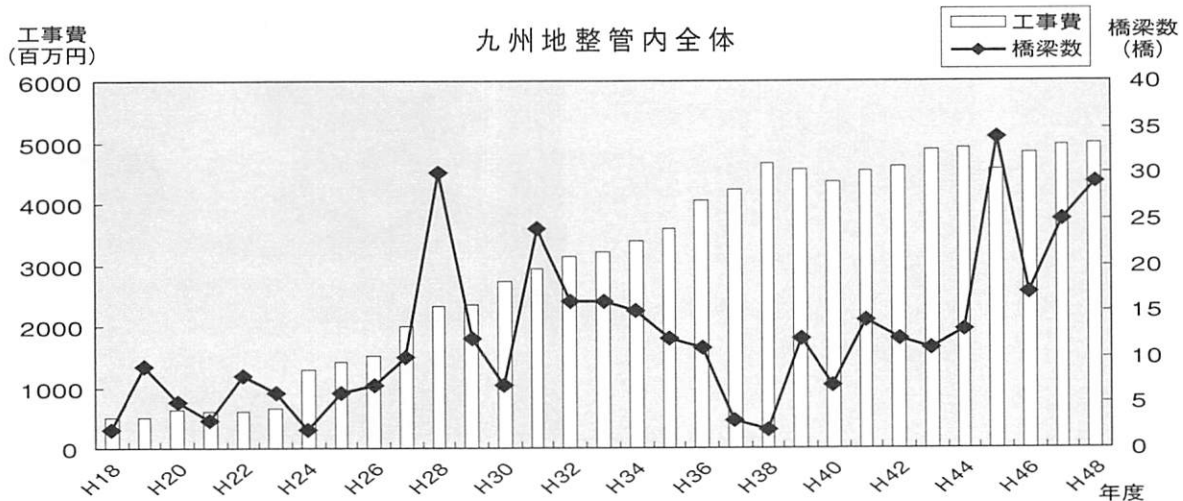


図-4 橋梁更新数と概算工事費



4. 耐震補強

4.1 緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム

兵庫県南部地震クラスの地震に対しても、橋梁の損傷を限定的なものにとどめ、緊急輸送道路としての機能を確保するよう各地域毎に国と地方が連携し、特に優先的耐震補強を実施する必要がある橋梁について、橋梁耐震補強3箇年プログラム（H17～H19年度）に基づき重点的に進めているところである。

九州地方整備局管内の下記に示す対象橋梁については、平成19年度末の完成に向けて耐震補強工事を進めているところであり、平成18年度は約47億円の事業費をもって実施することとしている。

表-4 耐震補強の実施状況

要対策 橋梁数	H16年度末時点		H19年度末時点	
	実施数	実施率	実施数	実施率
504橋	162	32.1%	504	100%



耐震補強状況（写真）

5. 今後の展望

我が国では、アジアの急成長などグローバル競争激化の中での国際競争力の強化、急速に進展する少子・高齢化社会への対応及びCO₂排出量削減など地球環境問題への対応が喫緊の課題となっている。

このような中、わが国の社会・経済・生活を支える基幹的な社会インフラである道路は、今後の修繕・更新需要の増大、交通渋滞、交通事故、地方部での隘路の存在及び沿道を含めた道路空間の再生など多くの課題を抱えている。

今後の道路行政が進めるべき施策を国民に対して明らかにし、その重要性に関する認識を共有することが不可欠で、昨年末に政府・与党でとりまとめられた「道路特定財源の見直しに関する基本方針」を踏まえ、真に必要な道路整備について議論が必要と考えており、このため、中期的な（概ね10年間の）整備目標とその達成に必要な事業量等を「道路整備の中期ビジョン（案）」として整理し、公表することとした。

この「中期ビジョン（案）」では、各施策の整備目標を達成するために必要な事業のうち、維持・修繕・更新及び事業中区間の平成19年度以降の残事業費は58兆円とされており、この中には、「供用中道路の維持・修繕・更新」として15兆円、供用中道路の安全安心の確保のうち防災対策として5兆円が含まれている。

このうち、既存橋梁の延命化（平均約60年程度を約100年以上に）として、建設後50年以上となる約28,400橋をはじめとする道路に対し、適切な時期に維持・修繕・更新を実施。また、緊急輸送道路等について、耐震補強未対策橋梁約3,800橋、防災・防雪要対策約36,500箇所について対策を実施することとしている。また、平成18年度予算においても、4つの主要施策のひとつとして、「防災・減災等（安全・安心）～災害に強い国土づくり～」が掲げられており、橋梁耐震補強の推進など「安全性・信頼性の高い道路空間の確保」や重点的・効率的な道路維持管理の推進など「更新時代への対応」を推進することとしている。

国土交通省九州地方整備局としては、今後ともこれらの施策を着実に推進していくことが重要と考えている。

オランダ・ドイツ鋼床版橋梁訪問記

(社)日本橋梁建設協会 (株)横河ブリッジ 井口 進

はじめに

今回の欧州訪問のきっかけは、2年前の夏に米国カリフォルニア州で開催された第1回鋼床版会議でした。日本では、最近、重交通路線を中心として鋼床版の疲労損傷の報告が多くされています。特に、鋼床版のUリブとデッキプレートの溶接部における疲労損傷は、これまで国内での報告事例はほとんどありませんでした。この種の疲労損傷は、目視点検では確認できないこと、路面性状に影響を与える可能性があることなどから、緊急性の高い損傷に分類されます。(社)日本橋梁建設協会では、この疲労損傷に対応すべく、鋼床版検討委員会を設立し、私もこの委員会の委員として活動を行ってきました。

カリフォルニアでの鋼床版会議では、世界各国の鋼床版の研究事例や設計事例の紹介に加えて、疲労損傷事例についても報告がされました。その中で、日本とまさに同様の疲労損傷がオランダで発生していることが報告されました。疲労損傷というのは様々な要因で発生するものです。実際にその現場を実感しなければ判らないこともあります。つまり、「百聞は一見に如かず」ということで、オランダを訪問することを決意したのでした。また、数少ない機会でもありますし、オランダ訪問に引き続き、鋼床版の発祥の地とも言えるドイツ・ライン河の鋼床版橋梁群を訪問し、その現状について調査することにしました。

訪問先の概要

今回訪問したのは、オランダとドイツの2カ国です。オランダでは、カリフォルニアでの鋼床版会議でオランダの疲労損傷事例を報告したデルフト工科大学のKolstein教授を訪ねました。Kolstein教授には、デルフト工科大学の実験を見学させて

頂いた後、鋼床版の疲労損傷についてのディスカッションをしました。また、翌日には、実際に疲労損傷の発生した鋼床版2橋を案内して頂きました。

オランダ訪問に引き続いて、鋼床版橋梁のオンパレードとも言える、ドイツ・ライン川の橋梁を訪問しました。なお、今回の訪問は、鋼床版検討委員会の委員長でもある川畑篤敬氏(JFEエンジニアリング)にご一緒して頂きました。

デルフト工科大学の訪問

デルフト工科大学のあるデルフト市は、オランダ第二の都市、ロッテルダムの西に位置する閑静な文教都市です。画家フェルメール生誕の地でもあり、青い磁器「デルフトブルー」でも有名な街です。オランダは、国土の40%が海抜下にあり、至る所に運河が張り巡らされています。運河を利用した海運は、現在でも重要な物流手段として位置づけられており、運河に架かる橋梁には、大型船舶が通行できるよう可動橋が多く用いられています。道路橋や鉄道橋はもちろんのこと、高速道路にでさえ可動橋が用いられている場合があります。デルフト市内にも、図-2に示すような旋回橋や開跳橋が点在しています。実に多くの形式の可動橋があつて、まるで可動橋の博物館のようです。

デルフト工科大学は、欧州でも有数の工科大学であり、Kolstein教授は、鋼床版の疲労に関する研究では世界的に著名である一方で、鋼構造や舗装材料、新素材など実に様々な研究をされています。

私たちは、まず大学内の構造実験場を見学しました。広い空間で、きちんと片付けられており、非常によい環境であるという印象を受けました。以前、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校の実験場を見学する機会がありましたが、こ



図-1 オランダでの訪問地



図-2 デルフト市内の旋回橋

らも非常に清潔にされており、実験というのは片付けられた環境も大事だなあと感じたものでした。次に、「LINTRACK」という、移動輪荷重試験機を見学しました。日本でも10台ほどの試験機がありますが、ちょうど大阪工業大学の試験機と似ており、ゴムタイヤを装着した試験機が自走式で往復する仕組みです。試験機は、温度が調整できる建屋に設置されています。驚いたのは、試験を行う際、供試体を試験機の下に設置するのではなく、並べられた複数の供試体の上に建屋が試験機ごと移動するということでした。そうすれば、供試体の出し入れで実験工程が消化されることがないのです。

疲労損傷が出た鋼床版橋梁の訪問

オランダでは、2000年頃からUリブとデッキプレートの溶接部からデッキプレート上面に進展する疲労クラック（以下、デッキ貫通型クラック）が、9橋で発見されました。デッキプレートそのものが切れるわけですから、路面走行性の障害を生む可能性があるクラックです。私たちは、Kolstein教授の案内で、このデッキ貫通型クラックが発生した橋梁のうち2橋を見学しました。論文などで名前は聞いた橋ですが、実際に見なければ頭に残らないのです。

まず、Van Brienoord橋を訪問しました。この橋は、ロッテルダム近郊のA16号線に位置する、並列ニールセンローゼ橋なのですが、アプローチの部分に片持ち式の開跳橋があります。この部分で、1997年、オランダで初めてのデッキ貫通型クラックが発生しました。しかも、供用7年後！この損傷に対しては、デルフト工科大学をはじめ、オランダの建設省などを中心とする緊急委員会が組織され、対応にあたりました。現地での応力測定や室内試験、FEM解析などによって、Van Brienoord橋は、鋼床版にデッキプレートの板厚が不足していることが最大の原因とされました。

というのは、開跳橋であるがゆえ、死荷重を低減するために、デッキプレートの板厚は10mmのものを用いていました。さらに、アスファルト舗装ではなく、厚さ8mm程度のエポキシ樹脂舗装が採用されていたことが、輪荷重の分散がなく、鋼床版の疲労損傷を促したと考えられました。結局、Van Brienoord橋は、鋼床版を一括取り替えることになり、新しく導入された鋼床版のデッキプレートの板厚は、車線によって16~28mmに増厚されています。損傷の箇所数も多い上に、開跳部分での損傷であったこともあり、一括取り替えに決定されたのだと思います。

続いて、Van Brienoord橋の南部に位置するMoerijk橋を訪問しました。「ijk」と続くので違和感を拭えませんが、「ダーク」と発音するようです。Moerijk橋は、可動橋ではなく、一般的な5径間連続鋼床版1箱桁橋2連で、アスファルト舗装が厚さ50mmで施工されていました。2001年に、この橋においてもデッキ貫通型クラックが発生しました。Van Brienoord橋は、デッキプレートの増厚で対策がされましたが、Moerijk橋は、コンクリート舗装をデッキプレート上に施工し、床版の剛性を高めることで対処する方法が採用されました。具体的には、

圧縮強度が110N/mm²という高強度コンクリートに鋼繊維などで補強したものをアスファルト舗装の代わりに施工するものです。日本でも最近、横浜ベイブリッジ（国道357号）や湘南大橋（神奈川）、美原大橋（北海道）などで、コンクリート系の材料を舗装として用い、鋼床版の剛性を高めることで疲労対策とする方法が採用されていますが、大きく異なるのが、ひび割れ防止としてφ8mmの鉄筋を3段用いていること、スタッドジベルのような機械的接合は行っていないこと、接着剤でデッキプレート上面に定着された珪砂でコンクリートとデッキプレート間のせん断力を伝達していることが挙げられます。

さて、現地で実際に体感したのは、その交通実態の厳しさでした。オランダでは、大型車是最右車線を走行することが義務づけられており、またそれをドライバーが厳守しています。前述の2橋が位置するA16号線は、オランダとベルギーやフランスを結ぶ幹線道路である上に、世界最大の貿易港ユーロポートも近く、その大型車の多さは日本の比ではありませんでした。大型車は間隔を空けずに連行して走行しているので、ある意味実橋で移動輪荷重試験をおこなっているかのような状況にありました（図-3）。

Moerijk橋は、一部交通規制を行って舗装工事をしていたため、これまでに重交通に晒された舗装を間近に見ることができました。驚いたことに、舗装のわだち掘れが60mm近くもあり、言ってみれば大型車はずっとわだち掘れというレールの上を走行し続けてきたのでした。鋼床版の疲労はVan



図-3 Moerijk 橋の交通状況

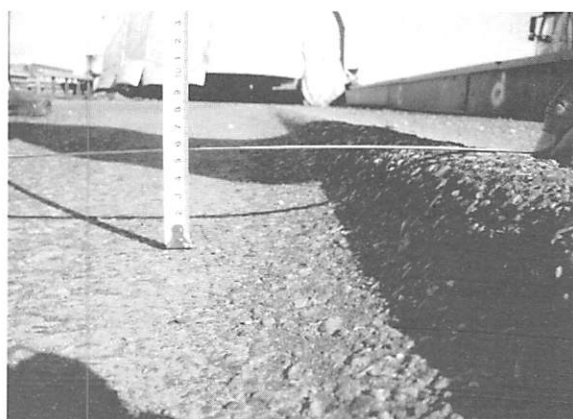


図-4 Moerijk 橋のわだち掘れ

Brienoord橋のように構造的な要因で発生する場合がありますが、実際には厳しい交通実態もその大きな要因であることがはっきりと感じられました。

何かの映画の台詞ではありませんが、疲労損傷は現場で発生しているのであって、室内実験で発生しているわけではありません。

今回のように、実際に損傷が発生した橋梁を自分の目で見て、その実態を体感することで鋼床版のみならず橋梁の疲労に対する考え方も変わってくるものだと強く思いました。

ドイツ・ライン河の鋼床版橋梁の踏査

オランダ訪問の後、私たちは車でドイツ・ライン川に向かいました。ケルンやデュッセルドルフなどには、船上からライン川に架かる橋梁を眺めるツアーもありますが、私たちは、なるべく橋面や桁下、鋼床版に近づきたい、ということで、オランダ国境からケルンまで、ライン川を遡る形で全ての橋梁を風漬しに踏査することにしました。紙面の都合上、ライン川に架かる橋梁のみ記述します。

(1) Rheinbrücke Emmerich (道路橋、橋長803m)

国境の町Emmerichに位置する大型の吊り橋。床版はウイングラス型の縦リブを用いた鋼床版。1965年完成。

(2) Rheinbrücke Rees (道路橋、中央径間255m)

Reesという小さな町の近くに位置する斜張橋。1967年完成。河川内のために、床版下までは近づけなかった。

(3) alte eisenbahnbrücke Wesel (鉄道橋、橋長1,950m)

1874年完成の石造連続アーチの長大鉄道橋。1945年に空襲により落橋し、以後復旧せずにアプローチ部のみ残る。

(4) Rheinbrücke Wesel (道路橋、最大支間150m)

Weselの町に位置する1952年完成のトラス橋。床版はバルブプレート鋼床版を使用。トラス構造が美しい。

(5) Voeder Brücke (道路橋、橋長59m)

単純桁のポニートラス道路橋。1957年の完成だが健全。

(6) Lippebrücke (鉄道橋、橋長不明)

詳細は不明。Voeder橋に隣接するトラスの鉄道橋。

(7) Dinslaker Brücke (道路橋、橋長59.2m)

ライン川の支流に架かる、1992年完成の比較的新しい単径間のアーチ橋。閉断面縦リブを用いた鋼床版を使用。

(8) Beeckerwerther Brücke (道路橋、橋長1,030m)

アウトバーンA42号線に位置する斜張橋。1990年に完成。閉断面の縦リブを用いた鋼床版を使用。

(9) Haus-Knipp-Brücke (鉄道橋、詳細不明)

1912年に完成したが、1945年に戦災で落橋、1946年に再建されたトラス橋。重厚な構造が美しい。

(10) Friedrich-Ebert-Brücke (道路橋、中央径間285.5m)

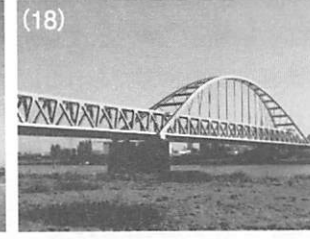
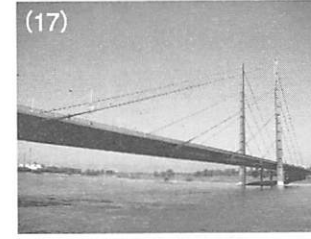
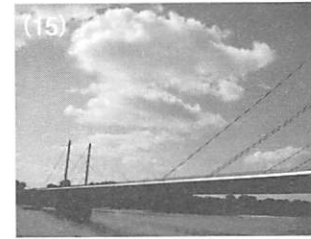
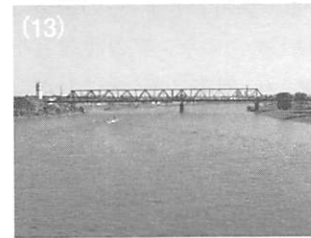
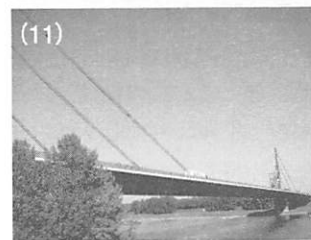
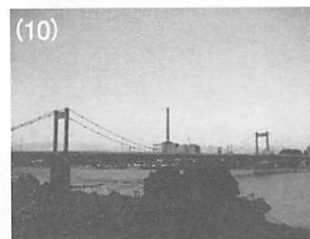
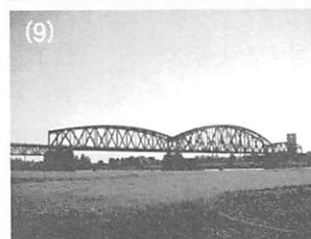
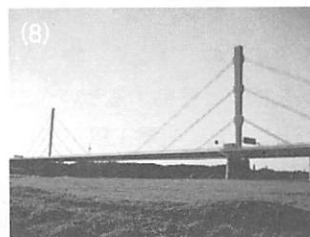
1954年完成の自碇式吊り橋。MoersとMulheimの市街地を結ぶ。閉断面の縦リブを用いた鋼床版を使用。

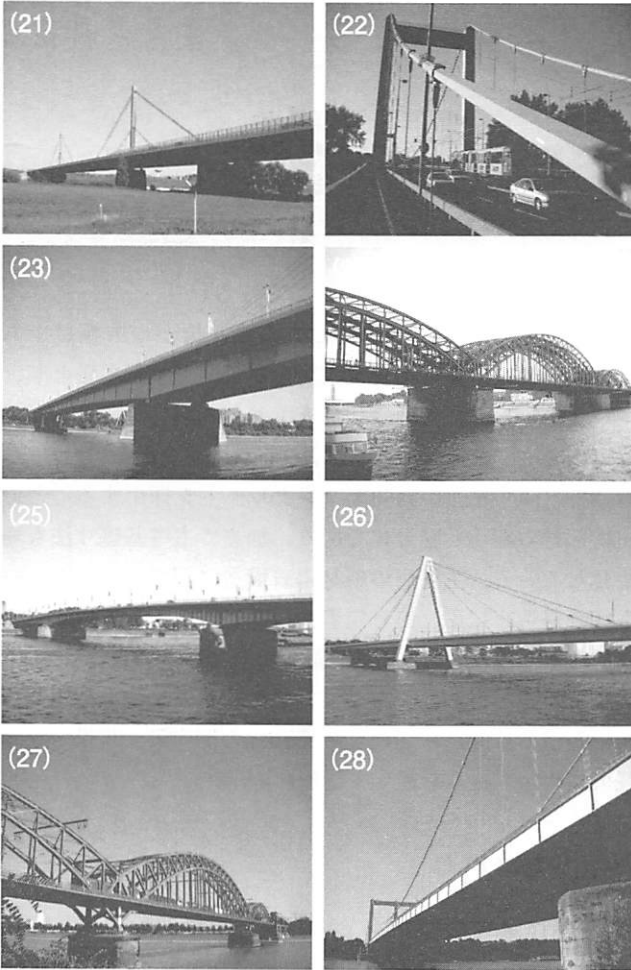
(11) Duisburg-Neuenkamp Bridge (道路橋、橋長776m)

1970年完成の斜張橋。アウトバーンA40号線に位置する。ケーブル取り替え工事中であった。

(12) Brücke der Solidarität (道路橋、アーチ支間255.1m)

1950年完成のカラフルなアーチ橋。閉断面の縦リブを用いた鋼床版





を使用。

- (13) Eisenbahnbrücke Duisburg-Hochfeld (鉄道橋, 橋長574.8m)
1927年完成のトラスの鉄道橋。戦災で架け替えられた。
- (14) Rheinbrücke Krefeld-Uerdingen (道路橋, 橋長500m)
1936年完成の自碇式吊り橋。珍しくRC床版を使用。
- (15) Theodor Heuss Brücke (道路橋, 橋長476m)
ライン川がデュッセルドルフ市内で蛇行する箇所に、斜張橋が3橋連続する。まるで斜張橋の競演である。本橋は、北側に位置する橋で、1957年完成。床版は逆T型のリブを使用した鋼床版。主塔は2×2本。
- (16) Ober Kasseler Brücke (道路橋, 橋長516m)
前橋に連続する斜張橋。1973年に完成。路面電車も供用している。歩道部はバルブプレート、車道部はワイングラス型の縦リブを使用した鋼床版。主塔は1本。
- (17) Knie Brücke (道路橋, 橋長563m)
1969年完成の斜張橋。主塔は2本。2主桁で床版は、バルブプレートを用いた鋼床版。舗装の縦ひび割れあり。
- (18) Hammer Eisenbahnbrücke (鉄道橋, 橋長385m)
1987年完成の、トラス+アーチという珍しい組み合わせの鉄道橋。バルブプレートを用いた鋼床版の2主桁橋。
- (19) Willy Brandt Brücke (道路橋, 橋長512m)
1951年完成と歴史のある2箱桁橋。路面電車も供用。床版は、軌道部を除いてほとんどがRC床版。
- (20) Flehe Brücke (道路橋, 橋長1,148m)
1979年完成の斜張橋。アウトバーンA46号に位置する。主塔はRCで逆Y型。1箱桁橋で、床版は背の高いUリブを用いた鋼床版。
- (21) Leverkusen Brücke (道路橋, 橋長492.5m)

Leverkusen郊外に位置する1964年完成の斜張橋。1箱桁で、床版はワイングラス型の縦リブを用いた鋼床版。

- (22) Köln-Mulheim Brücke (道路橋, 橋長485m)

Köln(ケルン)市内最北に位置する1929年完成の吊り橋。現在の橋は1951年に復旧したもの。路面電車も供用。

- (23) Zoo Brücke (道路橋, 橋長596.5m)

名前のおり動物園の横に架かる鋼床版2主桁橋。1966年に完成。今回調査した中では、最も舗装が損傷していた。床版は、バルブプレートを用いた鋼床版。

- (24) Köln-Hohenzollern Brücke (鉄道橋, 橋長407m)

1911年に完成した3連アーチの鉄道橋。ドイツの超特急ICEも渡る。戦災から1959年に復旧した。ケルン大聖堂に近く、シンボリックな存在でもある。

- (25) Köln Deutsche Brücke (道路橋, 橋長437m)

1948年に完成した世界で最も古い本格的な鋼床版橋梁の一つである。路面電車も供用。3径間連続1主桁橋で、床版はUリブを用いた鋼床版。

- (26) Severins Brücke (道路橋, 橋長452.7m)

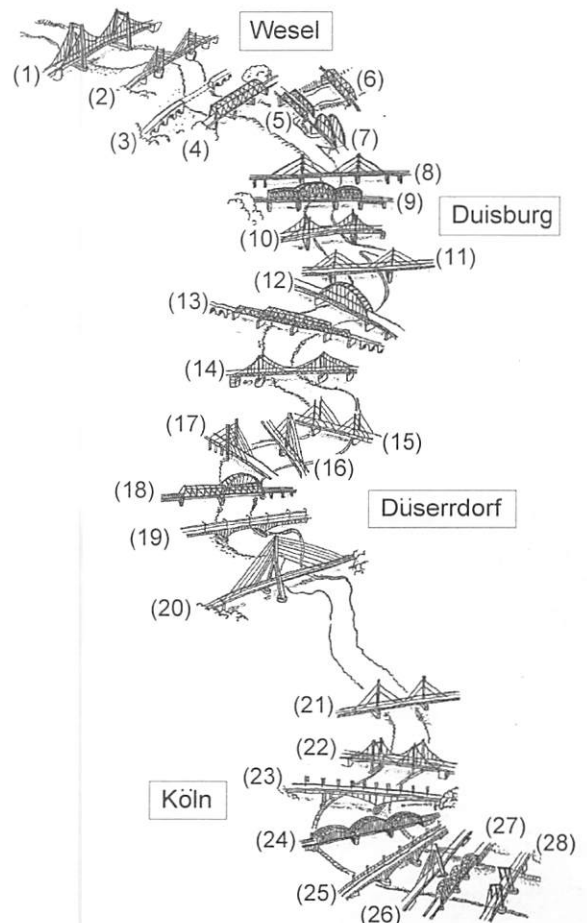
1959年に完成した斜張橋。主塔が逆V型の2主桁橋。

- (27) Sud Brücke (鉄道橋, 橋長368m)

1910年に完成、戦災から1950年に復旧した3連アーチの鉄道橋。Köln-Hohenzollern橋に比べると重厚な印象。

- (28) Köln-Rodenlirchen Brücke (道路橋, 橋長567m)

今回の踏査で、最南端に位置する吊り橋。1941年に完成、その後、1954年に戦災から復旧した。下流側は拡幅されており、拡幅前の鋼床版とのディテールの違いが見受けられる。床版は、背の高いUリブを用いた鋼床版。



九州各県および山口県

工事紹介・報告

◎有明海沿岸道路～（仮称）矢部川橋～◎

- <実施場所> 福岡県三池郡高田町～柳川市大和町
<事業主体> 国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所
有明海沿岸道路出張所
<工期> 平成16年3月～平成19年11月
<概要>

有明海沿岸道路は、三池港、佐賀空港などの広域交通拠点及び大牟田市、柳川市、大川市、佐賀市、鹿島市などの有明海沿岸の都市群を連携することにより、地域間の連携、交流促進を図るとともに、一般国道208号の渋滞緩和と交通安全の確保を目的に計画された延長約55kmの地域高規格道路である。

（仮称）矢部川橋は、有明海沿岸道路整備事業の中で高田町と柳川市境である一級河川矢部川を渡河する3径間連続のPC斜張橋である。

道路規格：第1種第3級 設計速度80km/h
構造形式：3径間連続PC斜張橋
橋長：517.000m
支間長：126.000m + 261.000m + 126.000m
主塔高：73.0m（全高87.5m）
有効幅員：8.500m×2（中央径間）、8.655m×2（側径間）
桁形式：逆台形3室PC箱桁（ π 型中ウェブ構造）
主塔高：全高87.5m（地上から約85m）
主塔形式：逆Y型中空RC構造（傾斜塔）
基礎形式：主塔基礎 ニューマチックケーソン基礎
橋台基礎：場所打ち杭基礎
架設工法：主桁 張出し架設工法、主塔 移動足場工法
本橋は矢部川内に橋脚を設置しないことから中央径間長が261mとなり、PC斜張橋では国内最大支間長である。ニューマチックケーソン工法で構築した主塔基礎も橋梁の基礎工

としては国内最深（深度約50m）となる。

平面曲線R=1150m、幅員20.2mの曲線橋かつ広幅員であり、平面曲線による影響を改善する目的で傾斜主塔とし、主塔と主桁の結合条件に免震支承および新しく開発したトリガータイプのストッパーおよびダンパーを配置した。

主桁に50N/mm²の高強度コンクリートを採用することで主桁部材の縮小と軽量化を図り、加えて主塔基礎寸法も縮小化している。主塔側の斜材定着構造に鋼殻・コンクリート複合構造を採用、斜材定着横桁が省略できる主桁断面の採用など、数多くの技術的特徴を有している。

主桁の施工方法は実績が多い張出し架設工法を採用し、工期短縮の目的からブロック長8.0mの国内最大規模となる長大ブロック施工を行うこととしている。

（施工順序図）

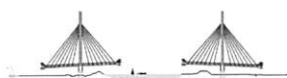
①移動作業車設置



②第1斜材架設



③主桁張出し施工



④順次、斜材架設



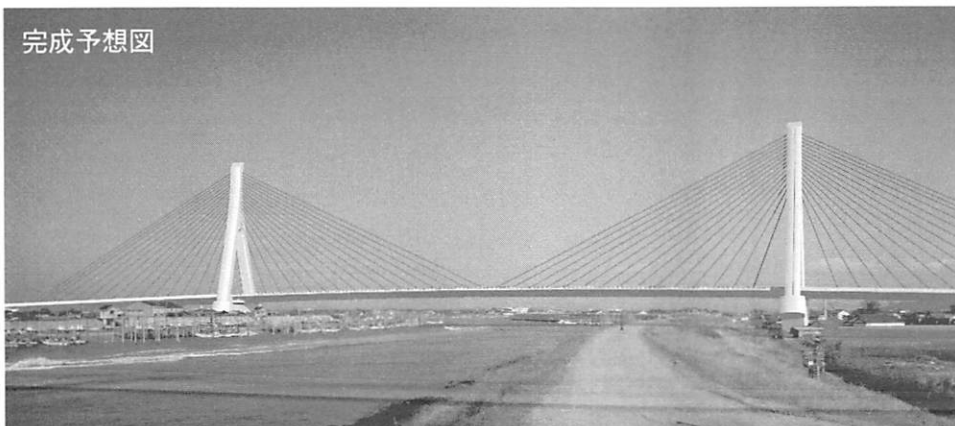
⑤中央径間閉合



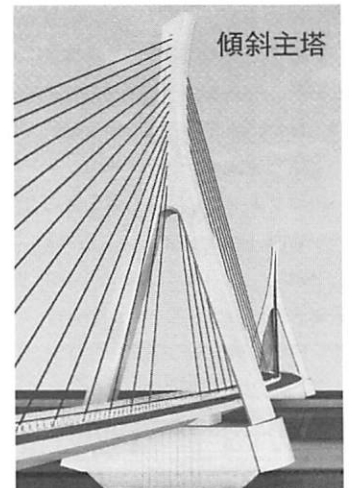
⑥完成



完成予想図



傾斜主塔



随想

土木界と大学

九州大学名誉教授 彦坂 熙

学生時代を別にしても、大学卒業以来土木の世界に身を置いて40年以上が過ぎた。土木工学科に在学した1960年代前半は高度経済成長の真っただ中にあり、64年10月の東京オリンピック開催を控えて、首都圏のみならず全国で巨大プロジェクトが進められていた。工事中の現場を見学した名神高速道路（63年部分開通）、東海道新幹線（64年開通）がそれぞれ高速道路および新幹線の全国ネットワークの幕を開き、北九州の若戸橋（62年完成）は後に関門橋から本州四国連絡橋につながる長大橋建設の嚆矢となった。明治以来の官による直営工事は姿を消して新興のコンサルタントと施工会社に移譲され、新技術・新工法への挑戦が民間の技術力を世界最高水準にまで高めると同時に、土木工学分野に多くの優秀な若者を惹き入れた。経済成長による国民所得と税収の伸びは、欧米先進国に比べて著しく立ち遅れていた産業基盤および生活基盤インフラの急速な整備を可能にし、土木と建築を合わせた国内建設市場は600万人を雇傭する大手、中小60万社の建設業者が仕事を分かちあうに十分な規模に拡大した。このように建設産業が国内就業者数の1割を擁する基幹産業に成長する過程では、土木界を構成する産・官・学が効果的に連携していたように見え、まさに日本の土木の黄金時代であった。しかし、技術者達の夢とプライドをかけた難工事への挑戦・成功の傍らで、近年厳しい批判に曝されている建設行政、建設産業の矛盾や不透明性が次第にしきたり化していったようである。

筆者の職歴の大部分は大学土木系学科の教員であるが、短期間ながら行政（国）および受注者（公益法人）を経験している。振り返って、自身の反省も込めつくづく思うのは、日本の土木界と大学界にはネガティブな共通点が多いことである。その幾つかをキーワードで並べると、前近代性、護送船団構造、長期的視点の欠如、市場の縮小、供給過剰体質、国際化への立ち遅れ等となる。自動車、電機その他国際的に名の知られる多くの日本企業は、国内市場で競り合いながら国際標準ルール下の自由競争で海外市場に出ていった。しかし、国内経済の好況期はもちろん、不況期にも景気対策や雇傭創出など政治・行政判断で公共事業が実施されてきた日本では、建設業が海外市場に参入して国際ルールの下で競争する意欲・必要性を低下させ、行政権限で国内市場を主導する官（発注者）への依存や仕事を分け合うといった前近代的な産業構造に今日まで留めさせることとなった。戦後の第1次および第2次ベビーブームによる若年人口増と高度経済成長期の進学率上昇等の後押しを受けて入学者数が右肩上がりが増え続けた大学も、国際基

準から離れた教育の内容、水準、教授法を自律的に改善・改革し特徴を出すことに極めて消極的であった。建設行政と大学運営は現在構造改革の渦中にあり、さまざまな法改正やスキーム変更も行われつつあるが、ほとんどが外部のメディアや市民の批判に曝された挙句の受け身の改革・改変であり、その成否の鍵は産・官・学の現場当事者の使命感、倫理観、責任感を拠り所にした意識改革にある。

第二次大戦後、米国を主とする占領統治機構は日本が二度と強国として復活できないように、憲法、政治、行政、経済、教育等すべての社会システムを戦前のもことから一新させた。もともと領土を日本列島だけに限られれば、哀れなほど天然資源に恵まれず原材料やエネルギーを輸入に頼らねばならないこの小国が復活できるとは、考えられなかったはずである。その日本が急速な復興と経済成長を遂げ、1969年にGNPが自由世界2位に躍進したことは、諸外国にとって理解しがたいミラクルであった。国民の勤勉性と教育熱心に支えられた学校教育の成功とする見方が多かったが、日本の大学教育については常に厳しい評価にとどまっている。例えば、80年代後半の日米教育協力研究による米側報告書は「大学における貧弱な講義と少ない勉強のために4年間が無駄になっているのは、あれほど熱心に効率性を尊ぶ国民として信じがたい時間の浪費である」と記した。それから20年が経過し、大学院重点化や国立大学法人化等の改革が進められたが、今年6月の朝日新聞には、OECDから派遣されて10日ばかりで日本の高等教育の現状を視察した5人の専門家の代表による「高専の教育はすばらしい。感心しました。ただ、大学、とくに大学院教育が弱いのは問題だと思います」という感想が報じられている。日本の少子化は大学への入学者を年々減らしており、2007年以降は志願者が定員を下回る大学全入時代になるといわれている。教育により形成されていく国民の質こそが国の最終的な基盤となるものであり、大衆化した大学教育および単なる学部の延長ではない大学院教育について、無駄・浪費呼ばわりされないように大学人自らの意識改革と改善が期待される。

日本の土木業界と大学の多くが21世紀初頭に経営苦難の時代を迎えるであろうことは、既に90年代初め頃から取り沙汰されていた。成熟した先進工業国で社会資本整備の新規需要が減っていくのは当然のことであり、少子高齢化が進めば、社会保障費の増加が公共投資をさらに圧迫する。産官学の形式的でない真の連携を図り、人類の福祉と環境の増進のために使われる土木技術のさらなる高度化を達成

するとともに、土木界に参入希望する若い有能な人材を確保することが必要である。KABSE会員の大多数は九州管内の産・官・学の土木技術者であり、昭和58年の創立以来、会費収入と会員の手弁当奉仕により数々のユニークかつ有益な成果を挙げてきた。会員には設計、施工、行政の幅広い分野で豊富な実務経験を有する有資格の技術者が多数おられる。建設市場では価格と品質が総合的に優れた公共調

達を行うための枠組みが新たに導入されてきたが、技術力を活かした公正な競争の円滑な実施を支援し、また近年産官学共通に懸念されている技術力低下をバックアップできるよう、KABSE内にシニアを含む会員が蓄積する専門的能力を活用したアドバイザーグループシステムが整備されることを期待したい。

技術士合格体験記

川田工業株式会社 辛嶋景二郎

- ◆ 取得部門：建設部門，科目：鋼構造およびコンクリート，専門：鋼構造
- ◆ 合格年：平成18年



1. はじめに

KABSE会報の編集委員の方から「技術士合格体験記」の執筆依頼の連絡を受けた。技術士の取得は技術者としてのターニングポイントの一つであり、記録に残すのは私にとってもメリットがあると思い引き受けることにした。ただし「体験記」と示されるように、下記に述べるのは非常に主観的な内容である。後進の方々にとって参考となるとは限らないので、その点をご容赦願いたい。

2. 受験動機

新入社員当時から技術士という資格がある事は知っていたが、なかなか私自身にとって現実的な問題としては考えられなかった。そうこうしている間に会社の同期や後輩が多数技術士の資格を取得するようになった。それでようやく私も数年前から技術士の資格取得に向けた準備を始めた。ただ最初の頃は決して真剣に取り組んでいるとは言えなかった。

技術士の取得を真剣に考えだしたのは、KABSEや土木学会等の社外の委員会活動に参加する機会を得てからである。私が幹事を務めさせて頂いたKABSEの分科会にも多くの技術士の方が参加されていた。そうした優秀な方々をさしおいて幹事を務めるにあたり、少し気後れしたものである。このとき技術者として一人前である事を客観的に示すことができる「技術士」という資格を取得したいと強く思った。

3. 勉強法

技術士受験のための参考書やホームページの多くには、準備した文章を誰かに査読してもらおうと良いとされているが、私は極力これを避けた。アドバイスを受ける事で、自ら考える事をしなくなる可能性があると思ったからである。

自分一人で論文の推敲を重ねて行く場合、独りよがりな

文章になりがちで、論文を読む相手に伝えたい事が伝わらない可能性がある。これを避けるため試験準備の最初の段階で私が行なったのは、自分の専門分野にこだわらず、できるだけ多くの合格論文を集めて読む事だった。これで技術士論文に求められる内容が何かを理解する事が出来た。

この方法を実践した結果、経験論文が完成するまでに4回も大掛かりな変更を行なう羽目になった。無駄な記述を削除していく過程で中身が無くなったり、推敲を重ねていくうちに高度な専門的応用能力を示すに値しないテーマである事が判明したりしたからである。とても効率的とは言えないので、後進の皆様にはお勧めできない方法である。

4. モチベーションの維持

一般に技術士試験に合格するには長く苦しい勉強を自らに強いることになる。そこで重要となるのがモチベーションをいかに維持することができるかである。

私の場合はKABSEのような社外の研究分科会で出会った方々に触発され「こうした人たちのようになりたい」と強く思えたことが、モチベーションを維持する上で非常に重要な役割を果たした。

一方で技術士試験制度の改正という情報もモチベーションの維持に役に立った。試験内容が平成19年度に大きく変わることを日本技術士会が発表した。これまで準備していた内容が、近い将来役に立たなくなるかも知れないという事実が私に勉強を続けさせた。

5. 終わりに

振り返ってみると私の受験動機は、周囲の状況に流されたものであり、決して「技術士」としての高い志から生まれたものではない事が確認され、少し情けない感じもする。しかし勉強を続ける過程で、技術士制度の理念、技術士としての考え方など、以前は知らなかったことを理解したことは、自分自身のレベルアップにつながったと確信している。

技術士の取得は技術者としてのゴールではなく、スタートラインであると誰かが言っていた。動機はどうあれ、幸運にもようやくスタートラインに立てたのだから、まだ見ぬゴールに向けてゆっくりと、しかし確実に歩を進めたいと考えている。

コンクリート診断士合格体験記

福岡スプリットン工業株式会社 技術開発部

梅田 修二

私は、コンクリート二次製品工場に勤めて20年。コンクリート製品の開発と品質管理を担当しています。製造している製品は、積みブロック、インターロッキングブロック、各種側溝類、L型擁壁、防火水槽等、小型の製品から大型



の製品まで様々です。コンクリートの種類も普通コンクリート、超固練りコンクリート、高流動コンクリート、ポーラスコンクリート、軽量コンクリート、超高強コンクリート、レジンコンクリート等、様々なコンクリートを扱ってきました。現在は環境問題にも取り組みゴミ溶融スラグ、下水汚泥焼却灰、ガラスカレット等、スポット的なものも含めて8種類のリサイクル材を、それぞれいろいろな製品に混入し製品化しています。

これくらいの仕事内容ですとコンクリート技士を取得していれば充分対応出来る内容で、他の資格にはさほど興味がありませんでした。コンクリート診断士資格試験の事は以前から知っていましたが、当初私は「コンクリート製品屋にこの資格が必要な？」と言う思いもあり、いつか機会があれば受験をしようと悠長に構えていました。

ところが2年前、ある現場にボックスカルバートを納入している時、製品の表面にクラックが入っているとクレームがつき、ゼネコンからコンクリート診断士による見解と対処法、補修方法を求められました。2年前と言えばコンクリート診断士試験が実施され第3回目の年です。もうこの資格が必要になったかと思うと同時に、この資格の認識が高まっている事を知りました。また、その時期と重なり私の上司であった部長が定年で退職され、その後の仕事を任されるようになりました。今までコンクリート技士の資格だけで満足していたのですが、それ以上のレベルが必要となり受験することになりました。

まず、2日間の講習を受けそのレベルの高さに驚きました。また講師の先生の進行の早いこと。(これは私だけが感じたことかもしれませんが) テキストの内容を覚えるどころか、チェックするのに精一杯でした。もちろん家でも毎日2時間、診断の基礎知識を講習会のテキストで、過去4年間の試験問題を技術書院発行の「コンクリート診断士合格必携」で、不得意な科目である補修工法を友人から貰った日経コンストラクション発行の「これから始めるコンクリート補修講座」で、この3冊を徹底的に「今までこんなに勉強をしたことがあったかな」と思うほど勉強しました。

苦手な記述問題の対策としては、最近のこの業界での出来事などを日頃から注意し情報を収集しておくようにしました。私が受験した年度はマンション設計偽造問題が取りざたされていたので、それに対しての自分なりの考え、コンクリート診断士としての倫理、モラルなどを前もってまとめていました。(その通りが出題されてラッキー!) また、もう一つの記述問題対策として、JCI発行の「コンクリートのひび割れ調査・補修・補強指針2003」の補修・補強事例を参考に、ひび割れの調査方法や原因推定方法などを学びました。

試験当日、私は記述問題が苦手なので四肢択一問題を出来るだけ早くこなし記述問題に時間を多く残すように心がけました。幸い四肢択一問題を1.5時間で終え、残りの2時間を記述問題1問ずつにあてることができました。それでも2問目の記述問題は時間が足りず、文章後半は何を書いたか覚えていません。(かなり焦った!)

試験発表日、封筒の中から合格の文字を見てとてもうれしかったです。その延長で同年度のコンクリート主任技士にも受験し合格となりましたが、大切なのはこの知識をどう生かしてゆくかだと思います。

コンクリートに耐久性が重視されるようになって10年ほど立ちます。現在コンクリート構造物と言えばビルや、橋梁、トンネル等が注目されますが小型のコンクリート製品も重要です。以前、歩車道境界ブロックが不具合を起し保証問題となり高額な補修工事を行ったことがあります。九州大学 松下先生によると原因は遅延型エトリンガイト(DEF)の疑いがあるとのことで、松下先生以下、同研究室の方々には大変御迷惑をお掛けしました。歩車道境界ブロックの1本当たりの長さは60cmですが、それが何本もつながると何十km、何百kmと言った道路、歩道になります。この道路、歩道がブロックの不具合で使えなくなったらどうなるのでしょうか?

最近ではコンクリート製品の耐用年数を聞かれます。昔は「製品を売れば終わり」と思っていたのですが今は施工後も数年の保証を求められることもあります。積みブロック擁壁、L型擁壁、ボックスカルバート等、工場の生産時から現場施工後まで様々な不具合を見てきました。今まではその原因が憶測でしか述べられなかったのですが、診断士合格後は不具合の原因がはっきりとわかるようになりました。また、それによる対処の仕方もわかるようになりました。これからもコンクリート製品の大、小にかかわらず、自分のもてる知識、技術をすべて製品に入れ作っていきたいと思います。

土木鋼構造物診断士合格体験記

国際航業株式会社 九州技術部 上瀧 正人

鋼構造物の損傷について、最初に関わったのは、利根川に架かる水郷大橋（2径間連続斜張橋）の損傷調査業務でした。水郷大橋の現地調査時に、建設省および土木研究所の現場立ち会いがあり、当時の橋梁研究室の西川室長による、鋼箱桁内部の溶接部に発生した亀裂損傷についての説明がありました。この時、初めて見聞した「疲労亀裂」が、鋼構造物の損傷に興味を持つきっかけとなりました。

鋼構造物は私の専門ではありませんでしたので、鋼構造物や鋼材料などの専門用語が理解できずに、勉強が遠のいていました。この度、土木鋼構造物診断士の資格試験があるのを聞いて、これを機会に、再度、鋼構造物の勉強をしてみようと思ったのが、土木鋼構造物診断士を受験する動機となりました。

試験に先立って、講習会が開催されましたが、講習内容が多いわりには時間が短く、テキストの内容を表面的に説明する程度の講習でした。私のような鋼構造物に疎い者には、解らない箇所は解らないまま終わってしまう講習会であったため、試験までの1ヶ月の間に、理解できない部分や専



門用語については、インターネットなどで調べて準備しました。

診断士試験には大きく3種類の設問があり、1つめの専門記述式問題の準備をするに当たって、既設鋼構造物の重要な項目と考えられる①接合方法、②疲労亀裂、③腐食、④座屈の4項目のうち、3項目について予想答案を作成して試験に備えました。実際の記述試験のときには、平板溶接の残留応力分布図やすみ肉溶接の疲労亀裂図、鋼管杭の腐食速度の傾向図などの、テキストの中にある図を覚えていたのが役に立ちました。2つめの択一問題への備えとして、講習会のテキストを一通り読み直し、鋼構造物に関する常識を頭の中に叩きこみました。実際の試験では、テキストに書かれていないことも出題されていて戸惑いましたが、講習会の時に解説されていたことをよく聞いて、理解しておけば、回答できた問題もあったようです。3つめの経験問題については、準備する時間が少なすぎたため、技術士試験で準備していた経験論文の中から業務を選定し、鋼構造物に関する記述が多くなるように、まとめ直して試験に備えました。

以上のように、講習会から受験までの1ヶ月の間で、準備したことを書きましたが、これから、受験される方々の参考になれば幸いです。

- 完 -

土木鋼構造物診断士合格体験記

新構造技術株式会社 九州支店 山本 尚己

KABSE会報編集委員より「土木鋼構造物診断士合格体験記」の執筆依頼があり、大変光栄に思い引き受けたものの、運良く合格することが出来た私の（来年の試験でまた頑張ろうと諦めていた）どういう所を述べればいいのか大変迷いましたが、今後の参考に少しでも役立てればと思い執筆することとしました。

私の所属する部署は既設橋梁の調査・診断・補修・補強等業務を行っていますが、本試験があることを知人から聞き、以前鋼橋メーカーにいて若干鋼構造物をかじったことがあることから、鋼構造物の維持管理に関して再勉強（知識や



技術の習得)をするための目標として受験することを決めました。

平成17年度は「土木鋼構造物診断士制度」が設立された初年度であり、当然過去の問題を参考にすることもできず、まずは講習会を受講してその中で試験に関する情報提供があることを期待しました。しかし、内容的には約300ページのテキストを2日間で概要解説する程度のもので、試験まで残り約1ヶ月しか時間がないためかえって焦る結果となりました。更に、講習の最後には試験の出題内容説明があり、試験時間に対して解答字数がかなり多いなというのが実感でした。

択一式問題への準備としては時間もないことから講習会テキストを基に代表的な用語の内容を理解するよう努めました。専門記述式は出題傾向が掴めないため、非破壊検査・疲労等に的を絞って技術士の過去問題解答などを参考に準

備をしました。(必ずしも的中しませんでした・・・)

業務経験については講習会時の説明から1つの事例を述べるものと勝手に解釈し耐震補強を題材に回答を準備したものの、実際の試験問題は2つの事例を記述するものでした。私はたまたま論文準備段階で2つの題材のいずれにしようか迷い、両方の素案を作成したことが幸いし、どうにか2例についてを最低字数以上記述することができました。今後は、少なくとも2つの経験論文を準備し、できれば「補修」と「耐震補強」など異なるテーマで作成した方が類似問題への対応ができると思います。

今回、幸いにも合格できた訳ですが、今後構造物の診断業務(点検・診断・対策)に対して適切な知識・技術を有し土木鋼構造診断士の名に恥じないような鋼構造の名医を目指して努力したいと思っています。

以上、今後受験される方には何の参考にもならない受験体験記となりましたが、試験ではとにかく最低文字数をクリアしておけば私みたいに運良く合格できる場合もあるので、試験時間の最後まで諦めないことが大切だと思います。ご健闘をお祈りいたします。

以上

新しい北九州空港

北九州市港湾空港局空港企画室

【新空港の概要】

新しい北九州空港は、百万都市にふさわしい都市づくり、圏域200万人の人口を有する北九州地域を中核とする西瀬戸内経済圏・東九州経済圏のネットワークづくり推進の担い手として大きな期待が寄せられており、旧北九州空港の代替として平成6年10月に本格着工され、平成18年3月16日に開港した。

新空港は都心から約15km、陸域から約3kmの海上に、長さ4,125m、幅900m、総面積373haの人工島を造成し、その用地を基礎として建設された本格的な海上空港である。



写真-1 新北九州空港

【新空港整備】

北九州・下関生活圏～首都圏では、年間200万人の流動があると見込まれた。

しかしながら、平成16年度の北九州～羽田の航空旅客はわずかに年間30万人であった。小型ジェット機であるMD87（134人乗り）1日5往復であったため、地域の航空需要に対し供給が追いついていない状況であった。

しかも、三方を山に囲まれ霧が発生しやすいことから、就航率は信頼性に欠け、ビジネスにも観光にも使いにくく、利用者の多くは福岡空港や新幹線に流出していたのである。しかし、空港の周辺は市街化していたため、これ以上の拡張は困難なことから、当地域ではこの空港に替わる新空港の建設が求められ、新空港建設に至った。

新空港整備事業の特徴の一つとして、港湾整備事業と空港整備事業の連携があげられる。北九州市の北部にある関門海峡は潮流が速く土砂がたまりやすいため、安全に船舶が航行するよう常に土砂の浚渫をする必要がある。

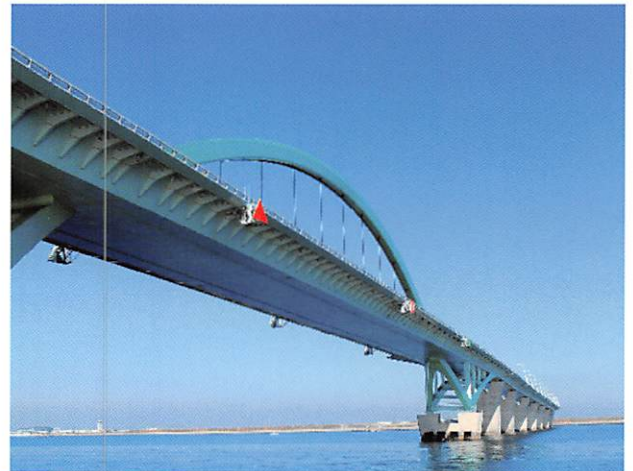


写真-2 空港連絡橋

昭和52年、この浚渫土砂の処分場として、苅田沖土砂処分場が着工された。平成6年には新門司沖土砂処分場も埋立て認可があり、浚渫土砂処分場の跡地に空港を整備することになった。浚渫土砂処分場の上に空港をつくることは、いわば大きなサイクル事業である。

新空港の開港までには長い時間がかかった。空港建設のためだけに山土を埋め立てれば、もっと早く開港できたが、環境面やコストを考慮して慎重につくられた。この空港整備は、港湾整備事業と空港整備事業が合体した新しい空港整備手法であり、一石二鳥のプロジェクトと言える。

【就航路線】

新空港の最大の特徴の一つとして、「24時間空港」があげられる。

新空港は陸域から約3km離れた海上空港であるがゆえに、航空機騒音の影響が少なく、「24時間空港」が実現した。このメリットに着目したのが早朝深夜便を運航する新規航空会社の「スターフライヤー」であり、深夜貨物便を運航する新規貨物専用会社である「ギャラクシーエアラインズ」である。

国内線は東京路線5便だけであった旧空港に比べ、新空港においては、東京便で日本航空が4～5便、スターフライヤーが早朝から深夜まで12便の合計16～17便が運航している。また、新規の路線として、ジェイエアが名古屋（小牧）便を3便、日本トランスオーシャン航空が沖縄便を1便運航している。

国際線としては、中国南方航空が上海・広州便を週3日（火・木・日）運航しており、また、8月19日から9月23日



図-1 就航路線

まではウラジオストク航空が、ロシア・ウラジオストク便を週2便（水・土）季節運航する予定だ。8月22日には佐川急便の子会社ギャラクシーエアラインズが、東京羽田との間で、貨物専用機による深夜貨物便の運航をする予定である。

【アクセス】

空港へのアクセス道路として開港までに、

- ① 北九州都市高速道路と九州自動車道（小倉東IC）との直結
- ② 東九州自動車道（北九州JCT～苅田北九州空港IC）の開通
- ③ 空港連絡道路の開通

を実現した。これにより、アクセス機能が格段に向上し、北九州市の中心部（JR小倉駅）から新空港まで車なら27分で行くことができる。また、旧空港では、2ルートのみでのバス運行であったが、新空港では、市内外から6ルートのエアポートバスが運行している。

エアポートバスが運行されていない早朝深夜の旅客便に対応するアクセスとして、合計13社の乗り合いタクシーが運行されている。例えば、空港から博多まで3,500円、下関まで3,000円で行くことができる。

旅客ターミナルの前面には九州最大規模である1,500台収容可能な駐車場が整備された。本駐車場は、PFIによる事業者選定により、24時間390円と国が管理する空港の中では最も安い駐車場である。

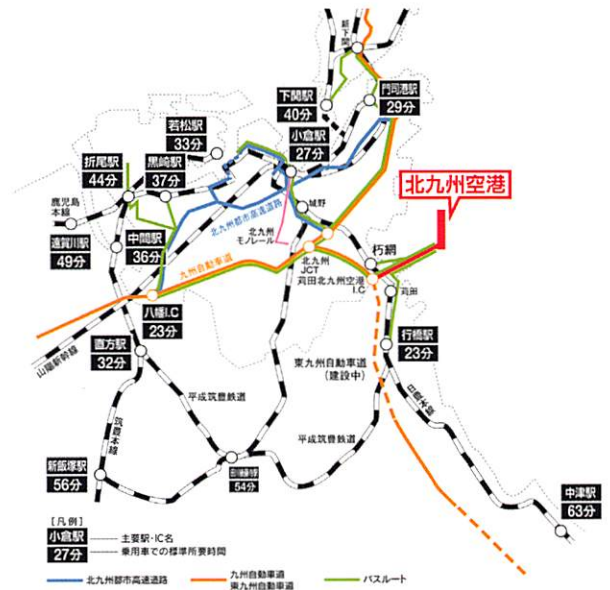


図-2 空港へのアクセス

【新空港開港による北九州市の変化】

○旅客の旅行効率の向上

便数や選択肢が豊富になったことにより、これまでの福岡空港や新幹線利用者が使いやすくなる。さらに、早朝・深夜便の運航により、今まで以上に目的地での時間を有効に活用することができる。東京出張の多い企業では、新空港を利用することで業務の迅速化と経費の削減が可能となる。

○物流の活性化

ギャラクシーエアラインズの深夜貨物専用便の就航により、

- ① 貨物便運航による国内外航空輸送の可能性
- ② 深夜便等を利用した翌日宅配体制
- ③ 九州・山口地域の生鮮特産品の輸送
- ④ 物流産業の集積・活性化
- ⑤ 航空便を利用する周辺企業（自動車産業、IC・電機関連産業等）の集積が期待される。

○地域経済の活性化と新規雇用の増加

航空産業は裾野が広く、空港関連産業、物流産業、交通産業、サービス産業等の集積が期待できる。さらに経済波及効果が高いとされている観光産業についても、新空港を出入口とした観光ルートの開発を確立することにより、地域全体の活性化が期待される。

第24回総会・特別講演会

〔総 会〕

平成18年6月30日（金）、福岡市中央区の福岡ガーデンパレスにおいて、第24回（平成18年度）総会を開催した。

烏野清会長を議長として、平成17年度事業報告、平成17年度歳入歳出決算、平成18年度事業計画（案）、平成18年度歳入歳出予算（案）を審議し、いずれも原案どおり承認可決された。

また、今年度は理事及び監事の改選の年にあたり、満場一致で承認された。なお引き続き第34回（平成18年第2回）理事会が開催され、会長、副会長の選出、運営委員長の選出が行われた。

役員名簿は、巻末に掲載しております。



〔特別講演会〕

総会終了後、同所において約68名の参加のもとに特別講演会が開催された。

講 師：東京大学生産技術研究所

都市基盤安全工学国際研究センター

教 授 目 黒 公 郎 先生

題 目：「効果的な防災対策を実現するために

—ハードとソフト事前と事後—」



〔懇 親 会〕

総会および特別講演会終了後、同ホテル別室において、産・官・学の各界より約64名の参加を得て懇親会が盛況に催された。



<平成17年度（長崎地区）現場見学会報告>

平成17年度KABSE見学会は、昨今の厳しい建設業界の状況を鑑み、従来1泊2日で実施していた日程を短縮して日帰りで行われた。見学対象は、長崎地区で整備中の地域高規格道路の一環である第二西海橋と女神大橋の2橋であり、いずれも完成間じかの状況にあった。参加者はコンサルタント、橋梁メーカーから約30名あり、昼の技術見学会による技術交流と帰福後の希望者による懇親会を通して会員相互の親睦を深めることができた。実施日は平成17年11月24日であり、8:30天神を出発し、第二西海橋（10:30～12:00）、女神大橋（14:30～16:00）、18:00天神着、懇親会（18:30～）のタイムスケジュールで実施された。以下に、見学橋梁の概要を示す。

1. 第二西海橋

第二西海橋は、針尾の瀬戸を跨ぐ鋼中路ブレースドリブアーチ橋と入り江部および公園部に架かる4径間連続PCラーメン箱桁橋から成り、各々の概要と特徴は次の通りである。

(1) 鋼中路ブレースドリブアーチ橋

1) 概要

橋 長：300m

支 間 割：30m+240m+30m（アーチ支間230m）

床 版：合成床版

下部工形式：2柱式橋脚、アーチ拱台、逆T式橋台

2) 特徴

この橋梁は、道路橋として国内初のCFTアーチ橋であり、鋼管トラスで構成されたアーチリブの主管（Φ812.8mm）にコンクリート充填鋼管が採用され、強度面と経済性の面で向上が図られている。CFTを採用するに当たっては、事前に工場にて充填試験が実施され施工性の確認がなされたとのことである。

本橋の架設は、ケーブル支間355m、鉄塔高さ77.5mという国内最大規模のケーブルクレーン斜吊り工法が用いられており、使用されたケーブル総延長は40kmにも及ぶとのことである。

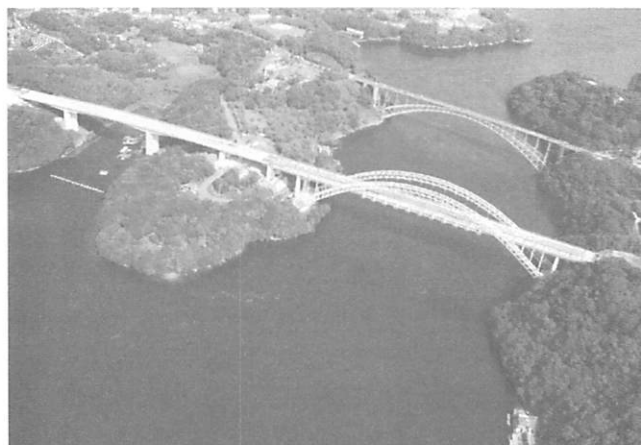


写真1 第二西海橋全景



写真2 鋼中路ブレースドリブアーチ橋

とであった。

また、本橋の両岸は県立公園であり、毎年多くの観光客が訪れる風向明媚な場所でもあるところから、観光客の利便性を図るため桁下に添加式遊歩道が設けられている。

(2) 4径間連続PCラーメン箱桁橋

1) 概要

橋 長：320m

支 間 割：67.5m+110m+88m+54.5m

下部工形式：逆T式橋台、2柱式橋脚

2) 特徴

この橋梁は、1室箱桁形状の2主桁が上床版部のみで結合された構造で、全径間を通じて斜めウェブを採用して景観性に配慮された形状となっている。支承には水平力分散桁が用いられており、支承単独で阪神・淡路大震災クラスの地震にも対応できるBタイプゴム支承が採用されている。

架設においては、構造が上床版のみで連続される2主桁を同時に張り出して製作するために作用反力の偏載荷を軽減させる特殊移動作業車が用いられている。



写真3 4径間連続PCラーメン橋

2. 女神大橋

女神大橋は、長崎港湾口の東西を最短距離で連絡することで市内の交通混雑を緩和し、長崎市周辺の産業、経済、文化の活性化を図ることを目的として建設された橋梁である。

本橋部の構造は3径間連続鋼斜張橋であり、その概要と特徴は以下の通りである。

1) 概要

橋 長：880m

支 間 割：200m+480m+200m

桁下空間：最高水面+65m

主塔形式：H型（全高：170m）

主塔下部：ニューマチックケーソン

2) 特徴

女神大橋は、完成すれば国内第6位の最大支間を有する斜張橋であり、世界的にも第17位にランクされる長大橋である。主塔は景観性を考慮して五角形断面が採用されており、基部ブロック、下部大ブロック、上部ブロックの3分割架設で建造されている。主桁断面はフェアリング付逆台形箱桁で、バランス架設工法（中央径間側：長さ15mで重量約250tの輪切ブロックの直下吊架設、側径間側：長さ10～15mで重量約50～90tの幅方向3分割の張出し架設）



写真4 女神大橋主塔および橋面状況

が用いられている。ケーブル張形式はマルチファン形式の2面吊り構造で、斜ケーブルはΦ7mmの亜鉛メッキ鋼線421本を束ねたものを高密度ポリエチレン被覆したケーブル（最大許容張力=1037tf）が採用されている。

斜張橋は、極めて柔軟な構造形式であり、風荷重に対する振動対策が不可欠となる。女神大橋の建設に当たっても、主塔完成時、主桁架設時、全体完成時の各施工段階ごとに風洞実験による耐風安定性の検討がなされており、適切な制振対策が施されている。

おわりに

第二西海橋、女神橋ともに交通の利便性向上もさることながら、観光のシンボルとして地域活性化の面でも大いに寄与することとなろう。今回の見学会に参加し、海洋架橋という極めて高度な施工技術を要する現場を見学して今更ながら技術力の進歩に目をみはる思いであった。

最後に、今回の見学会に際し、長崎県北振興局、長崎県女神大橋建設事務所の方々はじめ各現場職員の方々にはご多忙中にも関わらず、現場説明を快く引き受けて頂き厚く御礼申し上げます。

（見学会小委員会一同）



写真5 女神大橋主塔を背景に記念撮影

＜平成17年度技術発表会報告＞

土木学会西部支部が主催、KABSEが共催する平成17年度技術発表会が以下のとおり開催されました。

日 時：平成18年2月17日（金）10:00～17:00

会 場：九州大学ベンチャービジネスラボラトリー

参加人員：61名

内 容：

- 1) 新型補強土壁工法の開発 – スーパーテールアルメ工法の紹介 – ヒロセ(株) 佐原 邦明氏
- 2) 立体交差急速施工の新技术
(株)日本橋梁建設協会 美島 雄士氏
- 3) 延長床版の現状
(株)日本橋梁建設協会 鞆 一氏
- 4) 石灰混合処理浚渫土の基本特性とリクレマ船による施工方法について 関門港湾建設(株) 湯 怡新氏
- 5) 地盤調査と設計が一体となって行った新北九州空港連絡橋基礎の調査・設計事例報告
基礎地盤コンサルタンツ(株) 白井 康夫氏
- 6) 中之島地すべり対策
– 三次元浸透解析・三次元安定解析 –
(株)アイエステー熊本事務所 上妻 良昌氏
- 7) コンクリート構造物の劣化診断の新技术紹介
(株)建設技術研究所 吉田 直紹氏
- 8) 底面下半拡幅構造を用いた吊橋トンネルアンカレイジの計画 日本技術開発 宮本 宏一氏
- 9) 老朽既設吹付法面に緑を！
ライト工業(株) 内山 宏氏
- 10) 流木を有効利用した防草吹付工法の開発
九州電力(株) 坂元 博巳氏
- 11) トンネル坑口上部斜面崩壊と災害復旧
JR九州豊肥久大鉄道事業部 後藤 淳氏

1) は、施工効率の改善、補強材の最適配置、オールプレキャスト化による経済性と安全性の向上、及びデザイン性向上を目指し、高盛土壁を構築する新型補強土壁工法として開発された、「スーパーテールアルメ」の紹介であった。

2) は、立体交差の急速施工技術を用いた代表的な事例として、協会会員会社が上下部一体で施工を行い平成16年11月に竣工した原田高架橋についての紹介であった。

3) は、近年、道路橋の振動や騒音問題の一つの解決法として採用されている延長床版に関して、(独) 土木研究所と(株)日本橋梁建設協会の共同研究のこれまでの成果を中心に各種情報を整理した報告であった。

4) は、石灰混合処理浚渫土の基本特性として、室内配合試験結果、捨石護岸の模型実験結果の報告と、既存のリクレマ船の活用による施工費用抑制効果の紹介であった。

5) は、新北九州空港連絡橋基礎の設計において、設計方法、地盤のモデル化、地盤調査方法を、地盤と基礎設計の専門技術者が一体となって行い、より合理的で経済的な

調査・設計を行うことができた事例の紹介であった。

6) は、中之島の災害関連緊急地すべり対策事業の計画に当たって、合理的で最適な排水効果をもたらす、集水井13基の配置のための三次元浸透流解析・三次元安定解析の概要と地下水排除工の効果についての報告であった。

7) は、コンクリート構造物の点検、健全性の判定を行う上で、従来の手法に比べ簡易で、かつコスト面においても合理的な回転式打音検査器を用いた劣化診断技術の紹介と今後の維持管理のあり方についての報告であった。

8) は、トンネル底面を下方方向に拡幅したトンネルアンカレイジの力学的な特徴と経済性を、従来の上半拡幅構造と対比するとともに、合理的なトンネルアンカレイジ設計のために実施した、一連の設計検討結果の報告であった。

9) は、老朽化した吹付モルタル・コンクリートを剥ぎ取らず、むしろ構造体の一部に取り込んで利用すると共に、法面表面を緑化することで環境・景観に配慮した法面整備施工事例の紹介であった。

10) は、流木の有効利用の一環として破碎後のチップを使用した法面等への防草吹付工法を開発した。そのために実施した室内試験から現場施工までの概要の報告であった。

11) は、大規模な斜面崩壊が発生した百枝トンネル坑口上部に関して、急峻な斜面での災害の発生要因とその対策工法の計画、設計および施工結果についての報告であった。

本発表会は、新技术、新工法や工事報告などを40分程度の時間で、スライドやビデオなどを使用して発表していただき、情報交換を行う場です。本会報の新技术・新製品コーナーに投稿頂ければ、併せて次回の技術発表会での講演をお願いする企画になっております。会員の皆様には奮って参加をお願いいたします。

最後に、本会を盛会裡に終えることができましたのも、発表者の皆様と土木学会西部支部の関係者各位のおかげです。ここに記して謝意を表します。

＜平成17年度講習会報告＞

平成17年度のKABSE主催による講習会は3件開催されました。以下にその内容を報告致します。

講習会の内容

第1回 「性能設計法による橋梁設計の調査・研究に関する講習会」

本講習会は、KABSEの「性能設計法による橋梁設計の調査・研究分科会」（主査：(株)九州建設技術管理協会 佐竹正行）の平成11年～16年度にわたる研究・調査活動の成果を報告するために開催された。その内容は性能設計法に関する試設計および現状の課題などについて、実務者の性能設計法に対する理解を深めるための講習会で、以下の要領で実施された。

- (1) 主 催：九州橋梁・構造工学研究会

- 共 催：土木学会西部支部
後 援：建設コンサルタンツ協会九州支部
- (2) 日 時：平成17年9月30日（金）13:00～17:00
- (3) 会 場：福岡県教育会館 福岡県福岡市東区馬出4丁目12-22 TEL 092-631-4600
- (4) プログラム
- 司会進行 (株)オリエンタルコンサルタンツ 山田 益司
開会挨拶 九州橋梁・構造工学研究会会長 烏野 清
分科会活動概要と試設計モデル
(社)九州建設技術管理協会 佐竹 正行
架橋地点の入力地震動作成
パシフィックコンサルタンツ(株) 濱本 朋久
上部構造（鋼桁）の試設計
(株)橋梁コンサルタント 清水 洋二
上部構造（PRC箱桁）の試設計
中央コンサルタンツ(株) 勝部 克美
下部構造（RC橋脚／場所打ち杭）の試設計
(株)構造技術センター 原 利弘
試設計総括と今後の課題 九州産業大学 水田 洋司
閉会挨拶 土木学会西部支部支部長（代読）
九州産業大学 水田 洋司
- (5) 参加者：77名

第2回 「基礎設計の合理化に関する講習会」

本講習会は、KABSEの「基礎設計の合理化に関する研究分科会」（主査：九州共立大学 前田良刀）の平成15、16年の2年間にわたる研究成果を報告するために開催された。その内容は、構造物基礎設計の合理化を目指し、地盤工学と構造工学の挟間を埋めるための研究・調査活動について、以下の要領で実施された。

- (1) 主 催：九州橋梁・構造工学研究会
共 催：土木学会西部支部
後 援：建設コンサルタンツ協会九州支部
- (2) 日 時：平成17年10月20日（木）10：30～17：00
- (3) 会 場：福岡ガーデンパレス
福岡市中央区天神4-8-15 TEL 092-713-1112
- (4) プログラム
- 司会進行 (株)オリエンタルコンサルタンツ 山田 益司
開会挨拶 九州橋梁・構造工学研究会会長 烏野 清
全体概要 九州共立大学 前田 良刀
- 第1章 地盤と基礎
国土交通省九州地方整備局 横山 浩、中央コンサルタンツ(株) 荒木 和哉
- 第2章 基礎のための構造学
(株)総合技術コンサルタント 坂口 和雄、第一復建(株) 荒牧 聡、高野 道直
- 第3章 土の力学的性質
(株)エム・ケーコンサルタント 御厨 祐也、(株)オリエンタルコンサルタンツ 岩上 憲一

- 第4章 地盤調査
基礎地盤コンサルタンツ(株) 若林祐一郎、(株)コンサルタンツ大地 中谷 隆生
- 第5章 地盤の支持力
九州共立大学 前田 良刀、(株)福山コンサルタント 福山 則行
- 第6章 基礎の設計計算
(株)オリエンタルコンサルタンツ 青龍 靖則、(株)建設技術研究所 嶋田 紀昭
- 第7章 基礎の動的解析
日本技術開発(株)宮本宏一、九州大学 大塚 久哲、熊本大学 松田 泰治
- 質疑応答
閉会挨拶 土木学会西部支部支部長
(代読) 熊本大学 松田 泰治
- (5) 参加者：51名

第3回 「鋼連続合成桁橋の設計・解析および耐候性鋼橋の現状」

本講習会は、KABSEの2つの分科会「合成桁の設計と解析に関する検討研究分科会（主査：宮崎大学 今井富士夫）」、「九州・山口地区における耐候性鋼橋の調査・研究分科会（主査：九州工業大学山口栄輝）」で調査・研究の成果を公表するために、以下の要領で開催された。

- (1) 主 催：九州橋梁・構造工学研究会
共 催：土木学会西部支部
- (2) 日 時：平成17年11月25日（金）13:00～17:00
- (3) 会 場：福岡県教育会館 福岡県福岡市東区馬出4丁目12-22 TEL 092-631-4600
- (4) プログラム
- 司会進行 長崎大学 森田 千尋
開会挨拶 九州橋梁・構造工学研究会副会長 久保 喜延
- (Part I) 鋼連続合成桁橋の設計と解析
- ①概要と鋼連続合成2主I桁橋の設計法に関する調査
川田工業(株) 辛島景二郎
- ②中間支点部のコンクリート床版に関する検討
(株)建設技術研究所 久留島卓朗
- ③連続合成桁の中間支点部の断面力性状に関する検討
宮崎大学 今井富士夫
- ④連続合成桁の解析と設計との比較
JIPテクノサイエンス(株) 三枝 貴則
- ⑤複合構造に関する解析事例
長崎大学 松田 浩
- ⑥防水工について
日本工営(株) 山根 誠一
- 質疑・応答
(Part II) 耐候性鋼橋梁の現状と課題
- ①耐候性鋼橋梁の実態（九州・山口地区における調査結果）

九州工業大学 山口 栄輝

②新しい耐候性鋼材社

日本鉄鋼連盟 田中 陸人

質疑応答（全体に関する質疑も含む）

閉会の辞

宮崎大学 今井富士夫

(5) 参加者：59名（内：学生4名）



おわりに

各講習会とも多数の参加者で、大変好評でした。会場の参加者からは、報告内容に関して活発な質疑が行われました。このように有意義な講習会を開催できましたのも、講師の方々ならびに関係各位の御尽力によるものであります。ここに、記して謝意を表します。

分科会報告

研究連絡小委員会

■木橋の施工と耐久性調査に関する研究分科会

<目的>

近年、CO₂吸収源としての森林の保護育成、森林保全による地域環境や防災対策、低環境負荷素材の活用、アメニティ等の理由から建設材料としての木材に注目が集まっており、それらを活用した木橋も多く見られるようになってきた。しかしながらそれらの維持管理に関しては試行錯誤的な取り組みが続けられているのが現状である。そこで本研究分科会では木橋他の木質構造物の維持管理や保守工事の現状を調査し、よりよい方法を提案することを目的とする。

<活動状況>

昨年に引き続き、各地の木橋、木質構造物の見学会を3回開催した。ここでは見学のみならず、施工業者や管理者にも同席いただき、施工から維持管理業務全般の取り組み並びに課題についてのヒアリングを行った。また海外の木橋視察の報告を通じて、海外における現状と課題、および参考とすべき点などに関する検討を行った。

以下に会議・見学会の日時と場所、内容を示す。

第4回会議・見学会

日時：2005年5月23日(月)～24日(火)

場所・内容：佐賀県神埼町(愛逢橋調査・吉野ヶ里公園木造施設見学) 佐賀県西有田町(桑々田池木橋調査) 佐世保市(ハウステンボス木造施設見学)

出席者：7名(委員以外の出席者を含む)

第5回会議・見学会

日時：2005年9月28日(水)～29日(木)

場所・内容：鹿児島県金峰町(金峰2000年橋調査) 鹿児島市(ドルフィンポート他見学) 串木野市(仙人橋・徐福橋調査)

出席者：9名(委員以外の出席者を含む)

第6回会議・見学会

日時：2005年10月17日(月)～18日(火)

場所・内容：北九州市(常盤橋調査)

出席者：9名(委員以外の出席者を含む)

第7回会議

日時：2006年2月10日(金)14:00～17:30

場所：熊本大学工学部

内容：スイス・オーストリアの木橋情報(渡辺主査) / 報告書について

出席者：4名

<委員構成>

(氏名) (摘要)

(勤務先)

渡辺 浩 主査

熊本大学

池田 元吉 副査

熊本県林業研究指導所

上月 裕 幹事

熊本県

竹下孝一郎 幹事

(株)長大

飯村 豊

宮崎県木材利用技術センター

池内 巖

(財)林業土木コンサルタンツ

井上 正文

大分大学

植野 芳彦

(株)長大

小郷 政弘

構造技術研究所

加藤 雅史

九州東海大学

神田 稔

山佐木材(株)

椎原 淳

宮崎県木材利用技術センター

張 日紅

和光コンクリート工業(株)

樋口 友三

宮崎ウッドテクノ(株)

藤田 和彦

広島県立林業技術センター

二見 昭廣

宮崎ウッドテクノ(株)

間瀬 英男

宮崎ウッドテクノ(株)

村田 忠

山佐木材(株)

矢田 茂樹

横浜国立大学

矢原 勇

木構造システム(有)

山尾 敏孝

熊本大学

山下 智

木構造システム(有)

■土木遺産の文化財として保存・活用する技術に関する研究分科会

<目的>

近代土木遺産を文化財として保存や活用する場合の方策や適用可能な技術が求められているが、土木遺産を本格的な参考書や手引きがないのが現状である。そこで、調査結果や成果を基に、土木遺産に関する「保存工学」の確立に向けて、一般の方でも土木遺産を保存・活用する場合の参考とできる手引き書の作成を目指すことにする。また、同時に、実際にアンケート調査等を実施し、土木遺産を文化財として価値を全く喪失させないような補修、補強や改修等における新技術の開発・検討を試みるものである。

<活動状況>

平成17年度の活動状況について、以下にその概要を報告する。

1) 話題提供者

- ・第3回：「花粉化石から何が分かるか？」岩内明子氏（株：アバンス）
熊本平野の地質についての話題提供。阿蘇カルデラの形成と熊本平野の成り立ちや特徴を中心に、地層を対象にした花粉分析をすることにより地質調査が可能との話があった。
- ・第4回：戸馳島及び三角への1泊2日の現地調査
戸馳島の1600年代に作られた本村新地、江戸末期の片島新地などの干拓地と古塘岸の下水門の旧堤防および旧樋門を見学した。立派な樋門と石垣堤防が当時のまま残されていた。
- ・第5回：各グループの最終活動報告があり、報告書の作成について協議した。その結果報告書は作成し、さらに9月ごろ熊本で講習会を実施することを決定した。

2) 分科会の実施方針と実施計画

- 2回ほど下記のグループ長が集まり、研究分科会の方針や実施内容について協議した。
- 特に、各グループの実施状況を確認しながら行った。

3) 各グループごとの研究実施状況

① 姫井橋グループ：

- 姫井橋の補修・保存に関するアンケートが実施した。アンケートは12月中旬に姫井地区の地区長さんを通して行われたもので、36人から回答あった。
- アンケートの結果より、姫井橋についてはかなり関心が高いことが示され、文化財と保存していくべきと答えた方も多く、土木遺産として旭志村貴重な財産であるとの認識が確認できた。

② 横島町の樋門・堰堤グループ：

- 潮受堤防に使われている石

材および形状についての測量等の現地調査がされた。

- 石積みの石は安山岩と砂岩から構成されているなどの特徴があるとのことである。特に、砂岩は府本層や七浦層など玉名地域から採取された可能性あることが指摘された
- 玉名市・横島町「有明海旧干拓施設群」として末広開堤防および樋門、明丑開堤防と樋門が熊本県指定の文化財として諮問されたとの報告があった。
- 堤防の石材での補修・補強状況について現地調査を行った。
- ③ レンガ造りの隧道・発電所建屋グループ：
 - これまでの調査内容を踏まえ、修理・補強に向けた問題点課題の整理及び具体的な工法等について整理した。

4) その他

- ・研究成果を第25回土木史研究発表会に投稿し、川越委員が研究発表を行った。
- ・講習会は9月または10月に熊本で実施し、時間は午後半日とする。

<委員構成>

(氏名)	(摘要)
(勤務先)	
山尾 敏孝	主査
熊本大学工学部	
平嶋 孝	副査
(株)大揮環境計画事務所	
重石 光弘	幹事
熊本大学工学部	
浅井 利行	
応用地質(株)	
岩内 明子	
(株)アバンス	
岩坪 要	
八代工業高等専門学校	
上田 省吾	
(株)鴻池組九州支店	
大見 直子	

熊本県
緒方 滋
三井住友建設(株)
川越 浩正
(株)大揮環境計画事務所
工藤 伸
(株)アバンス
城 秀夫
(株)構造技術センター
高柳 勝郎
菊池市
田添 耕治
三井住友建設(株)
田中 邦博
九州共立大学工学部
津田 雄次
(有)ワイルド・ダック
戸塚 誠司
熊本県
二宮 公紀
鹿児島大学工学部
水田 洋司
九州産業大学工学部
宮村 重範
西田鉄工(株)
山下 誠一
正栄建装(株)
矢野 康二
宮崎県

九州地区における橋梁の維持管理に関する研究分科会

<目的>

地方自治体の道路橋の維持管理費は年々増大する傾向にあり、将来的にはインフラ整備費の多くを維持管理費が占めることが予想される。また、近年の財政状況の悪化から、インフラ整備費の縮減が必至とされている。このような情勢の下、九州地区の各自治体においても、上述のような問題認識は一様にもちながら、現実的には既設の管理橋梁の劣化・損傷の実態把握や調査点検データの集積など不十分な状況を抱えている。また、今後の維持点検のニーズに対

応できる専門知識を有する職員の養成においても立ち遅れていると言わざるを得ない。

そこで、本分科会では、九州地区の各自治体における道路橋の維持管理の現状や今後の既設橋梁を簡便かつ適切に維持管理するための方策について、産官学の技術者で情報交換および調査検討するものである。

<活動状況>

今後の分科会の活動内容とワーキンググループの構成について検討している。また、各自治体で実施されている道路橋の維持管理の現状を把握するために、講師による話題提供によって勉強会を実施している。

準備会

日時：平成17年7月25日(月)15:00～17:00

場所：九州大学大学院工学研究院建設デザイン部門会議室

議事：分科会の活動内容、橋梁の維持管理の現状、メンバー構成

出席者：7名

第1回分科会

日時：平成18年3月24日(金)15:00～17:00

場所：九州大学大学院工学研究院建設デザイン部門会議室

議事：分科会の活動方針、話題提供、メンバー構成

出席者：35名

<委員構成>

(氏名)	(摘要)
(勤務先)	
日野 伸一	主査
九州大学	
川崎 巧	副査
(株)長大テック	
貝沼 重信	幹事
九州大学	
山口 浩平	

九州大学
園田 佳巨
九州大学
木村 吉郎
九州工業大学
森田 千尋
長崎大学
中澤 隆雄
宮崎大学
重石 光弘
熊本大学
有住 康則
琉球大学
合田 寛基
九州工業大学
渡辺 浩
福岡大学
右田 隆雄
福岡県
増田 茂司
宮崎県
塩屋 勝久
鹿児島県
小川 友彦
大分県
原 豊
佐賀県
山下 征之
熊本県
照屋 寛志
沖縄県
宮本 能久
福岡市
中島 賢治
福岡市
宮崎 久隆
北九州市
安波 博道
(財)土木研究センター
片山 英資
福岡北九州高速道路公社
白石 法行
福岡北九州高速道路公社
愛敬 圭二
中央コンサルタンツ(株)
朝隈 竜也
(株)オリエンタルコンサルタンツ
藤本 圭太郎
(株)建設技術研究所

山根 立行
(株)建設技術研究所
山田 浩司
(株)長大
早川 泰文
(株)長大
田中 智行
中央コンサルタンツ(株)
勝谷 康之
(株)千代田コンサルタンツ
白石 隆俊
パシフィックコンサルタンツ(株)
赤堀 智幸
日本工営(株)
烏山 郁男
オリエンタル建設(株)
一ノ瀬寛幸
オリエンタル建設(株)
平安山良和
(株)ピーエス三菱
本山 靖弘
(株)ピーエス三菱
山下孝太郎
(株)富士ビー・エス
江崎 守
(株)安部日鋼工業
宮原 裕二
(株)安部日鋼工業
浅野 浩一
三井造船(株)
藤田 明彦
ショーボンド建設(株)
浅利 公博
メンテナンスソーシャル(株)
浅野 晶子
計測検査(株)
山口順一郎
(株)構造技術センター

□大学における構造系教育の現状と社会の要請に関する検討分科会

<目的>

現在、少子高齢化の進展や多様な高等教育の普及にともない、大学教育の在り方に大きな変化が生じつつある。一方、世界でも有数の先進国

となった日本の国内における土木・建設業界に対するニーズにも大きな変化が見られ、数多くの大学で今後の土木工学の在り方について検討が行われている。そのような状況を踏まえ、将来の構造系科目の教育内容や方法についても見直す必要がある。そこで、本分科会では、構造系科目の存在意義や有用性、将来の構造技術者に求められる能力などを検討することで、これからの構造系教育の理想像を明示することを目標に活動を行うものである。

<活動状況>

将来の構造系科目の在り方について模索するために、以下の手順・内容で検討を進めている。

大学における構造系科目（構造力学、橋梁工学等）の現状をシラバスにより調査し、大学において何が教えられているかを整理する。

企業が構造系教育に対して求めるものは何かを調査する。

効果的な授業のためのツールを収集あるいは開発する。

企業人あるいは新入社員を対象とした継続教育の方法について検討する。

第1回分科会

日時：平成17年10月13日(木)14:00～17:00

場所：九州大学大学院工学研究院建設デザイン部門 会議室

議事：各大学の構造系教育の現状報告、分科会の目的・活動方針

出席者：6名

<企業アンケート調査>

期間：平成18年1月～2月

対象：KABSE 2種会員

内容：構造系教育全般に関する意識・意見

第2回分科会

日時：平成18年6月2日(金)13:00

～16:00

場所：九州大学大学院工学研究院建設デザイン部門 会議室

議事：企業アンケート回答に関する討議、標準教科書の検討、今後の分科会の進め方

出席者：6名

<委員構成>

(氏名) (摘要)

(勤務先)

園田 佳巨 主査

九州大学

麻生 稔彦 副査

山口大学

山尾 敏孝

熊本大学

松田 泰治

熊本大学

木村 吉郎

九州工業大学

中村 聖三

長崎大学

森田 千尋

長崎大学

帯屋 洋之

佐賀大学

上記委員により標準教科書・カリキュラムを検討した後（平成18年度後半）に、その内容に関する討議を行うために、産・官界から委員を募る予定としている。

▣橋梁の実挙動を考慮した解析手法に関する研究分科会

<目的>

橋梁の設計手法は、棒部材を組み合わせたモデルの解析から得られた断面力を基に、応力度が許容値内であることを確認する方法が主流である。このモデル化において、安全側の設計となるという仮定に基づいた部材の簡略化や無効化が慣例的に行

われている。しかし、実橋梁の挙動は必ずしも上記の解析結果と一致するものではなく、ほとんどの載荷試験結果は理論値（棒モデル）よりも小さな応力度となり、それらの乖離が小さくないことも珍しいことではない。

そこで、本分科会では、橋梁の設計時における計算モデルと実挙動の乖離、安全側の設計として簡略化や無効化した部材の応力分担に着目し、載荷試験結果をもとに橋梁の実挙動をよりよく反映するための解析手法について検討することを目的としている。

<活動状況>

本年度の活動は、4回の分科会を開催し、別途、2回の幹事会を実施した。分科会の議題内容については以下のとおりである。

第1回分科会

開催日：2005年6月10日(金)

場所：九州大学大学院

出席者：18名

議題：

- (1) 研究対象について
- (2) データ収集法について
- (3) 役割分担について
- (4) スケジュールについて
- (5) 着目点について

第2回分科会

開催日：2005年8月19日(金)

場所：(株)建設技術研究所

出席者：15名

議題：

- (1) 第1回議事録確認
- (2) 話題提供「耐荷力照査と応力頻度測定」日本工営(株) 山根誠一副査
- (3) スケジュール
- (4) 資料収集状況
- (5) 収集済み資料についての意見交換

第3回分科会

開催日：2005年10月24日(月)

場 所：日本工営(株)

出席者：14名

議 題：

- (1) 第2回議事録確認
- (2) 話題提供「載荷試験の事例紹介」(株)名村造船所 荒川正彦氏
- (3) 対象橋梁の確定および作業内容
- (4) 作業班分け

第4回分科会

開催日：2006年1月13日(金)

場 所：長崎大学

出席者：17名

議 題：

- (1) 第3回議事録確認
- (2) 話題提供「3次元FEM解析の鋼橋設計への適用に関する研究小委員会の活動内容」長崎大学 森田千尋主査
- (3) 各作業の進捗状況について
- (4) 各WG会議
- (5) 平成18年度研究分科会の募集について

久留島卓朗

(株)建設技術研究所

竹下 浩司

日本鉄塔工業(株)

塚本 岳史

川田工業(株)

中山 元

(株)オリエンタルコンサルタンツ

丹羽 量久

JIPテクノサイエンス(株)

松田 浩

長崎大学工学部

松原 宏和

(株)オリエンタルコンサルタンツ

三枝 貴則

JIPテクノサイエンス(株)

山口 栄輝

九州工業大学工学部

山口 浩平

九州大学大学院工学研究院

山崎 正則

(株)名村造船所

<委員構成>

(氏名)

(摘要)

(勤務先)

森田 千尋

主査

長崎大学工学部

山根 誠一

副査

日本工営(株)

藤木 剛

幹事

(株)長大

安東 祐樹

ショーボンド建設(株)

井口 真一

(株)フォーラムエイト

今井富士夫

宮崎大学工学部

今福 祥隆

中央コンサルタンツ(株)

上田 浩之

三菱重工業(株)

加藤 正史

(株)東京鐵骨橋梁

河邊 修作

(株)富士ビー・エス

会務報告

平成18年度 分科会活動

区分	研究分科会名	主査	副査
継続1	九州・山口における橋梁の維持管理に関する研究分科会	日野伸一 (九州大学)	川崎巧 (株長大テック)
継続2	大学における構造系教育の現状と社会の要請に関する研究分科会	園田佳巨 (九州大学)	麻生稔彦 (山口大学)
新規1	道路橋の載荷試験結果に対する解析の検討研究分科会	森田千尋 (長崎大学)	山根誠一 (日本工営(株))
新規2	木橋の維持管理の事例と技術に関する研究分科会	渡辺浩 (福岡大学)	池田元吉 (熊本県林業研究指導所)
新規3	土木遺産の保存・活用を含めた保存工学に関する研究分科会	山尾敏孝 (熊本大学)	平嶋孝 (株大輝環境計画事務所)
新規4	九州伝承遺産とその保存活用に関する研究分科会	後藤恵之輔 (長崎大学)	幸田亮一 (熊本学園大学)
新規5	設計実務を視野に入れた土木設計教育のあり方に関する研究	岩坪要 (八代高専)	木村吉郎 (九州工業大学)

平成17年度 歳入歳出決算

1. [一般会計]

歳入総額 7,284,690円
歳出総額 5,958,768円
差引残高 1,325,922円

(歳入)

(単位：円)

項目	予算額	決算額	比較	備考
前年度繰越金	1,565,666	1,565,666	0	
正会員(第1種)会費	1,290,000	1,173,000	△ 117,000	
正会員(第2種)会費	3,600,000	3,570,000	△ 30,000	
懇親会参加費	100,000	81,000	△ 19,000	
講習会参加費	1,500,000	894,000	△ 606,000	
雑収入	44,334	1,024	△ 43,310	
計	8,100,000	7,284,690	△ 815,310	

(歳出)

(単位：円)

項目	予算額	決算額	比較	備考	
事業費	総会費	100,000	41,055	△ 58,945	
	懇親会費	250,000	256,202	6,202	
	講演会費	150,000	21,155	△ 128,845	
	見学会費	150,000	150,000	0	
	講習会費	1,400,000	752,050	△ 647,950	
	調査・研究活動費	1,190,000	595,976	△ 594,024	
	会報・会員名簿発行費	800,000	847,500	47,500	
	論文集発行費	1,000,000	792,495	△ 207,505	
小計	5,040,000	3,456,433	△ 1,583,567		
事務費	手数料	60,000	39,105	△ 20,895	
	通信費	400,000	273,073	△ 126,927	
	事務用品費	100,000	47,236	△ 52,764	
	印刷費	250,000	236,930	△ 13,070	
	旅費・交通費	100,000	97,018	△ 2,982	
	会議費	800,000	770,253	△ 29,747	
	人件費	750,000	671,400	△ 78,600	
	雑費	100,000	67,320	△ 32,680	
小計	2,560,000	2,202,335	△ 357,665		
特別会計へ繰入れ	500,000	300,000	△ 200,000		
小計	500,000	300,000	△ 200,000		
合計	8,100,000	5,958,768	△ 2,141,232		

※差引残高については平成17年度へ繰り越し
7,284,690 - 5,958,768 = 1,325,922円

2. [特別会計]

歳入総額 1,300,373円
歳出総額 0円
差引残高 1,300,373円

(歳入)

(単位：円)

項目	予算額	決算額	比較	備考
前年度繰越金	1,000,366	1,000,366	0	
一般会計からの繰入れ	500,000	300,000	△ 200,000	
預金利子	634	7	△ 627	
計	1,501,000	1,300,373	△ 200,627	

(歳出)

(単位：円)

項目	予算額	決算額	比較	備考
特別調査研究活動費	1,501,000	0	△ 1,501,000	
予備費	0	0	0	
計	1,501,000	0	△ 1,501,000	

※差引残高については平成17年度へ繰り越し
1,300,373 - 0 = 1,300,373円

平成18年度 歳入歳出予算 (案)

1. [一般会計]

(歳入)

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
前 年 度 繰 越 金	1,325,922	1,565,666	△ 239,744	
正 会 員 (第 1 種) 会 費	1,200,000	1,290,000	△ 90,000	3,000円×400人
正 会 員 (第 2 種) 会 費	3,600,000	3,600,000	0	30,000円×120口
懇 親 会 参 加 費	100,000	100,000	0	
講 習 会 参 加 費	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	
雑 収 入	24,078	44,334	△ 20,256	
計	7,250,000	8,100,000	△ 850,000	

(歳出)

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考	
事 業 費	総 会 費	100,000	100,000	0	
	懇 親 会 費	250,000	250,000	0	
	講 演 会 費	150,000	150,000	0	
	見 学 会 費	0	150,000	△ 150,000	
	講 習 会 費	900,000	1,400,000	△ 500,000	
	調 査・ 研 究 活 動 費	1,140,000	1,190,000	△ 50,000	
	会 報・ 会 員 名 簿 発 行 費	850,000	800,000	50,000	
	論 文 集 発 行 費	1,000,000	1,000,000	0	
	小 計	4,390,000	5,040,000	△ 650,000	
事 務 費	手 数 料	60,000	60,000	0	
	通 信 費	400,000	400,000	0	
	事 務 用 品 費	100,000	100,000	0	
	印 刷 費	250,000	250,000	0	
	旅 費・ 交 通 費	100,000	100,000	0	
	会 議 費	800,000	800,000	0	
	人 件 費	750,000	750,000	0	
	雑 費	100,000	100,000	0	
小 計	2,560,000	2,560,000	0		
特 別 会 計 へ 繰 入 れ	300,000	500,000	△ 200,000		
小 計	300,000	500,000	△ 200,000		
合 計	7,250,000	8,100,000	△ 850,000		

2. [特別会計]

(歳入)

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
前 年 度 繰 越 金	1,300,373	1,000,366	300,007	
一 般 会 計 か ら の 繰 入 れ	300,000	500,000	△ 200,000	
預 金 利 子	627	634	△ 7	
計	1,601,000	1,501,000	100,000	

(歳出)

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
特 別 調 査 研 究 活 動 費	1,601,000	1,501,000	100,000	
予 備 費	0	0	0	
計	1,601,000	1,501,000	100,000	

会 則 ・ 分 科 会 規 定



KABSE

KYUSHU ASSOCIATION FOR
BRIDGE AND STRUCTURAL
ENGINEERING

九州橋梁・構造工学研究会

九州橋梁・構造工学研究会会則

第 1 章 総 則

(名 称)

第1条 この会は、九州橋梁・構造工学研究会（以下、「本会」という。）と称する。

(所在地)

第2条 本会は、事務局を福岡市内におく。

第 2 章 目的および事業

(目 的)

第3条 本会は、土木構造全般に関する諸問題を会員の専門もしくは職場にとらわれず、自由な立場で討議し、調査・研究・開発に参加あるいは協力することにより、会員相互の技術知識の向上と親睦を図り、土木工学の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、下記の事業を行う。

- (1) 土木構造全般に関する各種調査研究
- (2) 講演会、講習会、見学会の開催
- (3) 土木構造全般に関する試験・指導の受託および意見具申
- (4) 会報その他刊行物の発行
- (5) そのほか、本会の目的達成に必要な事業

第 3 章 会 員

(会員の種別)

第5条 本会の会員は、次の3種とする。

- (1) 正会員（第1種）：
本会の各種事業の主体となって活動する者。
- (2) 正会員（第2種）：
本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する団体に属する本会に対する代表者。
- (3) 特別会員：
本会の活動を支持する者で、本会の事業遂行の必要上理事会において推薦、承認された者。

(正会員の入退会および義務)

第6条 正会員になるには、入会届を提出して会長の承認を得なければならない。

2. 正会員は、第15条に定める会費を納めなければならない。
3. 正会員で退会しようとする者は、前項の義務を完了した後、退会届を提出しなければならない。

第 4 章 役員、顧問および相談役

(役員の種類)

第7条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副 会 長 1 名
- (3) 理 事 若干名
- (4) 監 事 2 名

(役員を選出)

第8条 理事および監事は、会員の中から総会において選出する。

2. 会長および副会長は、理事の互選により選任する。
3. 役員に欠員を生じたときは、前項の規定を準用して補欠を選任する。

(役員職務)

第9条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
3. 理事は会長、副会長を補佐し、理事会において第13条に定める事項を審議する。
4. 監事は本会の会計および事務を監査し、また理事会に出席して意見を述べることができる。ただし、表決に加わらない。

(役員任期)

第10条 役員任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

2. 第8条第3項により補選された役員任期は、前任者の残任期間とする。

(顧問および相談役)

第11条 本会に顧問および相談役をおくことができる。顧問および相談役は理事会の議を経て会長が委嘱する。

2. 顧問および相談役は会長の諮問に応じ、また理事会に出席して意見を述べることができる。ただし、表決に加わらない。

第 5 章 総会および理事会

(総 会)

第12条 総会は毎年1回開催する。ただし、必要に応じて臨時総会を開催することができる。

2. 総会は会長が招集し、その議長となる。
3. 総会は次の事項を審議し、出席会員の過半数で決定する。可否同数のときは議長が決する。
 - (1) 事業報告
 - (2) 収支決算および会計監査報告
 - (3) 事業計画および収支予算
 - (4) 会則の制定および改廃
 - (5) 理事および監事の選出
 - (6) その他、会長が必要と認めた会務運営に関する重要事項

(理事会)

第13条 理事会は会長が必要に応じて招集し、その議長となる。

2. 理事会は、理事現在数の過半数を持って成立する。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは、出席者とみなす。
3. 理事会は次の事項を審議し、出席者の過半数で決定する。可否同数のときは議長が決する。

- (1) 総会提出議案
- (2) 総会より委任を受けた事項
- (3) その他、会長が必要と認めた会務運営に関する重要事項

第 6 章 会 計

(経 費)

第14条 本会の経費は、会費、寄付金およびその他の収入をもって充てる。

(会 費)

第15条 会費は、会員の種別に応じて、次のとおりとする。

- (1) 正会員（第1種）年額 3,000円
- (2) 正会員（第2種）年額 1口 30,000円

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終る。

第 7 章 運営委員会および分科会

(運営委員会の設置および構成)

第17条 本会の会務を処理し事業を推進するため、運営委員会を置く。

2. 運営委員会の委員長（以下「委員長」という）は、理事の中から会長が選任する。
3. 運営委員会の委員は、会員の中から若干名を委員長が委嘱する。
4. 委員長および委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(運営委員会の活動)

第18条 運営委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

2. 運営委員会は、理事会および総会に付議する事項の立案、第4条の事業の実行、その他会長が必要と認めた会務処理に当たるものとする。

(分科会)

第19条 運営委員会は、第4条(1)の事業の実行のため、理事会の承認を経て分科会を置くことができる。

2. 分科会の構成および活動等は、分科会規定に基づいて行う。

第 8 章 補 則

(会則の変更)

第20条 本会則の変更は、総会の議決による。

(規則の決定)

第21条 本会則に基づく規定は、理事会において決定する。

第 9 章 付 則

1. この会則は、昭和58年11月11日から施行する。

付 則（昭和59年6月15日総会決議）

この変更会則は、昭和59年6月15日から施行する。

付 則（昭和61年6月20日総会決議）

この変更会則は、昭和61年6月20日から施行する。

付 則（平成10年6月19日総会決議）

この変更会則は、平成10年6月19日から施行する。

九州橋梁・構造工学会 分科会規定

(総則)

第1条 この規定は、九州橋梁・構造工学会会則第19条に基づき、調査研究活動を行う分科会の基準について定める。

(設置または廃止)

第2条 分科会の設置にあたっては、その目的、事業、存続期間、必要経費、委員構成等について、運営委員会がとりまとめ、理事会において承認をうける。分科会は、その目的を達成したときに、理事会の承認を経て廃止する。

(構成)

第3条 分科会の委員は、会員およびその目的に沿った学識経験者および関係者とする。

- 2 分科会には主査を置く、必要に応じて副主査および幹事等を置くことができる。主査は、複数の分科会の主査を兼ねることはできない。ただし、委員として加わることはできる。

(委嘱)

第4条 主査は、理事会の承認を経て会長が委嘱する。また、委員は原則として、主査の推薦によって、運営委員長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は、その分科会の存続期間とする。

(開催)

第6条 分科会は、主査が招集する。

(成果の報告)

第7条 分科会は、その事業の成果を得たときは、運営委員会がとりまとめ、理事会に報告し、原則として会員に公表するものとする。

(事業計画および予算)

第8条 主査は、毎年3月中に翌年度の事業計画および予算を、運営委員会を通じて理事会に提出しなければならない。

(経費等)

第9条 分科会の運営に必要な経費等は、分科会の予算の範囲内で支出する。

(事業報告)

第10条 主査は、毎年4月上旬までに、前年度の事業経過の概要を運営委員会を通じ理事会に報告しなければならない。

付則

(施行期日)

- (1) この規定は、昭和59年6月15日から施行する。

会 員 名 簿

(平成 18 年 7 月末現在)



KABSE

KYUSHU ASSOCIATION FOR
BRIDGE AND STRUCTURAL
ENGINEERING

九州橋梁・構造工学研究会

九州橋梁・構造工学研究会役員名簿

平成18年5月現在（順不同）

会 長	久保喜延	九州工業大学工学部教授	顧問	崎元達郎	熊本大学学長
副 会 長	大塚久哲	九州大学大学院教授	顧問	松下博通	九州大学大学院教授
理 事 (運営委員長)	山尾敏孝	熊本大学大学院教授	顧問	烏野清	九州共立大学工学部教授
理 事	高橋和雄	長崎大学工学部教授	顧問	後藤恵之輔	長崎大学大学院教授
理 事	水田洋司	九州産業大学工学部教授	顧問	荒牧軍治	佐賀大学理工学部教授
理 事	大津政康	熊本大学大学院教授	顧問	宮田年耕	国土交通省九州地方整備局長
理 事	牧角龍憲	九州共立大学工学部教授	顧問	松本信吾	西日本高速道路(株)九州支社長
理 事	日野伸一	九州大学大学院教授	顧問	中村和之	山口県土木建築部長
理 事	芦田義則	国土交通省九州地方整備局企画部長	顧問	池田巧	佐賀県県土づくり本部長
理 事	廣瀬輝	福岡県土木部長	顧問	城下伸生	長崎県土木部長
理 事	坂田憲治	福岡市西区長	顧問	渡邊俊二	熊本県土木部長
理 事	溝辺哲	九州電力(株)土木部長	顧問	妹尾忠幸	大分県土木建築部長
理 事	有吉隆彌	西松建設(株)九州支店長	顧問	藤本坦	宮崎県土木部長
理 事	長尾徳博	(株)富士ピー・エス専務取締役	顧問	真下和彦	鹿児島県土木部長
理 事	山川朝生	(社)日本橋梁建設協会専務理事	顧問	首里勇治	沖縄県土木建築部長
理 事	武富一三	西日本技術開発(株)代表取締役社長	顧問	南立朝彦	北九州市建設局長
理 事	谷口正博	(株)長大 福岡支社長	顧問	田中康順	福岡北九州高速道路公社理事長
監 事	平田光宏	鹿島建設(株)常務執行役員九州支店長	相談役	三池充次	熊本大学名誉教授
監 事	山田修司	オリエンタル建設(株)取締役福岡支店長	相談役	渡辺明	九州工業大学名誉教授
			相談役	堤一	宮崎大学名誉教授
			相談役	平井一男	熊本大学名誉教授
			相談役	太田俊昭	九州大学名誉教授
			相談役	彦坂熙	九州大学名誉教授
			相談役	吉崎収	国土交通省九州地方整備局道路部長
			相談役	藤井利治	(財)福岡アジア都市研究所副理事長

九州橋梁・構造工学研究会運営委員名簿

平成18年6月30日現在（順不同）

役員名	氏名	機関名・役職名	連絡先住所	電話番号 Email	FAX番号
運営委員長	山尾敏孝	熊本大学大学院教授 自然科学研究科社会環境工学専攻	〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1	096-342-3533 tyamao@kumamoto-u.ac.jp	F096-342-3507
副委員長 研究連絡委員長	永瀬英生	九州工業大学教授 工学部建設社会工学科	〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3111 nagase@civil.kyutech.ac.jp	F093-884-3100
副委員長 論文集編集副委員長	廣田武聖	(株)建設技術研究所 九州支社道路・交通部技師長	〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-12	092-714-2211 t-hirota@ctie.co.jp	F092-715-5200
副委員長 事務局局長	村山隆之	(株)長大福岡支社 理事	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-737-8360 murayama-t@chodai.co.jp	F092-737-8371
論文集編集委員長	松田浩	長崎大学教授 工学部構造工学科	〒852-8521 長崎市文教町1-14	095-819-2590 matsuda@st.nagasaki-u.ac.jp	F095-819-2590
〃 副委員長	廣田武聖	(前掲)			
〃 委員	木村吉郎	九州工業大学助教授 工学部建設社会工学科	〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3466 kimura@civil.kyutech.ac.jp	F093-884-3100
〃 〃	麻生稔彦	山口大学助教授 工学部社会建設工学科	〒755-8611 宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9323 aso@yamaguchi-u.ac.jp	F0836-85-9301
〃 〃	濱田秀則	九州大学大学院助教授 工学研究院建設デザイン部門	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3270 h-hamada@civil.doc.kyushu-u.ac.jp	F092-642-3270
〃 〃	帯屋洋之	佐賀大学助教授 理工学部都市工学科	〒840-8502 佐賀市本庄町1	0952-28-8581 obiya@cc.saga-u.ac.jp	F0952-28-8190
〃 〃	一宮一夫	大分工業高等専門学校助教授 都市システム工学科	〒870-0152 大分市大字牧1666	097-552-7664 ichimiya@oita-ct.ac.jp	F097-552-7664
会報編集委員長	貝沼重信	九州大学大学院助教授 工学研究院建設デザイン部門	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3264 kai@doc.kyushu-u.ac.jp	F092-642-3264
〃 副委員長	山根誠一	日本工営(株) 福岡支店 技術部第三課	〒812-0007 福岡市博多区東比恵1-2-12	092-475-7553 a3656@n-koei.co.jp	F092-475-4330
〃 委員	園田佳巨	九州大学大学院教授 工学研究院建設デザイン部門	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3261 sonoda@doc.kyushu-u.ac.jp	F092-642-3261
〃 〃	佐川康貴	九州大学大学院助手 工学研究院建設デザイン部門	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3271 sagawa@doc.kyushu-u.ac.jp	F092-642-3271
〃 〃	松尾栄治	山口大学助手 工学部社会建設工学科	〒755-8611 宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9349 ematsuo@yamaguchi-u.ac.jp	F0836-85-9301
〃 〃	合田寛基	九州工業大学大学院助手 工学研究科機能システム創成工学専攻	〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3122 goda-h@civil.kyutech.ac.jp	F093-884-3100
〃 〃	山下裕司	九州電力(株)総合研究所	〒815-0032 福岡市南区塩原2-1-47	092-541-2910 yuuji_yamashita@kyuden.co.jp	F092-551-1583
見学会委員長	池田延良	大成建設(株) 九州支店 営業部担当部長	〒810-8511 福岡市中央区大手門1-1-7	092-771-1029 n-ikeda@ce.taisei.co.jp	F092-771-1543

役員名	氏名	機関名・役職名	連絡先住所	電話番号 Email	FAX番号
〃 副委員長	左 東 有 次	(株)富士ビー・エス 九州支店 技術部土木技術チーム課長	〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-2-11 富士ビル赤坂	092-721-3484 y.sato@fujjps.co.jp	F092-714-3786
〃 委員	甲 斐 一 夫	オリエンタル建設(株) 福岡支店 技術部副部長	〒810-0001 福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6934 kazuo.kai@oriken.co.jp	F092-741-3399
〃 〃	今 金 真 一	三菱重工橋梁エンジニアリング(株) 橋梁技術部 部長代理	〒730-8642 広島市中区江波沖町5-1	082-292-3146 shinichi_imagane@mbe.mhi.co.jp	F082-294-1428
〃 〃	石 倉 昇	(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支社 技術主査	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209 ishikura@oriconsul.co.jp	F092-411-3086
〃 〃	黒 岩 正	西日本高速道路(株)九州支社 建設事業部技術管理チームリーダー	〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-2	092-717-1762 t.kuroiwa.aa@w-nexco.co.jp	F092-717-1776
〃 〃	荒 卷 真 二	九州共立大学 助手 工学部都市システム工学科	〒807-8585 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3039 aramaki@kyukyo-u.ac.jp	F093-693-8039
事業部 講演会委員長	森 田 千 尋	長崎大学大学院助教授 生産科学研究科	〒852-8521 長崎市文教町1-14	095-819-2591 morita@st.nagasaki-u.ac.jp	F095-819-2591
〃 副委員長	梶 田 幸 秀	九州大学大学院助教授 工学研究院建設デザイン部門	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3267 ykajita@doc.kyushu-u.ac.jp	F092-642-3267
〃 委員	成 富 勝	九州共立大学教授 工学部環境サイエンス学科	〒807-8585 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3257 naritomi@kyukyo-u.ac.jp	F093-603-8186
〃 〃	小 柳 賢 祐	パシフィックコンサルタンツ(株) 九州支社 第一技術部 構造第一グループ次長	〒819-0007 福岡市西区愛宕南1-1-7	092-885-5011 Kensuke.Koyanagi@os.pacific.co.jp	F092-885-5004
事業部 講習会委員長	若 菜 啓 孝	東和大学教授 環境デザイン工学科	〒815-0036 福岡市南区筑紫丘1-1-1	092-541-1527 wakana@tohwa-u.ac.jp	F092-541-1527
〃 副委員長	坂 田 力	福岡大学助教授 工学部社会デザイン工学科	〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631 tsakata@fukuoka-u.ac.jp	F092-871-6661
〃 委員	青 柳 大 陸	(株)総合技術コンサルタント 技術部設計課	〒810-0041 福岡市中央区大名2-10-29	092-712-0624 d-aoyagi@sogo-eng.co.jp	F092-751-8279
〃 〃	古 川 愛 子	九州大学大学院助手 工学研究院建設デザイン部門	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3268 furukawa@doc.kyushu-u.ac.jp	F092-642-3268
〃 〃	岩 上 憲 一	(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支社	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209 iwagami@oriconsul.co.jp	F092-411-3086
〃 〃	真 崎 洋 三	(株)構造技術センター 福岡支社 技術部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-5-7	092-471-1655 y-masaki@secj.co.jp	F092-471-4099
〃 〃	牛 嶋 知 子	(株)富士ビー・エス 九州支社 技術部土木技術チーム	〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-2-11	092-721-3484 t.ushijima@fujjps.co.jp	F092-714-3786
研究連絡委員長	永 瀬 英 生	(前掲)			
〃 副委員長	渡 辺 浩	福岡大学助教授 工学部社会デザイン工学科	〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631 mag@fukuoka-u.ac.jp	F092-871-6661
〃 委員	吉 次 善 望	(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支社 営業業務グループ主事	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209 yoshitsugu@oriconsul.co.jp	F092-411-3086

役員名	氏名	機関名・役職名	連絡先住所	電話番号 Email	FAX番号
	勝谷 康之	(株)千代田コンサルタント 九州支店 技術部	〒810-0041 福岡市中央区大名1-15-33	092-752-1601 y-katsuya@chiyoda-ec.co.jp	F092-752-1631
広報活性化委員長	杉 辰雄	(株)千代田コンサルタント 九州支店	〒814-0041 福岡市中央区大名1-15-33	092-752-1601 t-soma@chiyoda-ec.co.jp	F092-752-1631
〃 副委員長	津 高守	九州旅客鉄道(株) 新幹線鉄道事業部長	〒895-0013 鹿児島県薩摩川内市宮崎町2170	0996-20-7538 m.tsutaka@jrkyushu.co.jp	F0996-20-7539
〃 〃	岩 坪 要	八代工業高等専門学校講師 土木建築工学科	〒866-8501 八代市平山新町2627	0965-53-1339 iwatsubo@as.yatsushiro-nct.ac.jp	F0965-53-1349
〃 〃	山 口 浩 平	九州大学大学院助手 工学研究院建設デザイン部門	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3309 kohei@doc.kyushu-u.ac.jp	F092-642-3309
〃 〃	竹 下 哲 也	国土交通省九州地方整備局 企画部企画課長	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-10-7	092-471-6331 takeshita-t2hp@qsr.mlit.go.jp	F092-476-3462
〃 〃	濱 中 聡 生	鹿島建設(株)九州支店 営業(土木) 部部長	〒812-8513 福岡市博多区博多駅前3-12-10	092-481-8012 hamanaka@kyushu.kajima.co.jp	F092-481-8024
〃 〃	重 松 史 生	九州旅客鉄道(株) 工事事務所計画課長代理	〒812-0061 福岡市東区筥松2-35-38	092-626-1205 f.shigematsu@jrkyushu.co.jp	F092-626-1251
対外交流推進委員長	松 田 泰 治	熊本大学大学院教授 自然科学研究科社会環境工学専攻	〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1	096-342-3532 mazda@kumamoto-u.ac.jp	F096-342-3507
〃 副委員長	中 村 聖 三	長崎大学助教授 工学部社会開発工学科	〒852-8521 長崎市文教町1-14	095-843-6301 snakamura@civil.nagasaki-u.ac.jp	F095-843-6301
〃 委員	山 口 栄 輝	九州工業大学教授 工学部建設社会工学科	〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3110 yamaguch@civil.kyutech.ac.jp	F093-884-3100
〃 〃	添 田 政 司	福岡大学助教授 工学研究科資源循環・環境専攻	〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631 msoeda@fukuoka-u.ac.jp	F092-864-8901
〃 〃	中 尾 好 幸	(株)長大 福岡支社 構造技術部長	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-737-8362 nakao-y@chodai.co.jp	F092-737-8371
〃 〃	井 口 進	(株)横河ブリッジ技術研究所 第一課 課長補佐	〒273-0026 船橋市山野町27	047-435-6161 s.inokuchi@yokogawa-bridge.co.jp	F047-435-6160
事務局 局長	村 山 隆 之	(前掲)			
〃 副局長	万 代 幸 二	福岡市南区役所地域整備部 維持管理課長	〒815-8501 福岡市南区塩原3-25-1	092-559-5090 mandai.k01@city.fukuoka.jp	F092-559-5096
〃 委員	西 昭 洋	福岡市都市整備局 鉄軌道計画課	〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1	092-733-5405 nishi.a02@city.fukuoka.jp	F092-733-5590
〃 〃	藤 木 剛	(株)長大福岡支社 構造技術部主任	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-737-8362 fujiki-t@chodai.co.jp	F092-737-8371
〃 〃	折 田 博 隆	第一復建(株) 道路構造部	〒816-0094 福岡市博多区諸岡1-7-25	092-575-1515 h_orita@dfk.co.jp	F092-575-5557
〃 〃	上 田 平 智 恵	〃	〃	〃 c_uetabira@dfk.co.jp	〃

役員名	氏名	機関名・役職名	連絡先住所	電話番号 Email	FAX番号
運営協力委員	有住康則	琉球大学助教授 環境建設工学科	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1	098-895-8664 b519895@tec.u-ryukyu.ac.jp	☎098-895-6434
〃	今井富士夫	宮崎大学教授 工学部土木環境工学科	〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1	0985-58-2811 imai@civil.miyazaki-u.ac.jp	☎0985-58-2876
〃	園田敏矢	大分工業高等専門学校教授 都市システム工学科	〒870-0152 大分市大字牧1666	097-552-7623 sonoda@oita-ct.ac.jp	☎097-552-7623
〃	内谷保	鹿児島工業高等専門学校教授 土木工学科	〒899-5102 鹿児島県始良郡隼人町真孝1460-1	0955-42-9115 uchitani@kagoshima-ct.ac.jp	☎0995-42-9126
〃	井嶋克志	佐賀大学教授 理工学部都市工学科	〒840-8502 佐賀市本庄町1	0952-28-8579 ijimak@cc.saga-u.ac.jp	☎0952-28-8190
〃	峰嘉彦	(株)横河ブリッジ 営業第三部部长	〒550-0003 大阪府大阪市西区京町堀1-6-2 肥後橋ルーセントビル4F	06-6441-7520 y.mine@yokogawa-bridge.co.jp	☎06-6441-7530

正会員 (第1種)

	氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人 コード
ア	愛敬 圭二	中央コンサルタンツ(株)	810-0062	福岡市中央区荒戸1-1-6	092-722-2541	092-721-0893	1020
	青柳 大陸	(株)総合技術コンサルタント	810-0041	福岡市中央区大名2-10-29	092-712-0624	092-751-8279	1035
	明石 光宏	(株)エム・ケー・コンサルタント	816-0082	福岡市博多区麦野6-14-19	092-573-2777	092-573-9042	1050
	浅野 晶子	計測検査(株)	807-0821	北九州市八幡西区陣原1-8-3	093-642-8231	093-641-2010	5200
	麻生 稔彦	山口大学工学部社会建設工学科	755-8611	宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9323	0836-85-9301	1100
	阿田 芳久	オリエンタル建設(株)	164-0012	東京都中野区本町1-32-2	03-5350-6415	03-5350-6422	1110
	安部 邦弘	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3499	1130
	阿部 利行		813-0093	福岡市東区名島5-4-8	092-671-2431		1140
	荒牧 軍治	佐賀大学理工学部都市工学科	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8688	0952-28-8699	1200
	荒巻 真二	九州共立大学	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3039	093-693-8039	1210
	有住 康則	琉球大学工学部環境建設工学科	903-0213	沖縄県中頭郡西原町字千原1	098-895-8664	098-895-8677	1230
	有村 実弘		890-0056	鹿児島市下荒田3-10-5	099-258-1522	099-258-1522	1240
	案浦 徳治	福岡市水道局浄水部	812-0011	福岡市博多区博多駅前1-28-15	092-483-3161	092-482-3150	1270
イ	生田 泰清	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3499	1300
	井口 真一	(株)フォーラムエイト福岡営業所	812-0025	福岡市博多区店屋町1-31	092-271-1888	092-271-1902	1518
	池田 延良	大成建設(株) 九州支店	810-8511	福岡市中央区大手門1-1-7	092-771-1029	092-771-1543	1330
	池田 義實	(株)唯設計事務所	812-0011	福岡市博多区博多駅前2-7-14	092-475-6880	092-475-3688	1350
	伊澤 亮	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	1526
	石倉 昇	(株)オリエンタルコンサルタンツ	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209	092-411-3086	1380
	石田 満浩	東洋技術株式会社	870-0856	大分市大字畑中433番地	097-554-5351	097-554-5329	1395
	石橋 正博	(株)福山コンサルタント	802-0062	北九州市小倉北区片野新町1-11-4	093-931-0211	093-932-5403	2115
	井嶋 克志	佐賀大学理工学部都市工学科	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8579	0952-28-8190	1420
	板井 栄次	三井住友建設(株) 九州支店	810-0075	福岡市中央区港1-3-1	092-761-0068	092-761-6617	1445
	一ノ瀬寛幸	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-741-3545	092-761-6935	1450
	一宮 一夫	大分工業高等専門学校	870-0152	大分市大字牧1666	097-552-7664	097-552-7664	1455
	出光 隆		805-0048	八幡東区大蔵1-16-7	093-652-7887	093-652-7887	1460
	大東 洋志	三菱重工業(株)長崎営業所	850-0861	長崎市江戸町9-5	095-827-4057	095-828-0396	1480
	井上 浩	(株)安部工業所 技術本部	500-8638	岐阜市六条大溝3丁目13番3号	058-271-3041	058-272-7730	1510
	井上 高志	福岡県五ヶ山ダム建設事務所	811-1224	筑紫郡那珂川町大字安德702-1	092-953-0853	092-954-2572	1485
	井口 進	(株)横河ブリッジ	273-0026	船橋市山野町27番地	047-435-6161	047-435-6160	1520
	井口 浩行	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-2-11	092-721-3484	092-714-3786	1523
	今井富士夫	宮崎大学工学部土木工環境学科	889-2192	宮崎市学園木花台西1-1	0985-58-7324	0985-58-7344	1540
	今門 益雄	パシフィックコンサルタンツ(株)	819-0007	福岡市西区愛宕南1-1-7	092-885-5011	092-885-5004	1560
	今金 真一	三菱重工橋梁エンジニアリング(株)	730-8642	広島市中区江波沖町5-1	082-292-3146	082-294-1428	1563
	今長谷秀亮	(株)総合技術コンサルタント	819-0005	福岡市西区内浜2丁目13番2-1号	0905480-9702		1565
	今福 祥隆	中央コンサルタンツ(株)	810-0062	福岡市中央区荒戸1-1-6	092-722-2541	092-721-0893	1567
	入江 達雄	(株)建設技術研究所 福岡支社	810-0041	福岡市中央区大名2-4-12	092-714-6226	092-715-5200	1570
	岩上 憲一	(株)オリエンタルコンサルタンツ	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209	092-411-3086	1580
	岩崎 憲彰	福岡市土木	810-8620	福岡市中央区天神1-8-1	092-711-4451	092-733-5591	1590
	岩下 智彦	(株)構造技研 九州支社	810-0011	福岡市中央区天神4-8-2	092-713-8156	092-713-6707	1600
	岩坪 要	八代工業高等専門学校	866-8501	八代市平山新町2627	0965-53-1339	0965-53-1349	1620
ウ	植田 定	国土交通省九州地方整備局	812-0013	福岡市博多区博多駅前2-10-7	092-681-4731	092-682-7764	1655

	氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人コード
	上森 誠	福岡北九州高速道路公社	812-0055	福岡市東区東浜2-7-53	092-631-3290	092-643-7061	1663
	牛嶋 知子	(株)富士ビー・エス九州支社	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-2-11	092-721-3484	092-714-3786	1665
	内田 勝士	梅林建設(株) 福岡支店	810-0041	福岡市中央区大名1-4-1	092-712-9111		1700
	内田 昌勝	(株)太平洋コンサルタント	285-8655	千葉県佐倉市大作2-4-2	043-498-3870	043-498-3919	1705
	内谷 保	鹿児島工業高等専門学校土木工学科	899-5102	鹿児島県始良郡隼人町真孝1460-1	0995-42-9115	0995-42-9126	1670
	内村 正樹	(株)久永コンサルタント	890-0007	鹿児島市伊敷台一丁目22番2号	099-228-6600	099-228-6670	1708
	烏野 清	九州共立大学工学部土木工学科	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3226	093-693-3225	1710
	梅崎 秀明	大日本コンサルタント(株)	812-0013	福岡市博多区博多駅東2-5-19	092-441-0433	092-482-4032	1720
工	永徳 明彦	第一復建(株)	816-0094	福岡市博多区諸岡1丁目7-25	092-575-1515	092-575-5557	1740
	江崎 守	(株)安部工業所 九州支店	812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-6	092-441-5481	092-441-5516	1760
	枝元 宏彰	(株)国土開発コンサルタント	880-0015	宮崎市大工3-155	0985-24-3333	0985-38-0645	1770
	江藤 弥生	(株)富士ビー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	1775
	江本 幸雄	福岡大学工学部社会デザイン工学科	814-0180	福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631	092-864-8901	1780
オ	大江 豊	(株)構造技術センター 福岡支社	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-5-7	092-471-1655	092-481-0318	1790
	大城 朝隆	(有)総検エンジニア	904-2162	沖縄県沖縄市美里813	098-929-0727	098-929-0728	1793
	大城 敦	(株)富士ビー・エス九州支店	900-0015	那覇市久茂地1-3-1	098-866-3938	098-866-3953	1795
	太田 俊昭	九州大学名誉教授	813-0042	福岡市東区舞松原2丁目15-16	092-671-3108		1800
	大谷 順	熊本大学工学部環境システム工学科	860-8555	熊本市黒髪2-39-1	096-342-3535	096-342-3535	1810
	大津 政康	熊本大学大学院	860-8555	熊本市黒髪2-39-1	096-342-3542	096-342-3507	1820
	大塚 久哲	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3266	092-642-3266	1830
	大仁田朝生	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6934	092-741-3499	1845
	大野 彰一	上田建設(株)	797-1503	愛媛県大洲市肱川町宇和川2995-1	0893-34-2011	0893-34-2348	1850
	大屋 誠	松江工業高等専門学校	690-0865	松江市西生馬町14-4	0852-36-5268	0852-36-5268	1880
	岡口 喜彦		732-0027	広島市東区中山上2丁目11-8	082-289-6347		1885
	緒方 滋	三井住友建設(株) 九州支店	810-0075	福岡市中央区港1-3-1	092-761-0130	092-761-6617	1910
	緒方 秀行	(株)構造技術センター 福岡支社	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-5-7	092-471-1655	092-471-4099	1925
	岡林 隆敏	長崎大学工学部社会開発工学科	852-8521	長崎市文教町1-14	095-819-2621	095-819-2627	1890
	岡村 正紀	(財)九州環境管理協会	813-0004	福岡市東区松香台1-10-1	092-662-0410		1900
	小川 皓	オリエンタル建設(株)	102-0093	東京都千代田区平河町2-1-1	03-3261-1173	03-3261-2585	1930
	小郷 政弘	(株)構造技術研究所	890-0032	鹿児島市西陵5-10-3	099-282-7133	099-282-7415	1950
	乙藤 憲一	(株)日本構造橋梁研究所	107-0062	東京都港区南青山5-12-4	03-3400-9101	03-3400-8944	1960
	鬼塚 二男		818-0121	福岡県太宰府市青山2丁目17-24	092-921-2453	092-921-2453	1970
	小野 秀雄	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3651	1975
	帯屋 洋之	佐賀大学理工学部都市工学科	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8581	0952-28-8190	1990
	親泊 宏	(有)ホープ設計	902-0064	沖縄県那覇市寄宮3-3-5	098-836-7181	098-836-7183	2025
	折田 博隆	第一復建(株)	816-0094	福岡市博多区諸岡1丁目7-25	092-575-1515	092-575-5557	2015
	隠塚功一郎	(株)ビー・エス三菱 九州支店	104-8215	東京都中央区銀座7-16-12	03-4562-3028	03-4562-3045	2029
力	甲斐 栄一		810-0022	福岡市中央区薬院4-2-28-607	092-523-5318		2030
	甲斐 一夫	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6933	092-741-3399	2031
	貝沼 重信	九州大学大学院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3264	092-642-3264	2038
	梶田 幸秀	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市箱崎6-10-1	092-642-3267	092-642-3267	2039
	春日 昭夫	三井住友建設(株) PC設計部	164-0011	東京都中野区中央1-38-1	03-5337-2134	03-3367-4763	2050

氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人コード
片山 拓朗	崇城大学工学部	860-0082	熊本市池田4-22-1	096-326-3111	096-326-3000	2060
片山英一郎		811-1343	福岡市南区和田4-4-17	092-562-5884	092-562-5884	2059
勝野 寿男	(株)エスエムエー	231-0012	横浜市中区相生町3-63	045-228-3122	045-663-9095	2070
加藤九州男	九州工業大学工学部	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3121	093-884-3100	2080
加藤 雅史	九州東海大学工学部都市工学科	862-8652	熊本市渡鹿9-1-1	096-386-2697	096-386-2759	2090
金尾 稔	九州旅客鉄道(株)	803-0812	北九州市小倉北区室町2-57	093-583-5306	093-583-5319	2100
鹿庭 和史	(株)中部コンサルタント	761-0433	高松市十川西町91-2	087-848-1713	087-848-1713	2110
金子 憲治	福岡地区水道局企業団	815-0031	福岡市南区清水4丁目3-1			2120
金子 鉄男	横河工事(株)	170-8452	東京都豊島区西巣鴨4-14-5	03-3576-5914	03-3576-5941	2130
金田 尚司	(株)総合技術コンサルタント	810-0041	福岡市中央区大名2-10-29	092-712-0624	092-751-8279	2135
上戸 忠幸	(株)ピー・エス三菱 九州支店	810-0072	福岡市中央区長浜2-4-1	092-739-7003	092-739-7016	4685
禿 和英	(株)建設技術研究所 九州支社	810-0041	福岡市中央区大名2-4-12	092-714-6226	092-715-5200	2140
烏山 郁男	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3499	2170
川神 雅秀	大日本コンサルタント(株)	550-0014	大阪市西区北堀江1-22-19	06-6541-5601	06-6541-5633	2200
川口 光雄	(株)奥村組 技術本部	108-8381	東京都港区芝5-6-1	03-5427-8485	03-5427-8104	2210
川崎 巧	(株)長大テック 福岡事務所	810-0004	福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-737-8575	092-737-8376	2190
川路 哲哉	(株)ジュントス	812-0012	福岡市博多区博多駅中央街7-2	092-412-7053	092-412-7054	2220
川副 嘉久	東和大学工学部環境デザイン工学科	815-0036	福岡市南区筑紫ヶ丘1-1-1	092-541-1511	092-541-1538	2230
河野 健二	鹿児島大学工学部海洋土木工学科	890-0065	鹿児島市郡元1-21-40	0992-54-7141		2240
川原 宏幸	福岡下水道局建設部	810-8620	福岡市中央区天神1-8-1	092-711-4536	092-711-1875	2250
川原社一郎	オイレス工業(株)	105-8584	東京都港区浜松町1丁目30-5	03-3578-7930	03-3578-7934	2248
河邊 修作	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	2253
キ 喜久 忠人	(株)ウッDESTプラン	890-0063	鹿児島市鴨池2-28-2市街地住宅2-901	099-286-6565	099-286-0506	2260
北村 良介	鹿児島大学工学部海洋土木工学科	890-0065	鹿児島市郡元1-21-40	099-285-8473	099-258-1738	2280
木村 吉郎	九州工業大学工学部	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3466	093-884-3100	2295
清原 秀紀	(株)構造技術センター 福岡支社	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-5-7	092-471-1655	092-481-0318	2320
ク 久家 悟	福岡市土木局管轄連続立体開発(事)	812-0061	福岡市東区宮松2丁目15-22	092-624-3727	092-611-2118	2330
日下部岩正	(株)構造技術センター 福岡支社	816-0096	福岡市博多区東光寺1-15-33	092-471-1655	092-481-0318	2340
草野 光司	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931		2350
久保 喜延	九州工業大学工学部	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3109	093-884-3100	2370
久保 謙介	アジアプランニング(株)	862-0970	熊本市渡鹿7-15-27-101	096-372-6440	096-363-6850	2365
久保田展隆	中央コンサルタンツ(株)	810-0062	福岡市中央区荒戸1-1-6	092-722-2541	092-721-0893	2375
熊谷紳一郎	三井住友建設(株)中野坂上オフィス	164-0011	東京都中野区中央1-38-1	03-5337-2410		2380
熊本 清一	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6933	092-741-3399	2390
久米 司	(株)富士ピー・エス	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-2-11	092-721-3495	092-721-3460	2400
倉岡 豊	西松建設(株) 九州支店	810-0023	福岡市中央区警固2-17-30	092-771-3124		2410
倉成 裕之	(株)プロテック 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-7423	092-761-7472	2420
栗原 通	(株)富士ピー・エス 大阪支店	530-0012	大阪市北区芝田2-2-1	06-6372-0380	06-6372-3639	2430
久留島卓朗	(株)建設技術研究所 九州支社	810-0041	福岡市中央区大名2-4-12	092-714-6226	092-715-5200	2435
黒岩 正	西日本高速道路(株) 九州支社	810-0001	福岡市中央区天神1-4-2	092-717-1770	092-717-1779	2440
黒木 健実	福岡大学工学部土木工学科	814-0180	福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631		2450
黒木 均	日本建設コンサルタント(株)九州支店	812-0016	福岡市博多区博多駅南2-4-11	092-411-5914	092-474-1610	2460

	氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人コード
	黒田 一郎	防衛庁防衛大学学校	239-0811	横須賀市走水1-10-20			2480
	郡司掛芳海	(株)奥村組 九州支店	805-8531	北九州市八幡東区山王2-19-1	093-671-3131	093-661-1543	2490
コ	幸左 賢二	九州工業大学工学部	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3123	093-884-3100	2505
	合田 寛基	九州工業大学大学院	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3122	093-884-3100	2507
	上月 裕	熊本県環境生活部水環境課	862-8570	熊本市水前寺6丁目18-1	096-383-1111	096-387-7612	2510
	合馬 幹人	パシフィックコンサルタンツ(株)	819-0002	福岡市西区姪浜33-1	092-885-5011		2670
	郡山 貢一	九州電力(株)	810-8720	福岡市中央区渡辺通2-1-82	092-761-3031	092-771-9541	2515
	古賀 文俊	(株)エフディー	810-0004	福岡市中央区渡辺通2-4-8	092-771-1425	092-735-4378	2525
	小金丸卓哉	第一復建(株)	816-0094	福岡市博多区諸岡1丁目7-25	092-431-9171	092-431-0725	2520
	奥石 正巳	清水建設(株)	177-0051	東京都練馬区開町北5-6-17B-602	03-5441-0598		2530
	児玉 伸彦	三井住友建設(株)	870-0044	大分県舞鶴町1-4-35	097-537-2141	097-537-2142	2555
	後藤恵之輔	長崎大学工学部社会開発工学科	852-8131	長崎市文教町1-14	095-819-2609	095-819-2627	2680
	後藤 茂男		810-0028	福岡市中央区浄水通48-1-611	092-524-7669	092-524-7669	2690
	後藤 司	九州旅客鉄道(株)	840-0805	佐賀市神野西1-8-4	0952-23-2939		2700
	小西 范男		814-0103	福岡市城南区烏飼4-8-1-601	092-841-3818	092-841-3818	2570
	小西 保則		811-0201	福岡市東区三苦3-25-13	092-607-8726		2580
	小沼恵太郎	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-641-3131	092-642-3715	2590
	小林 一郎	熊本大学大学院	860-8555	熊本市黒髪2-39-1	096-342-3536	096-342-3507	2600
	小林 康人	(株)ビー・エス三菱 九州支店	810-0072	福岡市中央区長浜2-4-1	092-739-7002	092-739-7016	2620
	小深田信昭	(株)プロテック	102-0093	東京都千代田区平河町2-1-1	03-3511-8041	03-5213-3841	2630
	五味 秀明	電気化学工業(株)	103-8338	東京都中央区日本橋室町2-1-1	03-5290-5365	03-5290-5355	2710
	小柳 賢祐	パシフィックコンサルタンツ(株)	819-0007	福岡市西区愛宕南1-1-7	092-885-5011	092-885-5004	2660
サ	財津 公明	東亜コンサルタント(株)	870-0132	大分市大字千歳371-1	097-558-4884	097-552-6344	2930
	佐伯 信昭	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6933	092-741-3399	2730
	佐伯 博道	太平洋セメント(株) 九州支店	812-0018	福岡市博多区住吉1-2-25	092-263-8460	092-263-8453	2735
	阪上 昌夫	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931		2750
	坂口 修	三井住友建設(株) 九州支店	810-8623	福岡市中央区港1-3-1	092-761-9032	092-761-9514	2760
	坂口 和雄	(株)総合技術コンサルタント	810-0041	福岡市中央区大名2-10-29	092-712-0624	092-751-8279	2770
	坂下 善和	(株)ジュントス	812-0012	福岡市博多区博多駅中央街7-2	092-412-7053	092-412-7054	2780
	坂田 隆博	(株)建設技術研究所	103-8430	東京都中央区日本橋浜町3-21-1	03-3668-4083	03-3639-9427	2790
	坂田 力	福岡大学工学部土木工学科	814-0180	福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631		2800
	坂田 康德	九州東海大学工学部都市工学科	862-8652	熊本市渡鹿9-1-1	096-386-2704	096-386-2759	2810
	坂手 道明	(株)ドーユー大地	733-0814	広島市西区己斐本町2-20-16	082-273-1471	082-273-1473	2820
	佐川 康貴	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3271	092-642-3271	2825
	崎野 健治	九州大学大学院人間環境学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3327	092-642-4111	2830
	崎元 達郎	熊本大学長	860-8555	熊本市黒髪2-39-1	096-342-3111	096-342-2020	2850
	佐々木富公男	精巧エンジニアリング株式会社	879-5103	大分県湯布院町大字川南11-3	0977-85-3344	0977-85-4423	2855
	佐竹 正行		813-0011	福岡市東区香椎6-26-1	092-662-2365	092-662-2365	2870
	佐竹 芳郎	(株)九州建設弘済会	812-0013	福岡市博多区博多駅東2-5-19	092-481-3781	092-481-3785	2880
	貞升 孝昭	パシフィックコンサルタンツ(株)	730-0051	広島市中区大手町2-1-1	082-504-1007	082-504-1041	2890
	佐藤 克徳	第一復建(株)	816-0094	福岡市博多区諸岡1丁目7-25	092-575-1515	092-575-5557	2910
	佐藤 進	(株)福山コンサルタント	812-0013	福岡市博多区博多駅東3-6-18	092-471-0211	092-471-7505	2900

	氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人コード
	左東 有次	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-2-11	092-721-3484	092-714-3786	2885
	佐野 淳一	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6932	092-741-3399	2915
	猿渡 隆史		804-0012	北九州市戸畑区中原東1-12-10	093-881-7218	093-881-7218	2920
シ	塩田 良一	(株)日本構造橋梁研究所	225-0021	横浜市青葉区すすき野2-3-10-309	03-3400-9101	03-3400-0923	2940
	重石 光弘	熊本大学大学院	860-8555	熊本市黒髪2-39-1	096-342-3534	096-342-3507	2950
	重松 史生	九州旅客鉄道(株)工事事務所	812-0061	福岡市東区宮松2-35-38	092-626-1205	092-626-1251	2955
	嶋田 紀昭	(株)建設技術研究所 福岡支社	810-0041	福岡市中央区大名2-4-12	092-714-6226	092-715-5200	2968
	清水 洋二	(株)橋梁コンサルタント 福岡支社	812-0013	福岡市博多区博多駅東1-9-11	092-461-2011	092-461-2049	2967
	下山 強美	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	3005
	蔣 宇静	長崎大学工学部社会開発工学科	852-8521	長崎市文教町1-14	095-819-2612	095-819-2627	3068
	城 秀夫		818-0059	筑紫野市塔原東2-5-16	092-923-4655		3030
	城ヶ崎豊海	(有)ジェイエステー	812-0016	福岡市博多区博多駅南1-14-6	092-483-5008	092-483-5011	3035
	城野 和夫	(株)橋梁コンサルタント 大阪支社	541-0059	大阪市中央区博労町3丁目3番10号	06-6245-7277	06-6245-7297	3040
	白石 隆俊	パシフィックコンサルタンツ(株)	819-0007	福岡市西区愛宕南1-1-7	092-885-5011	092-885-5004	3010
	白木 渡	国立大学法人香川大学工学部	761-0396	高松市林町2217-20	087-864-2243	087-864-2243	3020
	白坂 靖史	(株)日本ピーエス	812-0025	福岡市博多区店屋町1-31	092-262-5120	092-262-5171	3023
ス	陶 佳宏	(社)九州建設技術管理協会	812-0011	福岡市博多区博多駅前1-19-3	092-471-0189	092-414-0767	3070
	管谷 晃彦	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	3075
	杉山 和一	長崎大学環境科学部	852-8521	長崎市文教町1-14	095-819-2752	095-819-2752	3100
	鈴木 昌次	(株)大本組	700-8550	岡山市内山下1-1-13	086-227-5179	086-227-5174	3110
	須股 幸信	(株)東亜コンサルタント	812-0007	福岡市博多区東比恵3-28-10	092-415-1512	092-431-5398	3130
	角 和夫	本州四国連絡橋公団鳴門管理事務所	772-0053	鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛18番地	088-687-3671	088-687-2160	3140
	角 知憲	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3273	092-642-3273	3150
セ	青龍 靖則	(株)オリエンタルコンサルタンツ	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209	092-411-3086	3157
	関 一毅	(株)濱田重工エンジニアリング	805-0061	北九州市八幡東区西本町1-12-24	093-661-0366	093-681-3463	3160
	瀬崎 満弘	宮崎大学工学部土木環境工学科	889-2192	宮崎市学園木花台西1-1	0985-58-7333	0985-58-7344	3170
ソ	添田 政司	福岡大学大学院工学研究科	814-0180	福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631	092-864-8901	3190
	園田 東二	(株)構造技研 九州支社	810-0011	福岡市中央区天神4-8-2	092-713-8156	092-713-6707	3200
	園田 敏矢	大分工業高等専門学校土木工学科	870-8502	大分市大字牧1666	097-552-7623	097-552-7623	3210
	園田 佳巨	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3261	092-642-3261	3215
	杣 辰雄	(株)千代田コンサルタント	814-0041	福岡市中央区大名1-15-33	092-752-1601	092-752-1631	3220
タ	高尾 昇	(株)宇部三菱セメント研究所	807-0812	北九州市八幡西区洞南町1-1	093-641-4125	093-642-6041	3223
	高木 邦昭	三井住友建設(株) 九州支店	810-8623	福岡市中央区港1-3-1	092-761-0068	092-761-6617	3230
	高瀬 和男	駒井鉄工(株)橋梁部	293-0011	千葉県富津市新富33-10	0439-87-7586	0439-87-7587	3250
	高西 照彦		805-0035	北九州市八幡東区山路2-4-8	093-652-0994		3270
	高野 徳義	(株)オリエンタルコンサルタンツ	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209	092-411-3086	3280
	高橋 和雄	長崎大学工学部社会開発工学科	852-8521	長崎市文教町1-14	095-819-2610	095-819-2627	3300
	高海 克彦	山口大学工学部社会建設工学科	755-8611	宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9348	0836-85-9301	3320
	高村 清	豊福設計(株)	857-0136	佐世保市田原町9-15	0956-41-4333	0956-41-4612	3330
	高山 俊一	九州共立大学工学部土木工学科	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3228	093-693-3225	3360
	瀧口 将志	九州旅客鉄道株式会社	850-0058	長崎市尾上町1-89	095-823-0108	095-827-3128	3370
	滝谷 昭	エスケー化研(株) 研究所	567-0059	大阪府茨木市清水1-25-10	0726-43-7100	0726-41-5212	3380

氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人コード
宅野 詩織	(株)富士ビー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	3390
竹岡 伸一	扇精光(株)佐世保支店	857-1161	佐世保市大塔町1266-24	0956-26-1711	0956-34-0533	3420
竹下 鉄夫	西日本コンサルタント(株)	870-0852	大分市大字奥田646-1	097-543-1818	097-543-8667	3440
竹下 哲也	国土交通省九州地方整備局	812-0013	福岡市博多区博多駅東2-10-7	092-471-6331	092-476-3462	3441
武田 正紀		229-0014	神奈川県相模原市若松1-7-39	042-748-3659	042-748-3659	3450
竹中 和吉	川田建設(株) 九州支店	812-0013	福岡市博多区博多駅東2-5-19	092-474-0828	092-474-0865	3460
竹中 良隆		838-0813	福岡県朝倉郡筑前町依井736-1	0946-22-5224	0946-22-0567	3480
竹中 啓二	(株)橋梁コンサルタント 福岡支社	812-0013	福岡市博多区博多駅東1-9-11	092-461-2011	092-461-2012	3470
武林 和彦	中央コンサルタンツ(株)福岡支店	810-0062	福岡市中央区荒戸1-1-6	092-722-2541	092-721-0893	3490
田添 耕治	三井住友建設(株) 九州支店	810-0075	福岡市中央区港1-3-1	092-761-6044	092-761-0159	3495
田中 智行	中央コンサルタンツ(株)	810-0062	福岡市中央区荒戸1-1-6	092-722-2541	092-721-0893	3520
田中 博美	福岡県庁	812-8577	福岡県福岡市博多区東公園7-7	092-651-1111		3530
棚橋 由彦	長崎大学工学部社会開発工学科	852-8521	長崎市文教町1-14	095-847-9356	095-848-3624	3540
谷口 正博	(株)長大	810-0004	福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-737-8360	092-737-8371	3570
溜瀨 誠一	鉄道・運輸機構鉄道建設本部	231-8315	神奈川県横浜市中区本町6-50-1	045-222-9063	045-222-9094	3590
チ 千々岩浩巳	第一復建(株)	816-0094	福岡市博多区諸岡1丁目7-25	092-575-1515	092-575-5557	3610
ツ 辻 治生	(株)大鐵	870-0904	大分市向原東2-2-30	097-551-7522	097-551-1597	3630
辻 修作	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6934	092-741-3499	3629
津田 敏行	ドービー建設工業(株) 九州支店	812-0018	福岡市博多区住吉2-2-1	092-281-8765	092-281-8769	3635
津高 守	九州旅客鉄道(株)	812-8566	福岡市博多区博多駅前3-25-21	092-474-2421	092-474-2853	3640
筒井 光男	国土工営コンサルタンツ(株)	815-0075	福岡市南区長丘2-25-43	092-512-6362	092-512-6365	3660
堤 一	学校法人九州明倫館	889-1720	宮崎県宮崎郡田野町桜ヶ丘1730-2	0985-86-2000	0985-86-2339	3670
角本 周	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3499	3690
鶴田 浩章	関西大学工学部都市環境工学科	564-8680	大阪府吹田市山手町3-3-35	06-6368-0899	06-6388-1424	3710
テ 手嶋 和男	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3499	3720
ト 堂上 幸男	松尾エンジニアリング株式会社	812-0011	福岡市博多区博多駅前1-18-6	092-481-2105		3820
戸塚 誠司	熊本県熊本駅周辺整備事務所	860-0821	熊本市本山2-9-51	096-323-8200	096-323-8201	3770
友光 宏実	大日本コンサルタント(株)九州支社	812-0013	福岡市博多区博多駅東2-5-19	092-441-0433	092-482-4032	3790
豊福 俊泰	九州産業大学工学部	813-8503	福岡市東区松香台2-3-1	092-673-5678	092-673-5093	3800
虎石 龍彦	新日本製鐵(株)	100-8071	東京都千代田区大手門2-6-3	03-3275-6919	03-3275-8469	3810
砥綿 一雄	西日本技術開発(株)	810-0004	福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-781-0259	092-724-6529	3825
ナ 中尾 好幸	(株)長大 福岡支社	810-0004	福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-737-8362	092-737-8371	3830
中川 清史	西日本技術開発(株)	810-0004	福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-781-0259	092-724-6529	3840
中川 浩二	NPO法人臨床トンネル工学研究所	755-0084	宇部市川上南町181			3850
長崎 謙二	長崎技術事務所	330-0836	さいたま市大宮区大原7-2-4-4-3	048-832-7280	048-832-7280	3950
中澤 隆雄	宮崎大学工学部土木環境工学科	889-2155	宮崎市学園木花台西1-1	0985-58-7332	0985-58-7344	3860
中島 城二	(株)長大 広島支店	730-0004	広島市中区東白島町14-15	082-227-5080	082-223-6053	3870
中島 禎	(株)富士ビー・エス	813-0073	福岡市中央区舞鶴2-2-11	092-721-3484	092-714-3786	3880
永瀬 英生	九州工業大学工学部	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3111	093-884-3111	3960
中谷 隆生	(株)ドーユー大地	733-8812	広島市西区己斐本町2-20-16	082-273-1471	082-273-7644	3895
長友 文昭	(株)日本港湾コンサルタント	812-0014	福岡市博多区比恵町1-1	092-482-0345		3990
中野 計雄	福岡市土木局道路計画課	810-0001	福岡市中央区天神1-8-1	092-711-4399	092-733-5590	3900

氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人コード
中野 隆史	オリエンタル建設(株) 山口営業所	754-0001	山口市小郡大字上郷	0839-73-6171		3910
長野 輝和	長野設計事務所	814-0123	福岡市城南区长尾2-15-11	092-526-5756	092-526-6326	4000
中野 友裕	東海大学工学部土木工学科	259-1292	神奈川県平塚市北金目1117	0463-58-1211	0463-50-2045	3912
中原 雄二	(株)総合エンジニアリング福岡支店	812-0011	福岡市博多区博多駅前1-4-1	092-472-1948	092-472-1917	3915
中村 勝明	オリエンタル建設(株)	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6933	092-741-3399	3920
中村 修	(株)ピー・エス三菱 九州支店	810-0072	福岡市中央区長浜2-4-1	092-739-7002	092-739-7016	3918
中村 聖三	長崎大学工学部社会開発工学科	852-8521	長崎市文教町1-14	095-819-2613	095-819-2613	3936
中村 秀明	山口大学工学部	755-8611	宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9531		3935
中谷 真二	三菱重工工業(株)	108-8215	東京都港区港南2-16-5	03-6716-4129	03-6716-5896	3890
成富 勝	九州共立大学工学部	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3257	093-693-3258	4010
二 西 昭洋	福岡市都市整備局	810-8620	福岡市中央区天神1-8-1	092-733-5405	092-733-5590	4025
西田 恒義	第一復建(株)	816-0094	福岡市博多区諸岡1丁目7-25	092-575-1515	092-575-5557	4040
西田 隆治	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	4038
西村 末三	(有)アーバンエンジニアリング	866-0873	八代市横手町1641-2	0965-35-1882	0965-32-6777	4050
二宮 公紀	鹿児島大学工学部情報工学科	890-0065	鹿児島市郡元1-21-40	099-285-3165		4060
ノ 納富 正樹	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3545	4080
野口 賀右	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3545	4090
野中 哲也	ヤマト設計株式会社	889-1403	宮崎県児湯郡新富町上富田3191-1	0983-33-5581	0983-33-5584	4095
ハ 橋口 三郎	オリエンタル建設(株)	102-0093	東京都千代田区平河町2-1-1	03-3261-1173	03-3261-2585	4120
橋本 晃	(株)千代田コンサルタント	890-0064	鹿児島市鴨池新町21-7	099-250-5667	099-250-5575	4125
橋本 潤平	オリエンタル建設(株)	980-0014	仙台市青葉区本町2-16-10	022-222-4076	022-222-4667	4127
長谷川 堯一	麻生フォームクリート(株)	811-2113	糟屋郡須恵町大字須恵714-1	092-932-6370	092-932-7567	4130
秦 裕昭	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3499	4140
畑岡 秀明	国土交通省九州地方整備局	849-0924	佐賀市新中町5-10	092-681-4731	092-682-7764	4145
花田 久		811-3216	福岡県福津市花見が浜1-7-34	0940-42-0535		4170
羽野 暁	(株)建設技術研究所 九州支社	810-0041	福岡市中央区大名2-4-12	092-714-2211	092-715-5200	4172
浜田英一郎	(株)横河ブリッジ	594-0061	和泉市弥生町2-5-22	072-241-1144	072-280-3011	4180
浜田 純夫	山口大学工学部社会建設工学科	755-8611	宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9347		4190
浜田 貴光	(株)大進	890-0016	鹿児島県鹿児島市新照院町21-7	099-239-2800	099-239-2801	4195
濱田 秀則	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3270	092-642-3270	4200
林 健治	トビー工業(株)	441-8510	愛知県豊橋市明海町1番地	0532-25-1111	0532-25-2384	4210
林山 豊	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	4220
原田 隆典	宮崎大学工学部土木環境工学科	889-2192	宮崎市学園木花台西1-1	0985-58-7325	0985-58-7344	4240
原田 哲夫	長崎大学工学部構造工学科	852-8131	長崎市文教町1-14	0958-48-9637	0958-48-9637	4260
原田 秀則	設計事務所 原	818-0066	筑紫野市永岡799-3-105	092-929-2021	092-929-2021	4265
ヒ 彦坂 熙	九州大学名誉教授	811-0215	福岡市東区高見台4-24-15	092-607-4000	092-607-4000	4300
久松 好巳	(株)PAL構造	852-8003	長崎市旭町8-20	0958-62-0601	0958-62-0653	4320
久松 健一	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6934	092-741-3499	4315
日野 伸一	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3263	092-642-3263	4330
日比野 誠	九州工業大学工学部	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3114	093-884-3100	4335
平井 久義		815-0033	福岡市南区大橋4-26-50	092-553-5472		4350
平田 篤夫	崇城大学工学部	860-0082	熊本市池田4-22-1	096-326-3111	096-326-3000	4360

氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人コード
平田 鋼三	住友重機械工業(株)鉄構機器事業	799-1394	愛媛県東予市今在家1501	0898-64-6915	0898-64-6974	4370
平田登基男	鹿児島工業高等専門学校土木工学科	899-5102	鹿児島県始良郡単人町真孝1460-1	0995-42-9121	0995-43-2584	4390
広瀬 一郎	大分県企業局芹川・北川ダム	870-1112	大分市大字下判田字二本木76	097-597-6890	097-597-6815	4420
廣田 武聖	(株)建設技術研究所 九州支社	810-0041	福岡市中央区大名2-4-12	092-714-2211	092-715-5200	4430
廣松 敏幸	(株)エム・ケー・コンサルタント	816-0082	福岡市博多区麦野6-14-19	092-573-2777	092-573-9042	4440
フ 深水賢治郎	(株)エム・ケー・コンサルタント	816-0082	福岡市博多区麦野6-14-19	092-573-2777	092-573-9042	4460
福井 基彦	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6934	092-741-3499	4470
福島 邦治	(株)日本ピーエス	812-0025	福岡市博多区店屋町1-31	092-262-5120	092-262-5171	4475
福田 秀樹	(株)東光コンサルタンツ	810-0022	福岡市中央区薬院4-18-33	092-524-3401	092-524-3404	4481
福山 俊弘	(株)福山コンサルタント	730-0016	広島市中区鞆町5-1	082-502-8800	082-221-4001	4500
藤井 利治	(財)福岡アジア都市研究所	810-0001	福岡市中央区天神1-10-1	092-733-5683	092-733-5680	4510
藤尾 保幸	(株)建設技術研究所 九州支社	810-0041	福岡市中央区大名2-4-12	092-714-6226	092-715-5200	4520
藤木 剛	(株)長大 福岡支社	810-0004	福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-737-8360	092-737-8371	4543
藤田 明彦	ショーボンド建設(株) 九州支店	812-0014	福岡市博多区比恵町9-26	092-451-4405	092-451-4390	4550
藤村 豊	大福コンサルタント(株)	807-0053	遠賀郡水巻町下二東3-8-1	093-202-4516	093-202-4516	4560
藤本 良雄	(株)富士ビー・エス	105-0004	東京都港区新橋4丁目24-8	03-3432-6454	03-3438-0919	4570
藤本圭太郎	(株)建設技術研究所 九州支社	810-0041	福岡市中央区大名2-4-12	092-714-6226	092-715-5200	4568
藤原 正敏	(株)荒谷建設コンサルタント	730-0847	広島市中区舟入南4-14-15	082-234-5661	082-234-4961	4575
淵田 邦彦	八代工業高等専門学校	866-8501	八代市平山新町2627	0965-53-1346	0965-53-1349	4580
府内 洋一	(株)富士ビー・エス	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-2-11	092-721-3475	092-714-3942	4590
古川 浩平	山口大学工学部社会建設工学科	755-0031	宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9327	0836-85-9301	4610
古川 愛子	九州大学大学院助手	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3268	092-642-3268	4608
古道 正男	(株)エフディイー	810-0004	福岡市中央区渡辺通2-4-8	092-771-0831	092-714-7435	4625
ハ 平安山良和	(株)ピーエス三菱	810-0072	福岡市中央区長浜2-4-1	092-739-7002	092-739-7016	4629
ホ 細井 義弘	新構造技術(株)	331-0063	さいたま市西区プラザ25-12	03-5626-1671	03-5626-1677	4630
堀之内真一	西日本技術開発(株)	810-0004	福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-781-0259	092-724-6529	4650
マ 前口 剛洋	西日本工業大学工学部建築学科	800-0394	福岡県京都郡菟町新津1633	0930-23-1491	0930-24-7900	4660
前田 悦孝	新日鐵高炉セメント(株)	803-0801	北九州市小倉北区西港町16	093-884-1753		4690
前田 良刀	九州共立大学工学部	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3229	093-693-3225	4700
牧角 龍憲	九州共立大学工学部土木工学科	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3233	093-693-3225	4710
牧瀬 猛	大野コンクリート(株)	819-0036	福岡市西区吉武61-1	092-811-6692	092-812-4135	4720
真崎 洋三	(株)構造技術センター 福岡支社	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-5-7	092-471-1655	092-481-0318	4730
益井 征夫	(株)構造技術センター	215-0021	川崎市麻生区上麻生2-14-8	044-951-0802		4740
益田 康一	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3651	4750
松尾 一四		807-1154	北九州市八幡西区楠北1丁目1-2	093-617-0767	093-617-0767	4780
松尾 栄治	山口大学工学部社会建設工学科	755-8611	宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9349	0836-85-9301	4775
松尾 浩二	九州旅客鉄道株式会社	812-8566	福岡市博多区博多駅前3-25-21	092-474-2452	092-474-2675	4781
松岡 恭子	(株)スピングラス・アーキテクト	810-0062	福岡市中央区荒戸3-2-5-1001	092-732-3121	092-711-9551	4810
真次 寛	福岡市環境局施設課	810-0001	福岡市中央区天神1-8-1	092-711-4312	092-733-5592	4820
松崎 隆彦	西日本技術開発(株)	810-0004	福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-781-0259	092-724-6529	4830
松崎 宏文	(株)オリエンタルコンサルタンツ	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209		4840
松下 博通	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3269	092-642-3271	4850

	氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人コード
	松下 幸正	(株)西部技術コンサルタント	812-0016	福岡市博多区博多駅南4-18-12	092-437-5711	092-437-5712	4860
	松園 秀雄	(株)アルス製作所 九州営業所	819-0054	福岡市西区上山門1-20-7-302	090-2787-187	050-3493-455	4885
	松田 浩	長崎大学工学部構造工学科	852-8521	長崎市文教町1-14	095-819-2590	095-819-2590	4870
	松田 泰治	熊本大学大学院	860-8555	熊本市黒髪2-39-1	096-342-3532	096-342-3507	4880
	松永 静男	佐世保重工業(株)	857-8501	佐世保市立神町	0956-25-9111	0956-25-9109	4900
	松永 昭吾	(株)建設技術研究所 九州支社	810-0041	福岡市中央区大名2-4-12	092-714-2211	092-715-5200	4915
	松本 忠昭	メック(株)	810-0014	福岡市中央区平尾3-25-1	092-526-0441	092-526-0448	4950
	松本 直弥	(有)プラネット・エム	858-0924	佐世保市星和台町24-18	0956-28-4384	0956-28-4384	4955
	丸山 巖		870-0397	大分市上野丘西13-4	097-543-5627	097-543-5627	4970
	万代 幸二	福岡市南区役所	815-8501	福岡市南区塩原3-25-1	092-559-5090	092-559-5096	4980
ミ	三池 亮次	熊本大学名誉教授	862-0950	熊本市水前寺3-12-12-701	096-383-2893	096-383-2893	4990
	三浦 房紀	山口大学工学部	755-0031	宇部市常盤台2-16-1	0836-85-9536	0836-85-9536	5000
	三浦 正昭	日本文理大学工学部	870-0316	大分市大字一木1727	097-592-1600	097-593-2071	5010
	三浦 泰博	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3499	5020
	右田 隆雄	福岡県 道路維持課	812-8577	福岡市博多区東公園7-7	092-643-3654	092-643-3658	5030
	右田 泰弘	九州東海大学工学部都市工学科	862-8652	熊本市渡鹿9-1-1	096-386-2702	096-386-2759	5040
	御厨 祐也	(株)エム・ケー・コンサルタント	816-0082	福岡市博多区麦野6-14-19	092-573-2777	092-573-9042	5042
	三品 吉彦	木橋文化研究所	344-0038	埼玉県春日部市大沼1-43-B-402	048-737-3472	048-737-3472	5045
	水田 洋司	九州産業大学工学部	813-8503	福岡市東区松香台2-3-1	092-673-5671	092-673-5093	5060
	水田 富久	(株)クローバーテクノ	812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17	092-451-1117	092-451-6700	5055
	三井 欣二	(株)富士ピー・エス 大分営業所	870-0155	大分市高城南町9-19	097-503-1707	097-503-1709	5050
	峰 嘉彦	(株)横河ブリッジ	592-8331	大阪府堺市築港新町2-3	072-241-1147	072-241-2801	5070
	三原 徹治	九州共立大学工学部	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3230	093-693-3225	5080
	宮川 邦彦	九州産業大学工学部土木工学科	813-0004	福岡市東区松香台2-3-1	092-673-5677		5090
	宮地 宏吉	豊福設計(株)	810-0073	福岡市中央区舞鶴3-2-4	092-751-4204	092-712-4089	5120
	宮村 重範	西田鉄工(株)	861-1323	菊池市西寺1075	0964-23-1111	0964-26-1001	5140
	宮本 文穂	山口大学工学部	755-8611	宇部市常盤台2557	0836-85-9530	0836-85-9530	5141
ム	向井 法嗣	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	5143
	武藤 賢司		470-0202	愛知県西加茂郡三好町三好丘7-14-1	0561-36-5614		5145
	村岡 公範	コーアツ工業(株)	890-0008	鹿児島市伊敷5-17-5	099-229-8181	099-220-2338	5160
	村田 孝治	新構造技術(株) 九州支店	812-0012	福岡市博多区博多駅中央街8-36	092-451-4281	092-414-8458	5180
	村田 秀一		755-0094	宇部市ひらき台1-13-8	0836-33-8703	0836-33-8703	5170
	村山 隆之	(株)長大 福岡支社	810-0004	福岡市中央区渡辺通1-1-1	092-737-8360	092-737-8371	5190
モ	本山 彰彦	日本交通技術(株)九州支店	812-0012	福岡市博多区博多駅中央街8-20	092-433-3070	092-433-3075	5210
	森 勝	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6934	092-741-3499	5215
	森口 秀光	(株)技術開発コンサルタント	810-0001	福岡市中央区天神1-2-4	092-712-2518	092-721-6815	5220
	森下 正浩	高知県中村土木事務所	787-0010	高知県中村市古津賀1441	0880-34-5222	0880-35-5328	5230
	森田 千尋	長崎大学大学院	852-8521	長崎市文教町1-14	095-819-2591	095-819-2591	5250
	森本 光高	(株)ダンテック 福岡事業所	813-0043	福岡市東区名島2-28-12	092-673-0666	092-673-0286	5260
	森山 容州	新日鉄関東エスメント(株)	103-0027	東京都中央区日本橋3-14-5	03-5204-8871	03-5204-8870	5270
ヤ	安永 英治	福岡市土木局	810-8620	福岡市中央区天神1-8-1	092-711-4462		5300
	安波 博道	財団法人土木研究センター	300-2624	茨城県つくば市西沢2-2	029-864-2521	029-864-2515	5301

氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人コード
矢立 仁志	(株)シビコン	862-0954	熊本市神水1-25-11	096-340-1733	096-340-1744	5303
柳 健太郎	(財)九州環境管理協会	813-0004	福岡市東区松香台1-10-1	092-662-0410		5310
山尾 敏孝	熊本大学大学院	860-8555	熊本市黒髪2-39-1	096-342-3533	096-342-3507	5320
山口 栄輝	九州工業大学工学部	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3110	093-884-3100	5330
山口 健市	(株)ピー・エス三菱 九州支店	810-0072	福岡市中央区長浜2-4-1	092-739-7002	092-739-7016	5335
山口 浩平	九州大学大学院工学研究院	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1	092-642-3309	092-642-3309	5346
山口 正剛	中央コンサルタンツ(株)	810-0062	福岡市中央区荒戸1-1-6	092-722-2541	092-721-0893	5345
山崎 明	(株)長大 大阪支社	550-0013	大阪市西区新町2丁目20-6	06-6541-5793	06-6541-5485	5350
山崎 竹博	九州工業大学工学部	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-884-3115	093-884-3100	5360
山下 正寛	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3499	5370
山下孝太郎	(株)富士ピー・エス 九州支店	810-0073	福岡市中央区舞鶴2丁目2-11	092-721-3484	092-714-3786	5365
山下 裕司	九州電力(株) 総合研究所	815-8520	福岡市南区塩原2-1-47	092-541-2910	092-551-1583	5380
山田 益司	(株)オリエンタルコンサルタンツ	812-0011	福岡市博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209	092-411-3086	5400
山田 頼史	九州地区コンクリート診断士センター	812-0053	福岡市東区箱崎5-11-3-1107	092-641-8667	092-641-8667	5407
山登 武志		185-0035	国分寺市西町1-5-87	03-3668-0451	03-5695-0249	5410
大和 竹史	福岡大学工学部社会デザイン工学科	814-0180	福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631	092-864-8901	5420
山中 稔	香川大学工学部安全システム建設工学科	761-0396	高松市林町2217-20	087-864-2158	087-864-2188	5425
山根 誠一	日本工営(株) 福岡支店	812-0007	福岡市博多区東比恵1-2-12	092-475-7553	092-475-4330	5427
山部 宏伸	山部建設環境計画(有)	810-0012	福岡市中央区白金2-13-1	092-533-8133	092-533-8134	5430
山本 正治	大成建設(株) 九州支店	810-8511	福岡市中央区大手門1-1-7	092-771-1029	092-771-1543	5460
山本 恭久	福岡市土木局	810-0041	福岡市中央区大名2-5-31	092-711-4461	092-733-5591	5470
山本 和雄	(有)アイセック	810-0062	福岡市中央区荒戸1-8-5-701	092-715-4130	092-715-4844	5435
ユ 湯谷 功	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931		5500
用具 洋	(株)日本ピーエス	812-0025	福岡市博多区店屋町1-31	092-262-5120	092-262-5171	5505
ヨ 横尾 正義	新日本製鉄(株) 八幡製鉄所	804-0001	北九州市戸畑区飛幡町1-1	093-872-6674	093-872-6574	5510
横田 漢	宮崎大学工学部土木環境工学科	889-2192	宮崎市学園木花台西1-1	0985-58-7330	0985-58-7344	5520
横山 順一	(株)ピーエス三菱 九州支店	810-0072	福岡市中央区長浜2-4-1	092-739-7004	092-739-7016	5523
横山 浩	国土交通省九州地方整備局	822-0013	福岡県直方市溝掘1-1-1	0949-22-1830		5525
吉田 須直	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6931	092-741-3499	5560
吉田 一路	九州工営(株)	880-0015	宮崎市大工2-117	0985-28-1122	0985-28-1105	5555
吉武 範幸	福岡県飯塚土木事務所	820-0004	飯塚市新立岩8-1	0948-21-4942	0948-25-6280	5550
吉次 善望	(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支社	812-0011	博多区博多駅前3-2-8	092-411-6209	092-411-3086	5570
吉留 秋実		899-5421	鹿児島県始良郡始良町東餅田	0995-66-4205	0995-66-4205	5580
吉野 博	オリエンタル建設(株) 福岡支店	810-0001	福岡市中央区天神4-2-31	092-761-6933		5590
吉原 進	鹿児島大学名誉教授	899-2501	日置市伊集院町下谷口1185-44	099-272-4386	099-272-4386	5595
吉村 健	九州産業大学工学部	813-8503	福岡市東区松香台2-3-1	092-673-5679	093-673-5093	5600
吉村 優治	岐阜工業高等専門学校	501-0495	岐阜県本巣市上真桑	058-320-1401	058-320-1409	5610
ワ 若菜 啓孝	東和大学工学部	815-0036	福岡市南区筑紫ヶ丘1-1-1	092-541-1527	092-541-1527	5650
若林祐一郎	基礎地盤コンサルタンツ(株)	814-0022	福岡市早良区原2-16-7	092-831-2511	092-831-5445	5685
渡辺 明	九州工業大学名誉教授	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1-1	093-693-3200	093-693-3258	5660
渡辺 宏明	オリエンタル建設(株) 宮崎営業所	880-0805	宮崎市橘通東5-4-8	0985-24-6728		5670
渡辺 浩	福岡大学工学部社会デザイン工学科	814-0180	福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631	092-871-6661	5680

氏名	勤務先	〒	住所	電話番号	FAX	個人 コード
渡邊 健	徳島大学工学部建設工学科	770-8506	徳島県徳島市南常三島町2-1	088-656-7320	088-656-7351	5665

正会員 (第2種)

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	電話番号 FAX番号	個人 コード
ア (株)浅沼組 九州支店	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-14-8	藤本 謙介 (中谷 悦男)	092-411-0636 F092-481-9462	3010
(株)安部工業所 九州支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-12-6 花村ビル	谷口 徹 (湊 敬文)	092-441-5481 F092-441-4517	3020
イ 石川島播磨重工業(株)	〒737-0831 広島県呉市光町5-17	岩崎 初美 (河原謙二郎)	0823-26-1290 F0823-26-1491	3060
ウ 宇部興産機械(株)	〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-24 福岡三和ビル7F	山本 忠守 (山田 悦子)	092-781-2649 F092-713-5469	3070
エ エイコー・コンサルタンツ(株)	〒815-0031 福岡市南区清水1-14-20 AECビル3F	青木 春彦 (吉崎 信之)	092-557-2821 F092-557-2820	3080
(株)エム・ケー・コンサルタント	〒816-0082 福岡市博多区麦野6-14-19	深水賢治郎 (深水賢治郎)	092-573-2777 F092-573-9042	3095
(有)エムテック	〒818-0062 福岡県筑紫野市針摺571-36	松本 秀満 (松本 秀満)	092-921-6873 F092-921-7649	3096
オ オイレス工業(株) 九州営業所	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-3-1	山口 浩司 (山口 浩司)	092-441-9298 F092-474-0627	3097
(株)奥村組 九州支店	〒805-0017 北九州市八幡東区山王2-19-1	木下 義照 (稲尾 修)	093-671-3131 F092-661-1543	3130
オリエンタル建設(株) 福岡支店	〒810-0001 福岡市中央区天神4-2-31 第2サンビル	山田 修司 (安部 邦弘)	092-761-6931 F092-741-3499	3140
(株)オリエンタルコンサルタンツ	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-2-8 住友生命博多ビル12F	(渡辺 英夫)	092-411-6209 F092-411-3086	3150
カ 鹿児島土木設計(株)	〒891-0115 鹿児島市東開町12-10	篠原 誠 (篠原 誠)	099-260-6262 F099-260-7456	3155
鹿島建設(株) 九州支店	〒812-8513 福岡市博多区博多駅前3-12-10	平田 光宏 (濱中 聡生)	092-441-0211 F092-481-8843	3160
片山ストラテック(株) 九州営業所	〒810-0041 福岡市中央区大名1-9-27 第一西部ビル	上村 達章 (上村 達章)	092-761-2362 F092-761-1999	3180
川口金属工業(株) 大阪支店	〒530-0012 大阪市北区芝田2-6-23 全日空ビル本館9階	川井 文里 (吉田 雅彦)	06-374-3350	3185
川田建設(株) 九州支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル	富田 邦甫 (小林 健二)	092-474-0828 F092-474-0865	3220
川田工業(株) 九州営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル	青木 芳夫 (塚本 岳史)	092-431-7268 F092-473-7288	3230
川鉄橋梁鉄構(株)	〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目17番4号 リバー蔵前ビル	井上 義治 (上村 明弘)	03-5825-1757 F03-5825-1671	3200
キ (株)技術開発コンサルタント	〒810-0001 福岡市中央区天神1-2-4	丸野律志朗 (吉田 恵)	092-712-2518 F092-714-6149	3235
ク 九州電力(株)	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-1-82	渡辺 哲 (河原田寿紀)	092-761-3031 F092-761-9541	3250

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	電話番号 FAX番号	個人 コード
(株)橋梁コンサルタント 福岡支社	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-9-11 大成博多駅東ビル6F	松崎 安則 (徳湖 祐三)	092-461-2011 F092-461-2049	3270
(株)協和コンサルタンツ	〒810-0001 福岡市中央区天神3-11-20 天神エフビル	宮本 修 (舌間 伸吉)	092-733-1241 F092-733-1240	3280
極東工業(株) 福岡支店	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-22 産恵ビル	中川 隆行 (欄田 浩光)	092-473-7541 F092-474-4127	3290
ケ 計測検査(株)	〒807-0821 北九州市八幡西区陣原1-8-3	坂本 武 (舛添 淳一)	093-642-8231 F093-641-2010	3310
(株)計測リサーチコンサルタント	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-2-25	高橋 洋一 (坂東恵里子)	092-474-5206 F092-475-0494	3315
(株)建設技術研究所 九州支社	〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-12 CTI福岡ビル	内村 好 (秦野 長次)	092-714-2211 F092-715-5200	3320
(株)建設技術コンサルタンツ	〒890-0007 鹿児島市伊敷町1-22-1	安水 節 (若松 節雄)	099-229-2800 F099-229-2828	3323
コ コーアツ工業(株)	〒890-0008 鹿児島市伊敷5-17-5	村岡 公範 (萩原 清文)	099-229-1115 F099-229-1117	3326
(株)構造技術センター 福岡支社	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル	奥 賢治 (有本 洋子)	092-471-1655 F092-481-0318	3330
(株)構造計画研究所	〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3	金山 亨 (金山 亨)	03-5342-1138 F03-5342-1238	3329
国際航業(株) 九州支社	〒812-0008 福岡市博多区博多駅東3-6-3	前田 和則 (柴田 正文)	092-451-6082 F092-412-9252	3350
(株)国土技術コンサルタンツ	〒890-0008 鹿児島市伊敷2丁目14-10	安永 幸信 (東 正美)	099-229-0030 F099-229-0474	3356
国土工営コンサルタンツ(株)	〒815-0075 福岡市南区長丘2-25-43 長丘リーゼントA-405	筒井 光男 (筒井 光男)	092-512-6362 F092-512-6365	3357
駒井鉄工(株) 九州営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-4-17 第6岡部ビル	古賀 亨 (古賀 亨)	092-441-3665 F092-441-3664	3360
五洋建設(株) 九州支店	〒810-0023 福岡市中央区警固1-12-11	上瀬 純一 (小倉 征巳)	092-781-5156 F092-781-3007	3370
サ 佐世保重工業(株)	〒857-8501 佐世保市立神町	(田中 実雄)	0956-25-9220 F0956-25-9228	3390
山 九(株)	〒806-0001 北九州市八幡西区築地町16-1	小山 哲郎 (奥田 正裕)	093-645-7252 F093-644-7139	3420
(株)山九ロードエンジニアリング	〒806-0001 北九州市八幡西区築地町16-1	村上 俊明 (三木 甫)	093-631-7339 F093-631-6822	3425
サンコーコンサルタント(株)	〒812-0802 福岡市博多区中洲中島町2-3 フジランドビル	河野 義憲 (谷口 達也)	092-271-2903 F092-262-1146	3440
シ (株)CRCソリューションズ	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4-1-3	岩崎 敏生 (岩崎 敏生)	06-6241-4121 F06-6241-4136	3446

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	電話番号 FAX番号	個人 コード
ジーアンドエスエンジニアリング(株)	〒812-0007 福岡市博多区東比恵3-24-9	小峰 康裕 (加藤 玲)	092-481-3100 F092-481-3777	3530
ジェイアール九州コンサルタンツ(株)	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-13-6 竹山博多ビル	東島興一郎 (鶴岡 達夫)	092-413-1020 F092-413-1022	3465
JIPテクノサイエンス(株) 福岡テクノセンター	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル9F	井口 安英 (井口 安英)	092-724-6175 F092-724-6176	3460
JST(株) 若松工場	〒808-0023 北九州市若松区北浜1-7-1	橋本 秀成 (橋本 秀成)	093-751-5312 F093-751-2877	3890
ショーボンド建設(株) 九州北支店	〒812-0014 福岡市博多区比恵町9-26	(藤田 明彦)	092-451-4385 F092-451-4390	3470
神鋼鋼線工業(株)九州支店	〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街1-1 新幹線博多ビル7F	岸田 勝昭 (松帆 雄二)	092-441-5998 F092-471-8380	3475
新構造技術(株) 九州支店	〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル	松村 美樹 (津崎 博美)	092-451-4281 F092-414-8458	3480
新日鐵高炉セメント(株)	〒803-0801 北九州市小倉北区西港16	近田 孝夫 (前田 悦孝)	093-563-5103 F093-563-5109	3485
新日鐵エンジニアリング(株)	〒100-8071 東京都千代田区大手町2-6-3	(坂本 良文)	03-3275-7615 F03-3275-5971	3510
新日本技研(株)福岡支店	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-9-2	梶田 順一 (和泉 潔)	092-413-0912 F092-413-0942	3535
セ (株)SNC	〒811-2202 福岡県粕屋郡志免町大字志免90	筒井 誠五 (筒井 誠五)	092-935-1384 F092-935-4379	3500
(株)銭高組 九州支店	〒812-0025 福岡市博多区店屋町2-16	渡辺 健	092-291-3986 F092-291-3985	3560
セントラルコンサルタント(株)	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-11-28	(赤瀬 哲也)	092-432-5385 F092-432-5386	3565
ソ (株)総合技術コンサルタント	〒810-0041 福岡市中央区大名2-10-29 福岡ようきビル	坂口 和雄	092-712-0624 F092-751-8279	3570
タ 第一復建(株)	〒816-0094 福岡市博多区諸岡1-7-25	入江 義徳 (上田平智恵)	092-575-1515 F092-575-5557	3630
大成建設(株) 九州支店	〒810-8511 福岡市中央区大手門1-1-7	(山本 稔)	092-771-1029 F092-741-4687	3580
大日本コンサルタント(株)	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-19 サンライフ第3ビル	西正 嘉夫 (梅崎 秀明)	092-441-0433 F092-482-4033	3633
大福コンサルタント(株)	〒890-0068 鹿児島市東郡元町17-15	福田 光一 (福田 光一)	099-251-7075 F099-256-8534	3635
瀧上工業(株) 福岡営業所	〒810-0062 福岡市中央区荒戸1-11-6	牛島 欣哉 (牛島 欣哉)	092-741-1253 F092-741-4811	3620
チ 中央コンサルタンツ(株)	〒810-0062 福岡市中央区荒戸1-1-6	岡出 章 (武林 和彦)	092-722-2541 F092-721-0893	3650

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	電話番号 FAX番号	個人 コード
(株)長大 福岡支社	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1 サンセルコビル6F	谷口 正博 (中尾 好幸)	092-737-8360 ☎092-737-8371	3660
(株)千代田コンサルタント	〒810-0041 福岡市中央区大名1-15-33 福岡セントラルビル3F	村上 健 (勝谷 康之)	092-752-1601 ☎092-752-1631	3670
ツ 辻産業(株) 鉄構設計部	〒858-0908 佐世保市光町177-2	林 誠治 (林 誠治)	0956-47-3116 ☎0956-48-5440	3680
ト 東亜建設工業(株) 九州支店	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル6F	岡 和男 (高木 幸二)	092-472-3712	3700
(株)東京鐵骨橋梁防府工場	〒747-0833 山口県防府市大字浜方字鶴浜283-1	今井 静哉 (今井 静哉)	0835-23-6293 ☎0835-24-4912	3730
東洋建設(株) 九州支店	〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-24 三和ビル	高橋 征司 (荒木 英二)	092-761-5541 ☎092-761-5864	3740
戸田建設(株) 九州支店	〒810-8502 福岡市中央区白金2-13-12	西川 長秀 (深見 和宏)	092-525-0354 ☎092-525-0369	3746
ドービー建設工業(株) 九州支店	〒812-0018 福岡市博多区住吉2-2-1 JPRスクエア博多イースト	山崎 英志 (副島 聡)	092-281-8765 ☎092-281-8769	3770
トビー工業(株) 福岡営業所	〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-2-11 富士ビル赤坂	岩澤 亨 (岩澤 亨)	092-752-1919 ☎092-735-1144	3760
ナ (株)名村造船所 鉄構事業部	〒848-0121 佐賀県伊万里市黒川町塩屋5-1	森 輝俊 (荒川 正彦)	0955-27-1130 ☎0955-27-0866	3773
ニ 西田鉄工(株)	〒869-0494 宇土市松山町4541	西田 進一 (寺地 弘幸)	0964-23-1111 ☎0964-26-1001	3776
西鉄シー・イー・コンサルタント(株)	〒815-0033 福岡市南区大橋2-8-1	本木 正之 (井上 陽夫)	092-511-2441 ☎092-511-2499	3780
西日本技術開発(株)	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1	原田 健作 (篠原 覚二)	092-781-1403 ☎092-761-7292	3790
西松建設(株) 九州支店	〒810-0023 福岡市中央区警固2-17-30 ソロンけやき通りビル	有吉 隆彌 (上林 武司)	092-771-3121 ☎092-752-4982	3810
日鉄鉦コンサルタント(株)	〒820-0053 飯塚市伊岐須字井手浦1-356	松岡 正章 (猶塚 正人)	0948-22-0184 ☎0948-29-5340	3815
日本交通技術(株)九州支店	〒8120012 福岡市博多区博多駅前中央街8-20	本山 彰彦 (石松 雅範)	092-433-3070 ☎092-433-3073	3817
日本技術開発(株) 九州支社	〒812-0013 福岡市博多区博多駅前3-13-21 エフビル	正本 実 (宮本 宏一)	092-441-4344 ☎092-441-4341	3825
日本橋梁(株) 播磨工場	〒675-0164 兵庫県加古郡播磨町東新島3番地	小西日出幸 (小西日出幸)	078-941-3750 ☎078-949-2119	3830
日本建設コンサルタント(株)	〒812-0016 福岡市博多区博多駅前2-4-11 シティコート中陽	福石 国丸 (佐藤 裕二)	092-411-5914 ☎092-474-1610	3832
日本工営(株)	〒102-8539 東京都千代田区麴町4-2		03-3238-8116 ☎03-3238-8094	3835

会社名	連絡先	代表者 (連絡者)	電話番号 FAX番号	個人 コード
日本工営(株) 福岡支店	〒812-0007 福岡市博多区東比恵1-2-12 R&Fセンタービル5F	赤堀 智幸 (赤堀 智幸)	092-475-7553 F092-475-4330	3840
(株)日本ピーエス	〒812-0025 福岡市博多区店屋町1-31 ダヴィンチ博多7F	千竈 康正 (松延 繁)	092-262-5120 F092-262-5171	3910
日本フィジカルアコースティクス(株)	〒150-0011 東京都渋谷区東2-17-10 岡本LKビル	(湯山 茂徳)	03-3498-3570	3915
(株)ニューテック九州支店	〒810-0072 福岡市中央区長浜2-4-1 東芝福岡ビル	村田 博美 (村田 博美)	092-739-7030 F092-739-7031	3917
ハ パシフィックコンサルタンツ(株)	〒819-0007 福岡市西区愛宕南1-1-7 パシコン福岡ビル	長谷川伸一 (今門 益雄)	092-885-5005 F092-885-5004	3940
ヒ (株)ピーエス三菱 九州支店	〒810-0072 福岡市中央区長浜2-4-1 東芝福岡ビル	吉田 康幸 (小林 康人)	092-739-7002 F092-739-7016	3970
東日本鉄工(株) 福岡営業所	〒812-0029 福岡市博多区古門戸町1-13 ル・モンド博多	清水 良美 (清水 良美)	092-282-0218 F092-282-0246	3950
ピーシー橋梁(株) 九州支店	〒810-0011 福岡市中央区高砂1-11-3 福岡ゼネラルビル	前羽 康至 (佐藤 益弘)	092-523-4461 F092-523-4653	3980
フ (株)福山コンサルタント	〒730-0016 広島市中区鞆町5-1	山本 洋一 (福山 俊弘)	082-502-8800 F082-221-4001	3990
(株)フジタ 九州支店	〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル	星野 順二 (辰己 元秀)	092-411-9662 F092-461-2676	4010
(株)富士ビー・エス	〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-2-11 富士ビル赤坂	河野 文將 (久米 司)	092-721-3495 F092-721-3460	4020
(株)フローリック コンクリート研究所	〒300-2622 茨城県つくば市要33-1	平原 久嗣 (藤田 康彦)	029-877-1945 F029-864-3550	4035
ミ 三井住友建設(株) 九州支店	〒810-8623 福岡市中央区港1-3-1	坂口 修滋 (緒方 修滋)	092-761-1443 F092-761-6617	4080
三菱重工橋梁エンジニアリング(株)	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前二丁目2-1	西福元 勝 (西福元 勝)	092-441-3856 F092-441-3747	4120
(株)宮地鐵工所 福岡営業所	〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35 富士火災福岡ビル	(田中 輝)	092-751-1206 F092-731-4080	4140
ヤ 八千代エンジニアリング(株)	〒810-0062 福岡市中央区荒戸2-1-5	小嶋 順一	092-751-1431 F092-725-0581	4155
ヨ 横河工事(株)	〒170-8452 東京都豊島区西巣鴨4-14-5	廣田 和彦 (金子 鉄男)	03-3576-5914 F03-3576-5941	4180
(株)横河ブリッジ 福岡営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-15-19 KS・T駅東ビル3F	(峰 嘉彦)	092-431-6187 F092-451-5286	4170
ワ 若築建設(株) 九州支店	〒812-0035 福岡市博多区中呉服町2-1	菅野 幸裕 (和田 誠一)	092-281-4511 F092-291-5561	4190

編集後記

昨年から鋼構造診断士の資格が設置され、第1回の試験が実施されました。KABSEのメンバーからも合格者が出ております。今号の会誌から「合格体験記」の技術士、コンクリート診断士に加え、鋼構造診断士の合格体験記を掲載していく予定です。

今後、会報をさらに充実させ、会員の皆様のお役に立てるように努力して参ります。

会報の構成、内容等に関して、お気づきの点が御座いましたら、お知らせ頂ければ幸いです。

平成18年度編集小委員会構成

委員長	貝沼 重信 (九州大学)
副委員長	山根 誠一 (日本工営㈱)
委員	合田 寛基 (九州工業大学)
	佐川 康貴 (九州大学)
	園田 佳巨 (九州大学)
	松尾 栄治 (山口大学)
	山下 裕司 (九州電力㈱)

九州橋梁・構造工学研究会会報

平成18年8月31日 発行

編集

会報編集小委員会

発行事務局

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1

サンセルコビル6F

(株)長大 福岡支社内

村山 隆之

Tel/Fax 092-737-8570

e-mail jim@kabse.com

月～金10:00～17:00

のみの受付です

印刷所 アイメディア株式会社

〒810-0075 福岡市中央区港2-11-8

電話 (092)721-0769

土木構造・材料論文集

第21号 2005年

目 次

招待論文

行基と野中兼山	出光 隆・畑岡 寛	1
---------------	-----------------	---

技術展望

社会基盤施設の運用に求められるリスクマネジメント	松田泰治	13
--------------------------------	------------	----

講演論文

競争時代の鋼系橋梁の設計	長井正嗣	17
--------------------	------------	----

論文・報告

落橋防止構造のブラケット・ピンの接触圧分布に関する研究	安東・山縣・小嶋・山下・松田	27
熱赤外線映像法を用いた自然状態下における道路橋変状調査手法の研究	浅利・吉岡・後藤・渡邊	35
実道路橋変状調査への橋体の加熱および冷却を用いた熱赤外線映像法の適用	浅利・後藤・高橋・渡辺	43
円筒タンク構造体の固有振動数と固有モード特性について	水田・高西・川口・菅付	51
接線剛性法の求解特性を用いた多分岐釣合系の追跡	門田・帯屋・井嶋・井口・波照間	57
マルチパターン採用による山岳トンネルの最適支保パターンの選定に関する一考察	山田・幸後・豊岡・長岡・三浦	65
凍結融解および乾湿潤作用下における微小水循環効果によるコンクリートの中性化促進に関する研究	長谷川・徐・須藤・木田・加藤	73
偏心および傾斜荷重を受ける二層地盤上の剛性基礎の支持力解析	平・山本	81
フレーク状PETボトルを利用した流動化処理土の一軸圧縮特性	亀井・松尾・志比	89
試験施工と室内モデル装置による真空圧密工法の圧密促進効果の解明	棚橋・塩野・三原・蔭	97
離島架橋（平戸大橋）の投資効果に関する一考察 -住民の安心・安全を医療の視点から-	犬束・高橋・窪田	105
島原市安中三角地帯の一体的整備の課題と住民の住環境評価	其田・高橋・末吉・中村	111
災害復興における住宅及び集落再建対策の課題	木村・高橋・永野・入山	119
有ヒンジPC箱けた橋の応力開放法によるプレストレスト推定と中央ヒンジ部の異常たわみ原因の推定	肥田・神野・永吉・高橋・出水	129

投稿要領	135
------------	-----

土木構造・材料論文集投稿要領

1. 内 容

- (1) 土木工学全般、主としては構造・材料工学に関する調査・研究・開発について執筆したもので、理論的なものよりむしろ技術的・工学的に有益で実用性の高いものを歓迎する。できれば、官界・業界・学界共同のものが望ましい。
- (2) 論文集には、投稿原稿の「論文・報告」「資料・解説」「欧文抄訳」の他、依頼原稿の「招待論文」「技術展望」「講演論文」等も掲載する。
- (3) 既発表の論文・報告であっても、内容を追加したり、いくつかの論文を統合する等して再構成したもの、あるいは欧文を和訳したものでよい。その場合、脚注としてその旨を明記する。

2. 投稿資格

論文集への投稿者は、土木学会会員または九州橋梁・構造工学研究会会員であることとする。ただし、連名の場合は1名以上がこの条件を満たしていればよい。

3. 投稿区分

投稿原稿の区分は、その内容に応じて次の3種類とする。

- (1) 「論文・報告」…… 調査・研究・開発の論文・報告
- (2) 「資料・解説」…… 「論文・報告」には適さないが、有益な情報を提供するもの
- (3) 「欧文抄訳」…… 欧文で発表・出版された有益な情報を抄訳したもの

4. 投稿申込方法、申込先および期限

- (1) 投稿を希望する場合には、九州橋梁構造工学研究会（KABSE）のホームページから、土木構造・材料論文集「投稿申込票」をダウンロードのうえ、下記の投稿申込先宛にemail（郵送、FAXでも可）にて投稿申込期限までに申し込む。申込みを受付次第、受領確認を返信する。「投稿要領」、「原稿の書き方」、「原稿作成例」、「査読原稿送付票」および「KABSE論文作成テンプレート」は、九州橋梁構造工学研究会（KABSE）の下記ホームページからダウンロード可能。ダウンロードできない場合はその旨ご連絡されたい。

KABSEのホームページ：<http://www.kabse.com/>（各種刊行物→土木構造・材料論文集をクリック）

- (2) 投稿申込先…………… [11. 原稿提出および問い合わせ先] に記載
- (3) 投稿申込期限…………… 5月31日（消印有効）

5. 原稿提出期限等

原稿提出期限は厳守とし、遅れたものは受け付けない。提出先は [11.原稿提出および問い合わせ先] に記載する。

査読用原稿の提出期限…………… 6月30日（消印有効）

最終原稿（オフセット用）の提出期限……………10月15日（消印有効）

発 刊……………12月（予定）

6. 原稿の書き方

投稿にあたっては、「土木構造・材料論文集原稿の書き方」「原稿作成例」（九州橋梁構造工学研究会（KABSE）の上記ホームページからダウンロード可）を参照されたい。

投稿原稿は、A4用紙に所定のレイアウトで執筆し、ワープロまたはタイプ打ち原稿にして提出する。

論文集は、著者からの最終提出原稿をそのままオフセット印刷する。

投稿原稿1編の目安は、8ページ程度とする。

7. 査読手続き

投稿された「論文・報告」「資料・解説」の原稿については、九州橋梁・構造工学研究会論文集編集委員会（以下、本委員会）で選考した査読者に査読を依頼する。本委員会では、査読結果に基づき、掲載を決定する。

投稿された「欧文抄訳」の原稿については、本委員会または本委員会で選考した適任者がその内容を審査する。

査読に当たって、本委員会は著者に対して問い合わせ、または内容の修正を求めることがある。

査読結果に応じて、本委員会は投稿原稿の「論文・報告」と「資料・解説」の区分の変更を求めることがある。
原稿に関する照会、または修正依頼をしてから所定期日以内に著者から回答や提出がない場合には、本委員会は査読を打ち切ったり、論文集への掲載を取りやめる。

8. 論文投稿料および別刷

別刷は50部単位とする。

- (1) 50部の場合：論文1ページにつき、1,000円とする。
- (2) 50部以上の場合：追加の50部毎に、論文1ページにつき、500円とする。

9. 著作権

論文集に掲載されたものの著作権は著者に属し、九州橋梁・構造工学研究会は出版・編集権を持つものとする。

10. その他

投稿原稿の受付日は、査読用原稿提出期限の日付とする。

カラー写真の印刷費は投稿者の負担とする（およそ5,000円/頁）。

その他の投稿に関する問い合わせは、下記の本委員会編集幹事までご照会下さい。

11. 原稿提出および問い合わせ先

〒852-8521 長崎市文教町1-14

長崎大学工学部構造工学科

松田 浩

Phone/Fax (095) 819-2590 (直通)

e-mail matsuda@st.nagasaki-u.ac.jp

F A X 送 信 状

宛 先：九州橋梁・構造工学研究会事務局 (月～金 10:00～17:00のみの受付です)
FAXは随時受け付けております。

TEL・FAX共用 **092-737-8570**

(〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-1-1 サンセルコビル6F
(株)長大 福岡支社内)

発信元： _____

FAX - -

TEL - -

九州橋梁・構造工学研究会 入会申込書／変更通知書

第1種あるいは第2種のどちらかに所定の内容をお書き下さい。

第1種 (個人会員)

第2種 (法人会員)

フリガナ	フリガナ
氏 名	法 人 名
勤 務 先	代 表 者 職・氏名
所 属 名 〒	連 絡 者 職・氏名 〒
勤 務 先 住 所	住 所
電 話	電 話
F A X	F A X
通 信 欄	通 信 欄

注1) 年会費 第1種 (個人) 3,000円/人 第2種 (法人) 30,000円/口

注2) 第2種会員の代表者は、登録を希望される部署の代表者をお書き下さい。

連絡者とは、本研究会との窓口になっていただく方で、その方宛に会報等の出版物、会費請求書等をお送りさせていただきます。

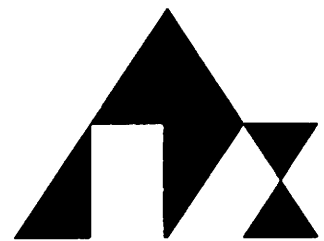
注3) 会費の納入につきましては、入会登録通知とともに、振込用紙をお送りしますので、それに従って納入して下さい。

注4) 勤務先住所や電話番号の変更の場合は、新しい内容を記入して下さい。

KABSE シンボルマークについて

上を向く▲に研究会の将来への発展を祈念した。橋梁のプリミティブな型を「山の吊橋」にイメージを求め、▲の山の中にKyushuのイニシャルKの上部を橋にみたてて組み入れた。

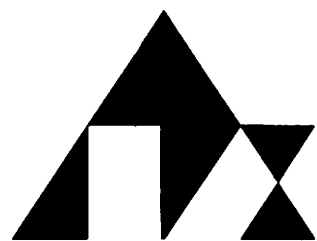
九州産業大学教授 河地 知木



KABSE

KYUSHU ASSOCIATION FOR
BRIDGE AND STRUCTURAL
ENGINEERING

九州橋梁・構造工学研究会



KABSE

KYUSHU ASSOCIATION FOR
BRIDGE AND STRUCTURAL
ENGINEERING

九州橋梁・構造工学研究会